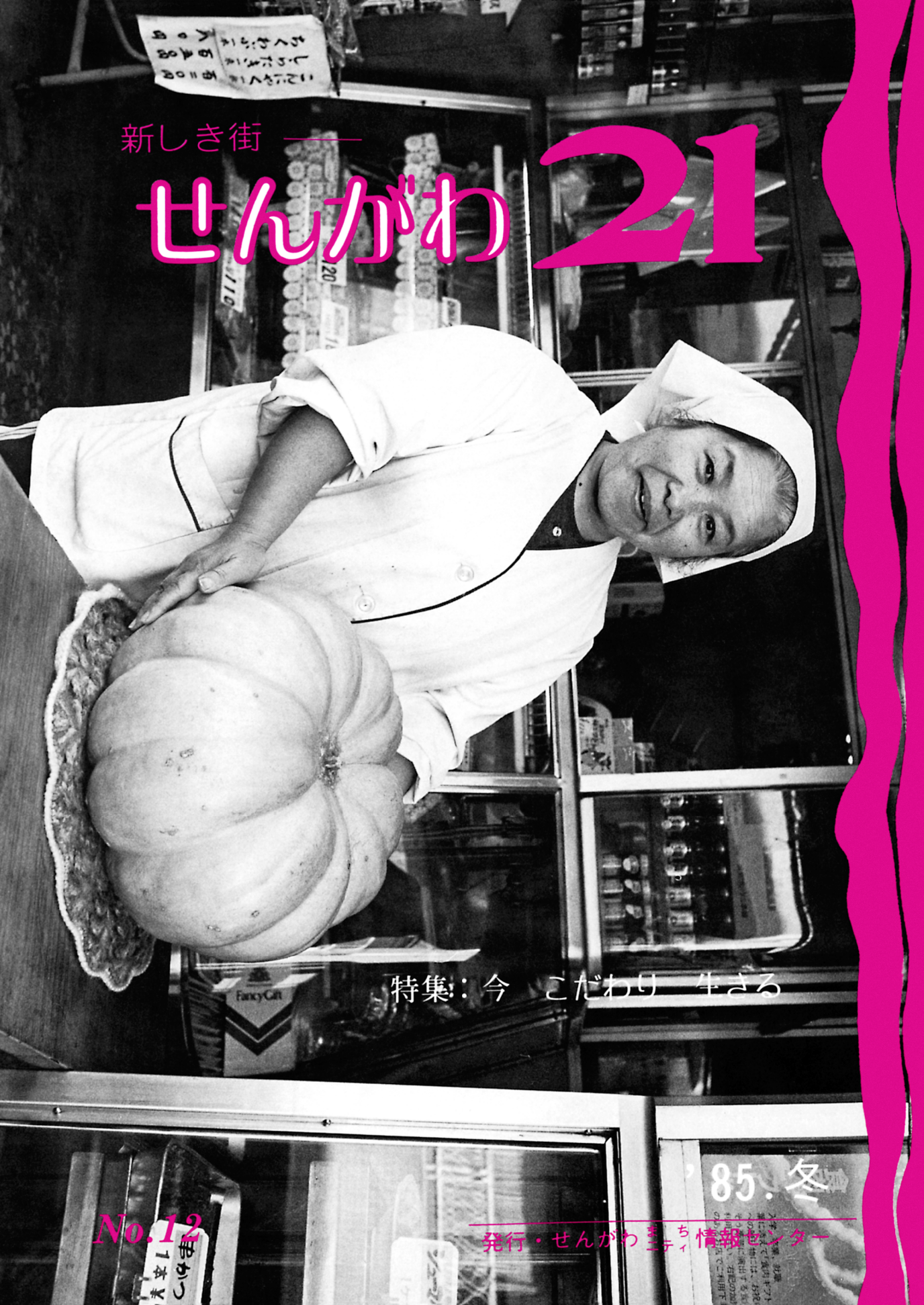
新しき街 ——

せんがわ21



特集：今　こだわり　生きる

No.12

'85.冬

発行・せんがわまちティ情報センター

新発売

銘菓

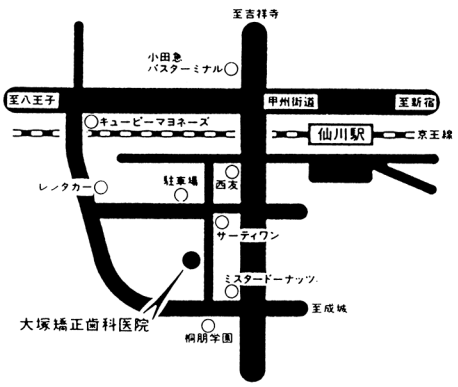
深大柚子

●贈りものにご利用くださいませ●

仙川商店街中央・藤屋ビル１Ｆ
〒３００－０４１６ 南瓜最中本舗 藤屋

大塚矯正歯科医院

歯並びに関するお問い合わせ
御予約はお電話にてお願いいたします
ＴＥＬ３０８－０７０７

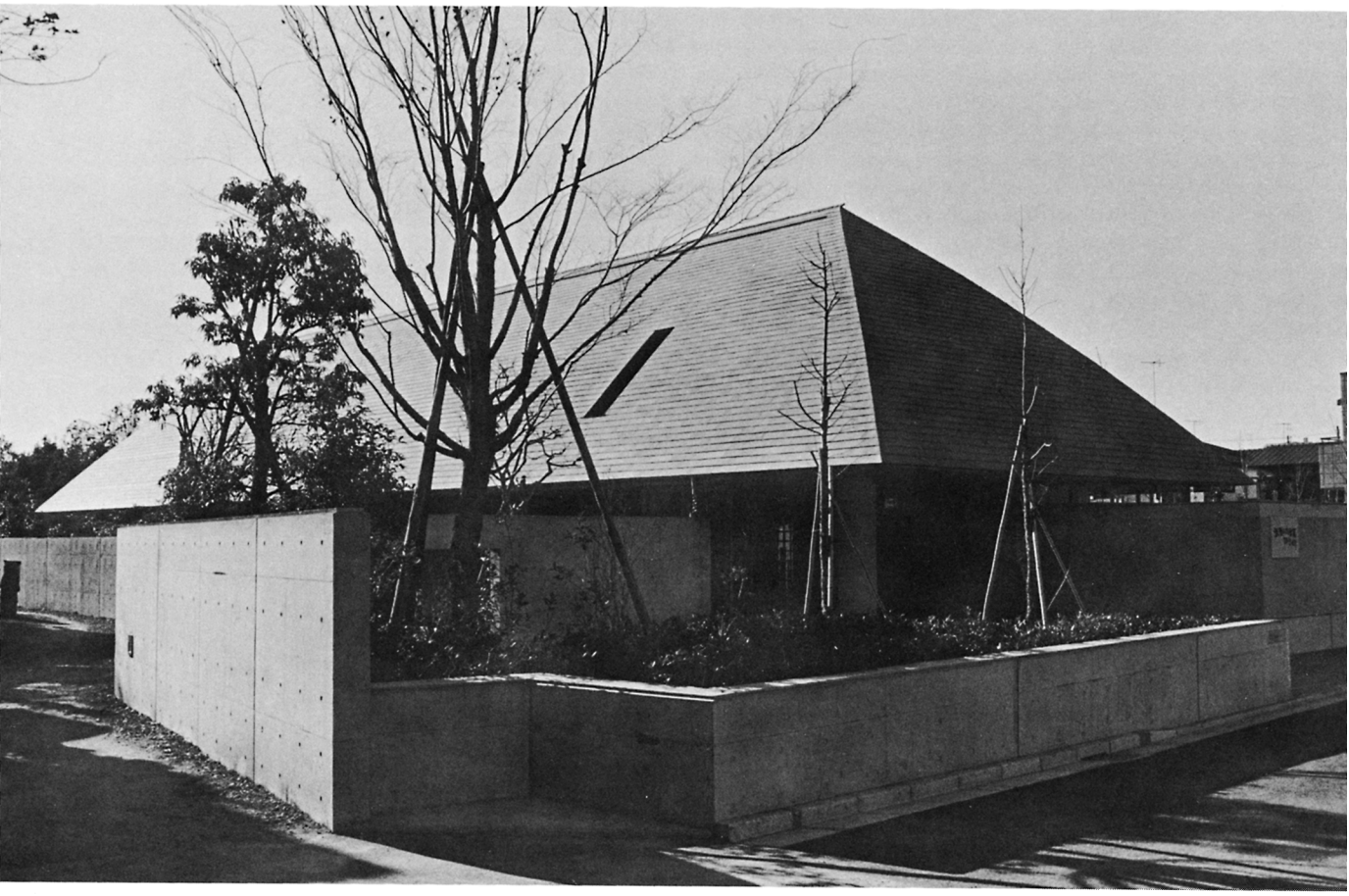


休診日　日曜・祭日・木曜日
診療時間　10：00～１：00　３：00～６：30

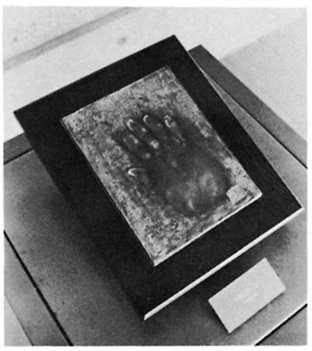
武者小路実篤記念館

10月29日オープンしました

カメラ　丸井　潤＋1



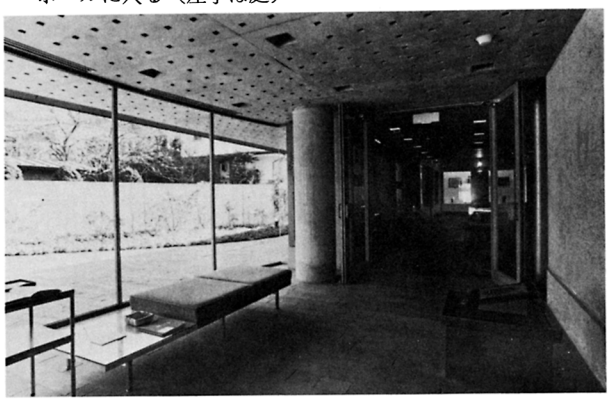
記念館の全景（ふくらみのある寄棟屋根が印象的）



実篤の手型

実篤記念館ってどんなとこ？

ホールに入る（左手は庭）

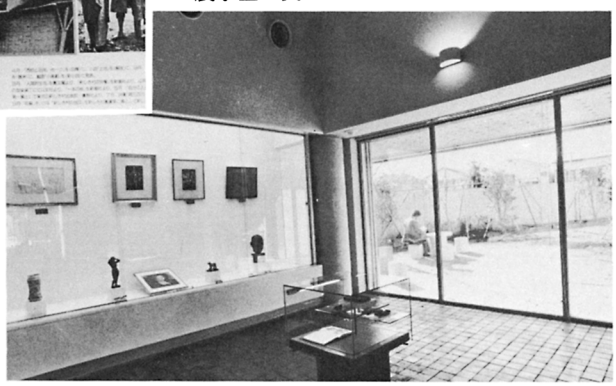


記念館入口

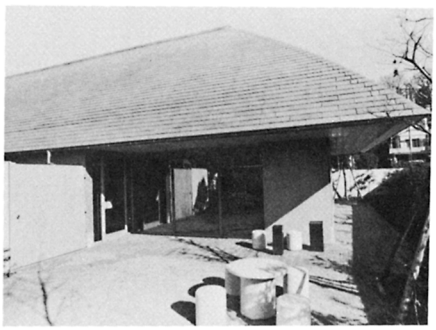
展示室

展示室

展示室の奥から庭を見る

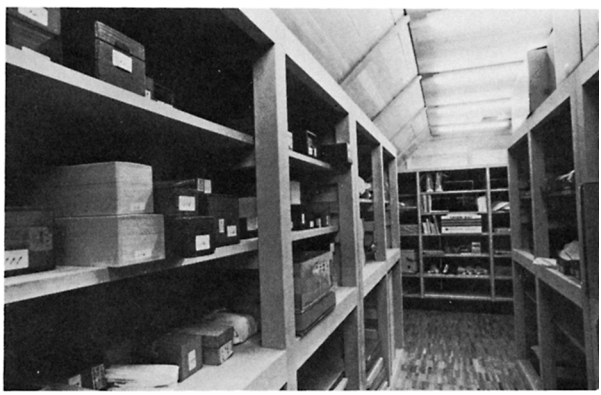


実篤のブロンズ像



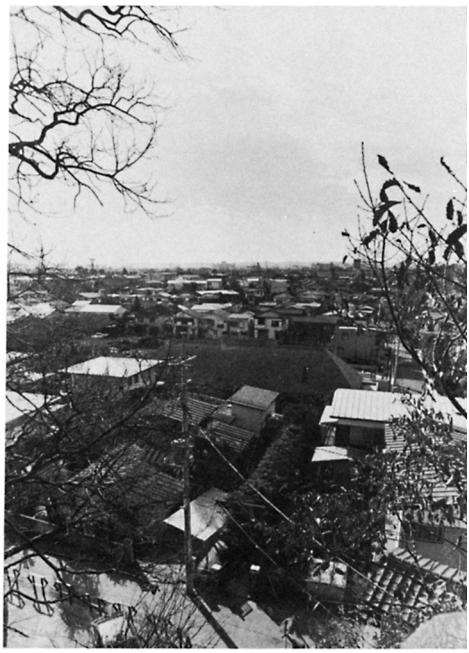
庭から展示室を見る

2階の収蔵庫

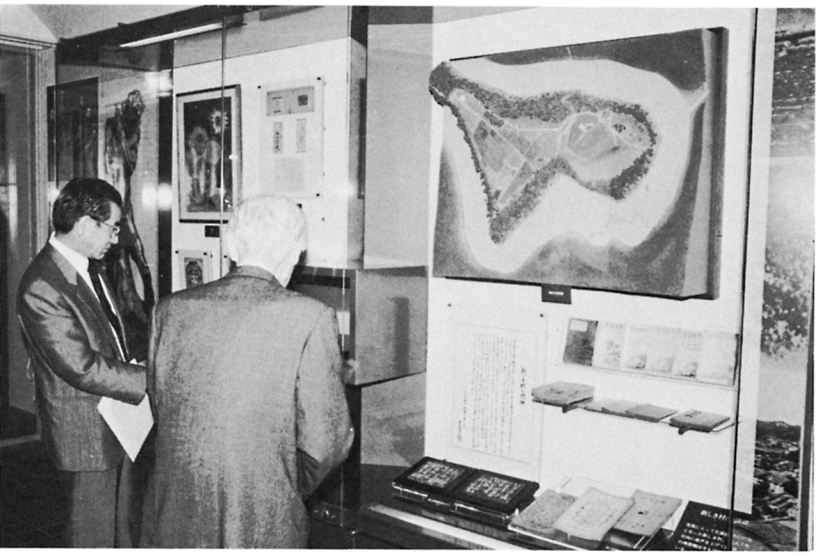


展示室を見学する人々

記念館は住宅地の中にある

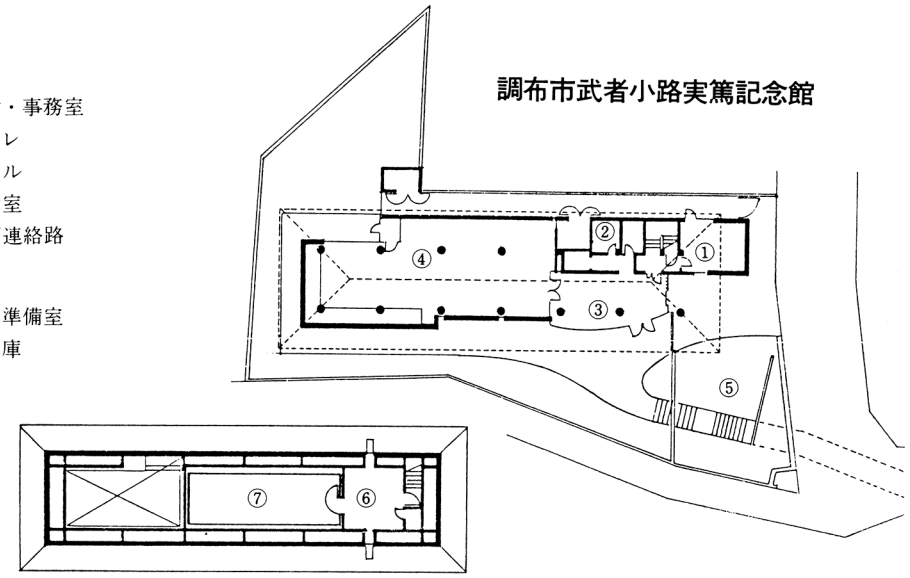


日向の新しき村の模型の前で

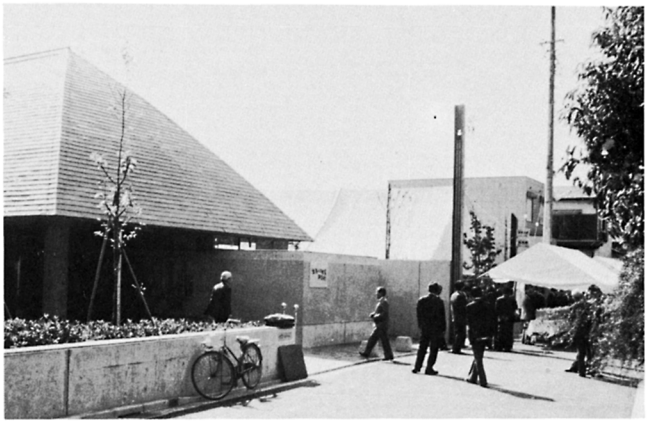


1階
①受付・事務室
②トイレ
③ホール
④展示室
⑤地下連絡路

2階
⑥展示準備室
⑦収蔵庫



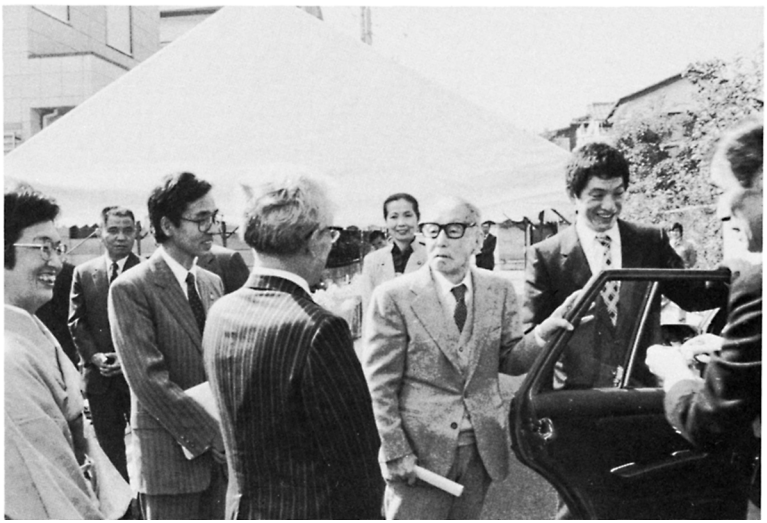
祝辞を述べる井上靖氏



開館式典は隣接の駐車場で行われた

開館記念式典・点描（10月28日）

開館式典には多数の文化人が参集した

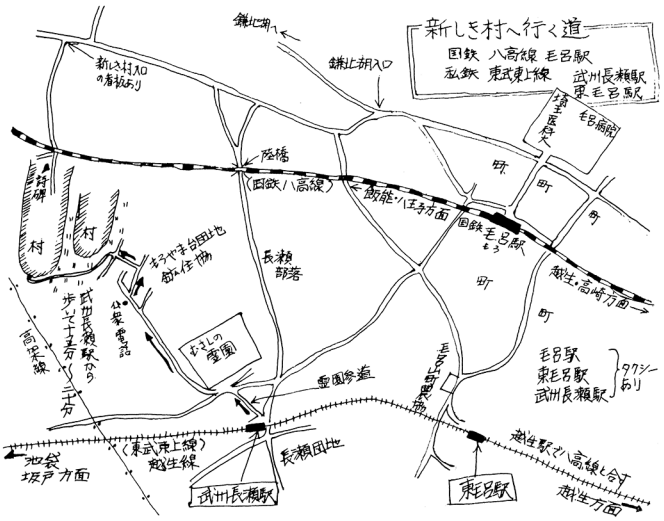


歓談する人々

左：中川一政氏、右：井上靖氏

新しき村生活文化館

生活文化館内部



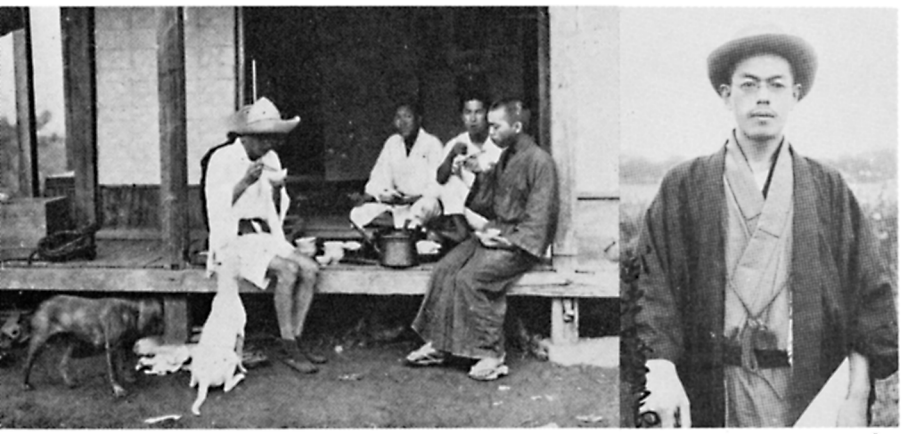
新しき村の現在
(埼玉県入間郡毛呂山町)

新しき村美術館

写真提供：新しき村

●実篤と新しき村●

雑誌「新しき村」創刊号
＜大正７年７月号・岸田劉生装画＞



②

①

日向新しき村にて
①武者小路実篤（大正７年）
②村に初めて建ったかやぶきの
合宿にて（左端・実篤）

僕の生活か？
。
。
朝はものを書く
昼からは働くのだ。
万人が半日働けばいい時がくることを
僕は切に祈っている。
村の精神の下で生きれば、
そう人間は出来るのだということを
しっかりつかむことが出来たらな。
僕はそれを祈っている。

。
。
自分は世界中をこの山おくで
沢庵をかじりながら
最美の世界に築きあげる事を
想像し、
その実現を信じ切って
元気で、元気で仕方のない男

●一九二五年（大正十四年）

新しき村会則の改正、その他（抄）

武者小路実篤

自分達は人間が人間らしく生きられること望む。すべての人が天命を完うし個性を生かすことの出来る世界をのぞむ。だから人間を人間あつかいしないものには賛成出来ない。他人の生命を尊敬しない設備、行為、思想に反対する。

会員の義務

新しき村以外に住む会員は毎月三十銭会費を納めること。

会員への希望

会員をふやすこと。
会員は本部と常に連絡をとること。
会の精神、自他共生の社会をつくり得ること、およびその社会が真の人間らしい社会であることを人々に知らせること。
新しき村が方々に出来ることを心よりのぞむこと。
正しい社会の出現を心からのぞむこと。
他人を人間あつかいしない思想に反対すること。
自他の生命に交渉のないことは無頓着であること。
そのかわり自他の生命を傷つける行為には反対すること。しかしその反対は実力が伴うことを要求する。その行為の起る原因に打ちかつ力を養うことを必要とする。また相手をやっつけるのが目的でなく、正しく生かすことを目的とすること。

会員は月一回集れる会員同志は集ること。
木曜日の夜は村の発展について考えること。
祈り得るものは祈ること。
十一月十四日は村の記念日にすること。
会員同志は何か事のある時、お互いに助けあうこと。
世話係はもうけるが、命令者は存在することを得ず。
賛成することだけ賛成すればよし。
党派的争いには出来るだけ超越すること。
だが、正しいと思う方を助けることを得。
われらは百万の頭を有し、二百万の手足を有する巨人として生きることを望む。われらは日本の与論に正しき常識を与えることを心掛ける。
団体としてするべき仕事はその都度雑誌その他で発表する。賛成するものはそれを助け、不賛成なるものはそれに加入しないことを得、積極的に反対な場合は雑誌に公開状をかくこと。
会員以外の人とはよき隣人であること。
以上、一九二五年十一月十四日より実行したし。賛成な人は会費を十一月からおさめて下さい。

（『新しき村通信』第十六号）

▷出所：『新しき村50年』（昭和43年・㈶新しき村）

せんがわ 21

'85.冬

目　次

No.12

■特集 1 「今こだわり生きる」 …… 6

——GOIMG MY WAY

安藤雄三・青木史世・富樫文子・斯波照子・藤丸陽子
市原幸子・角田陽次郎・須山静夫・福山洋志・柳田郁子
橋口美代子・生江義男

■特集 2 「実篤記念館と共に」 …… 16

☆実篤公園と記念館 ——今後の運営 …… 堀　公彦
☆開館式典の祝辞とあいさつから
☆実篤略年表

グラビア特別企画

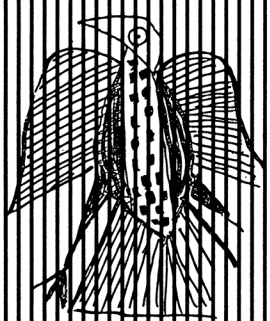
● フォト・レポート「流れゆく時空の中で……」
1978 ～ 1985 年
● マップ 21「ニューフェイス せんがわ10景」
● ボンネットバス　メモランダム
写真・文／佐野　敦
＊ せんがわ変化と不易
田中重男／後藤章夫

＜シリーズ＞ 10人の意見／私の好きなとき …… 4
翔べ!!仙川っ子／若者サミット会議（Ⅱ） …… 32
人と仕事シリーズ／バス通り裏で乳搾り 35 年 …… 34
～山内牧場主・山内鋭治さん
せんがわ界隈史／明治・大正～講・青年団・消防組 …… 36

● 口絵写真　武者小路実篤記念館オープン!!
新しき村美術館／生活文化館
● グラビア　ちょっとおじゃまします！ 川谷拓三さん（俳優）
サークル紹介
滝坂小ＰＴＡ卓球部／演劇集団 詩人会
仕事場　㈱萬平製作所／月兎ソース㈱
キラリ．パチリ．でっちあげ ?!　仙川の美男・美女

□ せんがわギャラリー　小間政男「妙義山（雨）」

＜インフォメーション＞ まちニティカレンダー　'86. 1～2月 …… 2
くちコミまちコミ広場 …… 39
ショッピングモール／まちニティショップ・カタログ …… 40
まち・ニュース　街の話題．アレコレ …… 42
資料室 ——HOT LINE「コレはべんり!!」 …… 45
読者のひろば …… 46
せんがわ・21　No.1～6（目次） …… 48
編集室から …… 50



表紙デザイン／山岡義典
表紙写真／加藤純一郎
写真／丸井　潤・加藤純一郎
イラスト・カット／武藤昌平
浅倉京子・小沢基弘
こやまきょうへい
栗田行雄
レイアウト／青野道子
版下制作／木下　仁＋2

■表紙写真　南瓜とおばさん

■発行・せんがわ まちニティ 情報センター

カレンダー

'86.2

1 土	2 日	3 月	4 火
	緑ケ丘図書館 おはなし会 10：30〜		若葉図書館 おはなし会（小学生） 15：00〜（毎週火曜）
5 水	6 木	7 金	8 土
	若葉図書館 おはなし会（幼児） 15：00〜（毎週木曜） 東部公民館 市民講座（予定） 毎週木曜３月まで 「女が働く時」	若葉図書館 おはなし会（小学３年生以上） 15：00〜	父母と教育と行政 「私にも言わせて教育集会」 調布公民館にて
9 日	10 月	11 火	12 水
緑ケ丘図書館 小学生読書会 10：30〜		建国記念日 仙川商店街 スタンプ交換会	
13 木	14 金	15 土	16 日
17 月	18 火	19 水	20 木
21 金	22 土	23 日	24 月
25 火	26 水	27 木	28 金

'86.1 せんがわまちニティ

1 水 元日	2 木	3 金	4 土
"初詣は，地元で！" ◇八幡神社　緑ケ丘（326・5387） ◇糟嶺神社　入間町（308・6576）			各児童館 86年開館日
5 日 各図書館，公民館 86年開館日 実篤記念館 新収蔵品展（2月2日まで）	6 月	7 火 東部児童館 たこ作り（11日まで） 緑ケ丘図書館 おはなし会　10：30〜 若葉図書館 おはなし会（小学生） 15：00〜（毎週火曜）	8 水 緑ケ丘児童館 ハネつき大会 東部児童館　おはなし会 「つむじまがり，へそまがり」 「十二支の始まり」14：30〜
9 木 緑ケ丘児童館 かきぞめ大会 若葉図書館 おはなし会（幼児） 15：00〜（毎週木曜）	10 金 緑ケ丘児童館 ふくわらい大会 若葉図書館 おはなし会（小学3年生以上） 15：00〜	11 土	12 日 緑ケ丘図書館 小学生読書会 10：30〜
13 月 緑ケ丘児童館 たこ作り	14 火 仙川商店街 スタンプ交換会	15 水 成人の日	16 木
17 金	18 土 全市児童　たこあげ大会 多摩川にて	19 日	20 月
21 火 緑ケ丘児童館 ジャンボかるた作り （24日まで）	22 水	23 木	24 金
25 土 緑ケ丘児童館 かるた大会	26 日	27 月 緑ケ丘児童館 ミニソフト，バレーボール大会	28 火 東部公民館 市民講座（予定） 毎週火曜3月まで 「近代女性文学」
29 水 緑ケ丘児童館 人間すごろく大会 東部児童館 映画会「隣人」「宇宙展望」 「開会の辞マクラレン」 14：30〜	30 木	31 金	

吉野澄子さん
（四中・３年生）

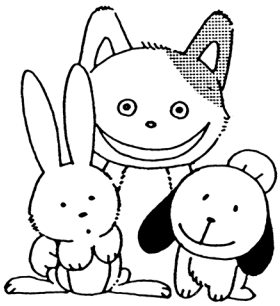
私の一番好きな時は部屋をかたづけたり、掃除したりして整理、整頓をする時です。そうするとスッキリした気分になるし、お気に入りの服や大切な物の再発見にもなります。そのうえ、なかなか見つからなかった思い出の品が出てきたりしたらもう最高です。

寺本洋太郎さん
（四中・２年生）

ぼくは友達と一緒の時が大好きだ。だって楽しく遊べるし、分らない所を一緒に考えたり、教えてもらったり、また、時にはけんかをすることもできるからだ。けれどけんかの後の気まずさは好きではない。しかし、仲直りした時は、前よりもっとその友達が近づいてくるような、そんな感じもする。

橋野昌次郎さん
（四中・１年生）

ぼくは読書をしている時が一番好きです。夜、眠る前などに少しずつ読んでいます。よく読む本は小説や記録文などです。今まで読んだ本の中で、一番印象に残ったのは灰谷健次郎さんの「兎の眼」だと思います。これからも色々な本を読んでいくつもりです。



荒木健太さん
（四中・１年生）

ぼくは今、パーソナル・コンピューターにこっています。今はまだ、プログラムが出来ないので残念ですが、早くゲームとか勉強のプログラムを作って実用化したいです。コンピューターのプログラムを作ったり、操作に熱中している時がぼくの一番好きな時です。

四方良美さん
（帝京中・２年生）

私の家は、犬二ひきとミニうさぎを一ぴき飼っています。まず学校から帰ると物もいわずに私の部屋に行き、うさぎの世話をするのが一番の楽しみです。いたずら好きのうさぎは部屋に放すと、カーテンを噛んだりベットにおしっこしたり大暴れ。それでもこりずに枕の横にはミニうさぎのラビをおいて寝ます。

各種出張パーティ料理承ります。
中国料理　2階洋間40名様●3階和室55名様●特別個室10名様
龍鳳苑
仙川商店街中程　〒300－8063

私の好きなとき
—10人の意見—

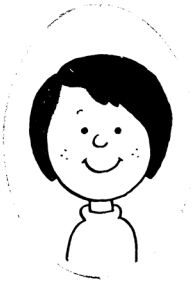
古川貴一さん
（八中・2年生）

僕の好きな時は、やっぱり何といっても眠ってる時と眠る瞬間です。眠ってる時が好きだというと、ものぐさだなどという人もいるけど、あの充実感、誰にもじゃまされない一人だけの世界、あれは何ともいえないものです。

山岸京子さん
（八中・3年生）

私の好きな時間は、おふろに入っている時が一番好きです。つぎに好きな時間は、数学の宿題をやっている時です。どうしてかというと、中学三年生になってから、なんでかわからないけど計算が好きになったからです。やっぱりその次はテレビを見る時間です。

こんなコかな？



堰合　睦さん
（八中・2年生）

私が一番好きな時間は、学校へ行っている時。学校では、大勢の友達と遊んだり、勉強したり、クラブ活動で汗を流したり……。私は学校が好きです。これからも学校へ行っている時間を大切にしたい。

矢沢光芳さん
（八中・3年生）

僕の一番楽しい時間は音楽を聞いている時です。特に映画音楽が最高です。映画の中のコミカルなシーンや悲しいシーンなどのもり上がりで使われた曲を、その日の気分によって変えながら聞くのが格別です。

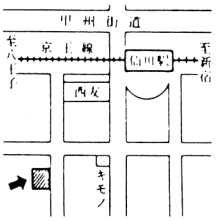
樋口　豊さん
（八中・3年生）

ぼくは乗り物が好きで、いろいろな種類の電車や車などを友達とよく写真を写しに行きます。また車に乗るのも好きで、助手席にいつも座り、運転手の操作するのを見て覚え、後で本や写真などを見て自分か本物の車を運転している所を想像することが一番好きです。

伝統の味・ふるさとの味　手打そば処

家族庵

桐朋学園通り　TEL 326−9456　営業時間　11：00～21：00　火曜定休



今こだわり生きる

世は、「行革だ!!」から「教育改革だ!!」へ、「高度情報・OA化だ」「高齢化だ」「新風営法だ」「分衆だ」とかしましく……さて、そこで、〝時流にあおられる〟のでなく、〝私流〟にこだわる、〝自・流・派〟のライフスタイルに出会ってみた。

■ 安藤雄三

人には、様々な生き方があり職業がある。同様に色々な能力があり個性もある。常に中味を論じたい。

喩えは悪いかも知れないが、盲が象をなでるように、同じものを見、聞いたつもりでも、十人が十人その受け取り方、感じ方は違う。人は生まれ育って行く間に様々な体験を通じて、人格、価値観を形成してゆく訳だが、同じ体験を共有し続け得ないが故に、全く同じ人格、価値観を形成し得る人間も二人とおらず、従って、同じものを見、聞きしても感じ方が十人十色となるのは当り前のことではある。

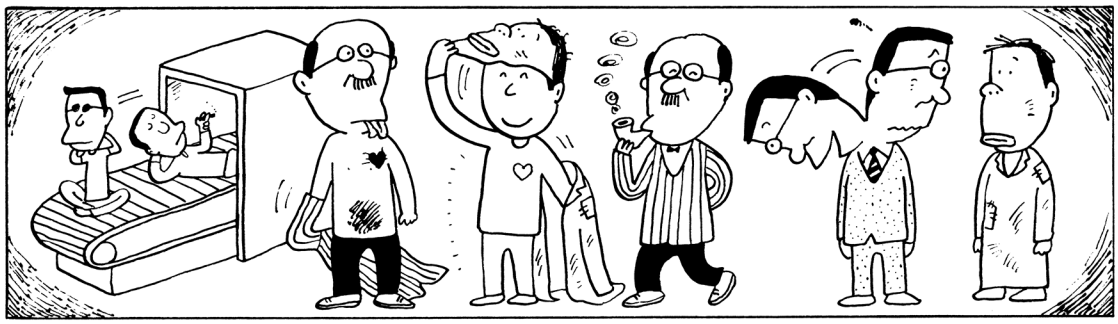
そのように一人一人違う中でも、同じ時代の流れを似たような視点で眺め続ける同世代はかなり同質の感じ方を共有するようで、私たち団塊の世代も例外ではないらしい。戦後生まれであるから、戦争そのものは知らない。しかし貧しさ、空腹感は幼児体験として強く持っている。物を使わぬ遊び方を沢山知っているし、空地で遊ぶ楽しさもよく覚えている。物は足らぬが単純で大らかな世の中が、次第に物だらけの、だが余裕のないせかせかした世に移り変わってゆく間が、丁度子供から大人に成長して行った年月と重なっている世代である。

このような体験を経て成長した世代の一人としては、今の世の中をもっと住み易くしてゆく責任があると痛感する。少なくとも、まず次の二つの観点は持ち続けたい。

・様々な生き方があり職業がある。同様に色々な能力があり個性もある。常に中味を論じたい。外観で価値判断はすべきでない。（男女差、貧富の差、家柄、学歴、肩書等々）

・無用な一番乗り競争は撲滅したい。人が前の朝から並ぶなら、私は前の日の朝からと言った競争が、最近受験に限らず何事につけ目立つ。より良き明日の糧を稼ぐ為の競争なのだろうが、人はパンのみにて生くるにあらずであり、ストレスの多い現代に片輪人間を量産させる破目になる。人に迷惑をかけない、人の痛みのわかる人間になりたいし、そういう人を育てたいもの。

（多摩市百草）



■ 青木史世

洗剤に気を使い、水の汚染を防ぐ事も、主婦の考え「ひとつ」で……

「こだわって生きる」というほどの自信は皆無で、揺れたりブレたりの毎日を送っています。

文明の利器類、原料を輸入に頼りながらでも豊かな食品類、溢れるネオンサインと、それと同類の溢れるせせこましい娯楽設備。それら大洪水の中にあって、地球が地球らしい生態系を保つ事が、どんなに至難であるかは、まず自分の生活を顧りみればわかります。ともすれば流されがちな自己を発見します。

しかし、子どもを持つ親として、子ども達の未来を健やかなものにしたいと思います。今現在、至便だからとか、売られているからとか、あまり深く考えずに日常生活で利用する品々が、何らかのかたちで子孫に好ましくない影響を与えるものがあるなら、それらを排除していきたいと思っています。

洗剤に気を使い、水の汚染を防ぐ事も、その家の主婦の考えひとつです。

おもちゃや時計その他に使われている乾電池、家庭の電灯の主流となった蛍光灯など、土に戻すと（ゴミとして埋められると）土壌を汚染するものを極力新たに購入しないのも、その家の主婦の考えひとつです。

自家用車が増える一方の日本では、ただたんに娯楽のため走行する事が多そうです。そうなれば、ガソリン使用量がふえ、石油の消費が多くなります。空気も汚染されます。走行台数がふえれば、自動車用道路の拡充が叫ばれ、「緑」が減っていきます。

地球的規模で森林の伐採が進めば、気象学上にも異変が表われ、どういうことが起きるのか心配です。この件についてだって、家庭の主婦の考えひとつで、微力ながらも破壊を押しとどめようという方向に向けさせられるのです。

「面倒臭い」「だってみんながそうしてる」等々、私の頭の中をよぎるざわめきは多いのです。でも、なんとか「地球を愛するならば」の声を張りあげて、仲間といっしょに歩いていこうと、自己を叱咤激励している毎日です。

（若葉町三）

■ 富樫文子

一つの国の中を細かく見て歩く一人旅が好きです。何から何まで見る気になって見ると、すべてが違ってみえる……

私が六十五才になった時、老人手帳が届きました。そして老人健康診断をして下さいとの添え書でした。何処も悪くないと思いながら、診察を受けたまま

に忘れて、約二カ月後に結果を聞いて驚き力ぬけてしまいました。2.5センチの円形が腎臓にあったのです。しかし、どこも痛くはないし、老人は進行が遅い

からすぐどうにかなる訳でない。
それなら自分の一番好きな事をして、思い残しのない様に過ごそうと、海外旅行を計画しましたが、五カ月位安静を主としていたため、無理な様な気もしました。足から年を取るとよく聞きます。そこで、先ず足を鍛えることにしました。それから、早朝五時に起き、明神神社の一八段の階段を三十回登り降りし、一カ月休まず続け、自信が持てました。

また、私の年代は不幸にして英語はほとんどわかりません。そこで、仙川のカルチャーセンターに一カ月半、6〜7回通い、大急ぎ英語をほんの少し〝一夜漬〟と言いましょうか……。

老女のイギリス三週間の海外一人旅。アジア人の顔を見ると、先ず「今日は」と声を掛けて見ました。今日はと返事がありますととても嬉しいんです。それから楽しい語らい、出会いの始まりです。

珍しい風景。紀元前の人たちが作ったストーンヘイジーやバースの遺跡。自然の草木で日本では保護されているキンバイソウ、ガンコウラン、ツガザクラなどの高山植物でも根から引抜いて燃やしている。その後に牧草を植え、開こんしているというわけです。

野生的な若者達。何を考えてあの様な毛髪をと、一寸理解し難いこともありますが、何でも見て何でも知ろうと好奇心満々で巡り廻りました。朝六時に太陽が昇り、夕方陽が沈むのは九時半頃です。日中歩き廻り、夜はぐっすり寝れます。病気など忘れていました。今スケッチしてきたものを絵に描く事で一生懸命です。また行こう、そのためにはもう少し英語も、そうスペイン語も少しでも話せたらとまた励みが出ます。

最初に海外に出たのは、50才代になってからで、フランスに三回、そして、三年前ぐらいから、スペインに春、秋、2〜3週間程4回訪れて、ほとんどの町を歩いてみました。一つの国の中を細かく見て歩く一人旅が好きです。

日本国内と外国の差は、建物が石作りと木造の差であって、それが語りかけてくれます。日本の建物は、卒直で遊びがない。外国の方は、窓のかたちも工夫され、彫刻もあり、何ともいえない。百年や二百年の建物もふつうであり、何から何まで見る気になって見ると、すべてが違ってみえる。そんな異文化との体験が私の旅に出る理由です。

（上祖師谷五）

■ 斯波照子

やっぱり、昔からなじんでいるパン屋さんに出かけ、味になれたコロッケパンをついつい買ってしまいます。

私は、五十年来、今の地、若葉町に住んでおりますが、そこは、昔、神代村字入間と申しておりました。その頃には、今の若葉小、四中あたりは、一面のたんぼでれんがの花が咲き、小川にはめだかやふなが遊んでおりました。つみ草にも、ずいぶん出かけたものでした。

一方、私の家から仙川駅に向う間は、一面の麦畑、キャベツ畑で、ちょうが舞い、ひばりがさえずるのどかなものでしたが、一風吹けば、土ぼこりがひどく、往生したものでした。もちろん、今のように自動車や自転車はなく、京王線を別とすれば、ただ自分の足だけがたよりですから、安全といえば安全でした。また、犬との散歩でも鎖でつながずともよく、犬にとっても、私の健康にとっても、良かったと言えるかもしれません。

ここ二十年の仙川の発展によって、大変便利になったことは喜んでいるのですが、一方ではそうした昔をなつかしくも思います。

例えば、私の記憶では、二十年程前には、美容室といえば仙川にはただ一軒でした。一年に一度か二度、ふだん着のまま出かけ、お客同志が、声をかけながら髪を整えていただいたものでした。しかし今は、美容室は何軒あるでしょうか。お客様もよそゆきで、今もなお、昔のままサンダルばきでかける私には、どうも今一つ、しっくりいたしません。パン屋さんについてもしかりです。なにやら、ハイカラなお店が仙川にもできましたが、やっぱり、昔からなじんでいるパン屋さんに出かけ、

味になれたコロッケパンをついつい買ってしまいます。

最近、我家を家出したビーグル犬のチャーリーも、あるいはそうした〝古き良き時代〟を求めていたのかもしれないな、などと思ったりもします。

やはり、私は古い人間なのでしょうか。

（若葉町一）

■藤丸陽子

価値観の多様化している現在、何かにこだわらずには子育てはできない、と感じるようになりました。

小学校一年の長男と幼稚園年長の長女、二歳半になる次女の三人の子持ちの、若葉町に住む主婦です。よく言えば「素直」、悪く言うと「優柔不断」に人の言葉を信じてしまう決断力の乏しい性格に気付いたころ、子育てには、母親の生活態度、性格などが多分に影響すると知らされました。事実、子育てをしていくうちに母親の主体的判断が必要な場面がいくつも出てきます。長男長女を年子（としご）で生んでから、確かな親の価値観などとはオーバーになりますが、価値観の多様化している現在、何かにこだわらずには子育てはできない、と感じるようになりました。

＊「三つ子の魂、百まで」……

＊心のやさしさとか、おもいやりとか、母親の接し方で培われる心はもちろんのこと

＊善悪の判断、つまり他に対して迷惑なこと危ないことは強い姿勢をもって示す

＊基本的な生活習慣、食事、排泄のしかた、洋服の着脱、あいさつ他のしつけ

これらに対して、三歳までにある程度しっかり、子供の可能性に応じて身につけさせる必要があると信じて努力、思いおこすと、かなりこだわっていたように思います。わが家のネコちゃんだって、赤ちゃん時代に、「ハムスターにいたずらしちゃだめよ。テーブルにのってはぺんぺん。おしっこはここでするのよ。」と教えておくと、それほど悪さのしないネコに育っています。動物と人間の子供をいっしょにする訳ではありませんが、三歳くらいまでは体で覚えてくれるので、その後の子育ては非常に楽になることは確かです。「こだわってよかった。」という実感です。

もうひとつ、「歩く」ことにこだわりました。母子ともに歩いて目的地まで行く間に、いろいろな体験ができます。足も丈夫になります。この忙しい時代に、時間のほうがもったいないと正直思いました。しかし、子供の体に歩くことに対する抵抗感のない足が育ちました。このことは、すべてのことに対する忍耐力や積極性へつながる素（もと）であると信じています。

三人目の子供が生まれ、私自身円満な性格と勘違いしていた生来の優柔不断さが頭をもたげてきました。こだわりにこだわりつづけるには、かなりの強い意志が必要なのです。三番目の子供には、「靴がはけない」といっては手伝ったり、「だっこ」といわれてはだっこをして歩いたり、少々過保護気味な母親になっているのです。

前向きに幸せを感じられる人生を送るためには、無意識に培われた忍耐力がある方が楽であると考えるので、三番目の子のこの時期、もっとこだわらねばと反省しながらペンを走らせました。

（若葉町二）

■市原幸子

青少年のボランティア活動に参加して二十年……活動の柱は、人とのふれあい。

のどかな田園風景の残っていた仙川に住まいを求めたのは、私が二十代の時である。

それからまもなく祖母を見送り、昨年三月に八十八才の母を見送った。

今、長い旅路を飛び続けた渡り鳥のように、ほっと一息入れ

て羽根を休めている心境だ。
　誘われて、青少年のボランティア活動に参加して二十年になる。こんなに長くやろうとも、続くとも思わなかった。家族がみんな健康であり、又それなりに協力し、我慢して付き合ってくれたおかげである。
　活動の柱は、人とのふれあいであり、その中で生まれ育った理解と信頼は、昔も今も変りなく続いている。
　最近は「活動も大変ですね」と温かい言葉をかけて下さる方もあり、少しずつでも地域とのかかわりの中で、理解して載けるようになって、有り難いと思う。ただ残念に思うのは、若い人の参加の少ない事である。地味な活動を続ける事によってのみ、ある程度の成果も期待出来るのであって、若い人の気持を惹きつける魅力ある活動に結びつかないからだろうか。
　あれこれ思いながら、今日も駅前で、悪書追放、青少年に良い環境作りへのご協力をお願いしながら、PRのティシュを配っている。
（若葉町　一）

■ 角田陽次郎

祭りは、その中心に矢張り神に祈る心がなければ、たんなるイベントになってしまう。

　一月十四日に糟嶺神社で〝歳神祭〟があるというので行ってみた。サイジンサイかトシガミマツリか読み方がわからなかったが、サイノカミマツリというのだそうだ。
　その年のお正月の松飾りなどを持ちより、神にその年の豊作を祈念し、そのあと飾り物をもやし、一同お神酒をまわし飲みする。神主さんのお話だと、サイノカミは部落の境界を守る神でもあったらしい。
　大同二年（八〇二年）に出た『古語拾遺』によると御歳神（ミトシノカミ）は気にいらないとなかなか激しい祟りをなす神で、田が枯れてしまう。その為に色々とご機嫌とりをすると、やっと教えをたれ、それを実行することで「年穀豊稔なり」とある。ミトシノカミは年穀（稲）の神、即ち田の神である。
　この祭りにきていた人達は五十人弱、まつりというには余りに少ない人数であろうか。
　去年の八月二十六日に調布駅を中心に行われた〝調布ふるさとまつり〟、沢山の市民が参加して楽しんでいたように見えたが、何か一つかけていた。それは、まつりの中心がないのだ。新宿や渋谷の盛り場と同じで、ただ賑かで、楽しくて、人がいっぱいいるだけなので、中心になる神社がないのである。
　そんなものは祭ではない。まつりはその中心に矢張り神に祈る心がなければ、たんなるイベントになってしまうのではないか。歳神祭に集まった五十人は余りに少ないかもしれない。開発されて畠がなくなれば、この祭も消えてゆくかもしれない。
　でも、それでいいじゃないかという思いが強い。本当に里人の心の中から出てくるものでなければ、無理に残す必要もない。
　そんな形だけのものが多すぎる世である。たとえ、人数は少なくとも、歳神祭は本物のまつり、イベントではない。その事のわかる年になりました。
（東つつじケ丘三）

■ 須山静夫

岩と泥と砂の荒れ地を『クラレル』とともにさまよっている……。

　この数年のあいだ、私のしてきた少なくとも二つのことのせいで、もともとうき世離れの傾きのあった私は、いっそうその傾向が強くなった。
　一つは『聖書』を読むことである。やがては『新約聖書』に進むつもりだが、『旧約』を読みはじめて五年あまりになった今、『エゼキエル書』をヘブライ語で読んでいる。振り返ってみると、ずいぶん長い道を歩い

てきた、と思う。さまざまな意味で私を感動させる多くの人物にめぐりあった。

たとえば、『申命記』第三十一章二十三節に、「主はヨシュアに言われた。『強くかつ勇ましくあれ。わたしはあなたとともにいるであろう。』」とある。

これを読んで、私はノートに感想をしるした。「この神の言葉のすばらしさ。これはいい。神にこう言われた人間がいた、ということを知るだけでもいい。たとえ私が『強く』なく、『勇ましく』なくても、いい。たとえ神が私と『ともにい』なくても。ヨシュアという人物がいれば、それでいい。」これは不信の徒である私の告白だ。

もう一つはハーマン・メルヴィルの長詩『クラレル』を読むことである。メルヴィルは大作『白鯨』を書いたあと、精神の荒野に踏みこんだ。彼は、信仰にはいるためには懐疑が強すぎ、不信に安住するためには神をもとめる心が強すぎた。その心を神学生クラレルに託して綴ったのが、この詩である。舞台は聖地エルサレムと死海のほとりの荒れ野だ。クラレルの眼に映るエルサレムは、灰色の石の屋根がひろがる暗鬱な町であり、千九百年のあいだ再臨しなかったイエス・キリストは将来も永久に再臨しないかもしれない。

メルヴィルは一八七六年、五十七歳のときこの作品を発表した。私は五十七歳のときこれを読み始めて、今六十歳になろうとしている。その私は、預言者たちの声を聞こうとしなかったイスラエル人の一人とも言えよう。岩と泥と砂の荒れ地をクラレルとともにさまよっている。

（深大寺南町五）

■ 福山洋志

スポットライトを浴びたあの大きな感動の始まりが、「スペース仙川」だった……。

私は現在若葉町に住んでいる。以前は上祖師谷に居て、考えてみるともう9年も仙川に住んで居ることになる。月日のたつのは早いものだとつくづく思う。

ここへ来て多くの人と知りあった。学生の頃、ふとしたきっかけで知り合った沖縄の人達と、「スペース仙川」を借りて芝居をやった事がある。そもそも最初は芝居をやるつもりなどなく、展示会をやろうという事でワイワイやっていたのだが、友人の一人が出品する物がないので芝居を書いてみるから手伝ってくれないかというのが始まりであった。

皆初めはとまどいもしたが、多少の興味もあって、てれながらも役をもらい、発声とか大げさ過ぎる仕草を楽しんでいた。練習を重ねていくうちにはなんとか芝居らしいものが出来上がり、当日は酒やつまみ持ち込みのごったがえしの中で、笑いあり涙ありの舞台は、拍手かっさいのもとに幕を下ろす事が出来た。客の入りもすごいもので、入れ替わり立ち替わりで二百人近い人が見に来てくれたのには、さすがに驚いてしまった。

それを見に来てくれた人達の間から話の輪がふくらんだらしく、その後いろんな所から声がかかり、大阪から誘いがあった時などは、全員で集まり、あれやこれやと夜のふけるのも忘れて議論したものである。結局、大阪へは行かずじまいだったが、82年の夏には、中野サンプラザでイベントの一環としてではあったが、プロの人達にも手伝ってもらい、二千人の前で上演する事が出来た。どよめきの中、広過ぎる舞台の中央でスポットライトを浴びたあの感動は今でも熱く胸に残っている。

あの大きな感動の始まりが「スペース仙川」であり、そして、今もふえつつある、笑いの好きな友人達を与えてくれる町、それが私の住みやすい『仙川』なのである。

（若葉町）

■ 柳田郁子

無から有への誘ない——現代美術に衝撃的に魅せられ、模索しつつ……。

テーマが、私にはチョット気恥ずかしく、ちゅうちょするが今の自分を書いてみよう!!

日々の暮しの中での絵画のデッサン、油絵の勉強から現代美術にぶち当り衝撃的に魅せられ、模索しつつ毎日のオカミサン業の至らなさと、させてもらえる事への感謝を込めて現在五年目への挑戦中です。

無から有への誘ない。作品の特長は布を伸子で張りながら張手を使い、アクリルカラーで描きながらの造型である。宙吊り空間に開拓精神を旺盛にしての作品群は、画廊の空間をつき抜けると同時に、住宅建築に吹き抜けが取り入れられる様に、より高く広い空間を求めていかなければならない。

一つの方向として、古い民家の渋く太い梁に作品を吊るし、現代音楽がかなでられ、人が踊りを舞い、民話や昔話と現代感覚とのあやなす世界……。つまり、パフォーマンス的空間として作品を生かしながら、画廊の静の空間から動的空間へと多目的に合体させながら、宇宙の世界へと、幻想空間が描き出せれば、或いは海のかなたに……などなど。

二年程前に、目黒の交番で新しい美術館の場所をたずねた時、「描いているの」とおまわりさん。「ええ」「教えているの?」「いいえ、あたし主婦よ」「え!じゃあ道楽だ、ハハハハ」と聡明なおまわりさんのコトバ、的を射て忘れる事の出来ない会話。

ガクッと来るけど、それにもめげずに頑張る私。

六月中旬に名古屋で、「女から女達へ」の個展の制作に燃えています。どうぞ末長く御声援下さい。

(若葉町三)

■ 橋口美代子

一日心豊かに、精一杯の仕事が出来るように祈り、願い、努力……。

朝の五時に絵筆を洗って、午後の二時から三時に起床する泥棒泣かせの私の生活。時折り背すじをのばしながら窓に見る自然の移り変り、夕日、黒い土、すべてが美しい。肌にふれる風に、過ぎ去った思いがよみがえって来る。

二十才から四十才までは、小児麻痺の子供の治療や、養子、養女の養育に追われ、舅姑達との同居、家族の中の色々なこだわりの中で、私は小さい自分の城を作った(絵を描くこと)。その場所に、つまらないこだわりを捨てることも覚えるように

なって、間もなく描くことに疑問を持ち始めた（スランプに入った）。迷いに迷ったあげく、旅に出ることを思い立った。さいわい子供達は一人で歩いて行ける年令になり、舅姑は健全な日々だった。

四十一才から、北欧、ヨーロッパ、アフリカの奥地へと繰返し、繰返し出掛けて行った。五十才の声を聞くまで、言葉にならない、形や色を借りても表現出来ない感覚的なものを探し求めさまよい続け、日本に居ては、仕事の方面の仲間達との色々なかかわりに苦しみ、悲しみ、悩んだ。

疲れ切った心身を引きずって、故郷の河畔に立ち、好きな夕焼けを見ていた。足もとに目を落した時、「おやっ」と思った。永い間探し求めていたものを垣間見たような気がした。

それ以来、私の生活が少しずつ変わって来たように思う。

今では一日心豊かに、精一杯の仕事が出来るように祈り、願い、努力するよう努め、その日のこだわりはその日に置くことにしている。

（緑ケ丘二）

■ 生江義男

ひとり、ひとりの子どもたちは、それぞれ得難い〝可能性〟をもっています。それを、どのように開花させるか、このことを忘れてはなりません。

私が桐朋学園に奉職したのは昭和二十三年四月、三十一歳の時です。

昭和十八年四月、新築校舎の大半を失火でうしなったため、戦後の桐朋は、わずか講堂、体育館、一部の校舎で、その教育が発足したわけです。周辺は一面の麦畑、仙川の駅から学校まで、駅前のソバ屋さんと神代書店と一部の邸宅だけの風景でした。

以来三十七年の星霜は、仙川の風貌を全く一変させました。そうした裡で、桐朋は戦後の民主主義を軸とした、いわゆる〝新教育〟を実践してきました。

最近、臨時教育審議会を中心に戦後の教育について、さまざまな論議が行われています。こうした論議が行われるのは結構ですが、教育は、〝ことば〟から始まるのではない。学校、家庭、社会が、子ども達に実際どのように対処してきたか、そして将来、その子どもたちが、どのような生き方をしていくか、たえず配慮することが必要です。

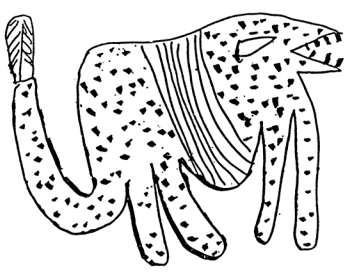
それでは、桐朋では、どのような形で子どもたちと生活してきたか。民主主義、平和主義の教育の基本は「生命の尊重」です。ひとり、ひとりの子どもたちは、それぞれ得難い〝可能性〟をもっています。それを、どのように開花させるか、このことを忘れてはなりません。いまの日本では、偏差値など、点数中心の選別が横行しており、これが教育の荒廃をもたらしています。

〝通知簿〟のない学校、これは一貫した学園の方針です。

そして、テストも〝どのくらいできたか〟ではなく、〝何ができなかったか〟を重視します。つまり、〝できないこと〟をどのように解決してゆくか、これが教育の動機づけになるのです。こうして、子ども自身がいわゆる〝点数〟にこだわらない、そしてまた、友だちとの話し合いのなかに、創造性を見い出してゆくこと、これが桐朋教育の目ざすところです。

しかし、三十七年間の実践でも、まだ不充分です。日本の教育界がどのような歩みを示そうとも、私は、この信念で、自分自身も努力していく決意です。

（若葉町一）

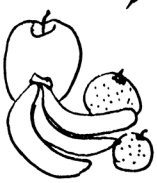


カットとパーマのお店
ビバ美容室
パーマ　（シャンプー・カット・セット付）
￥3800
カット　（セット付）
￥2000
パーマ受付ＰＭ６：00
カット受付ＰＭ７：00まで　火曜定休
仙川１－３－２　駐車場有り　☎308－3623

どんな編機でも自由　手あみ　機械あみ
生徒募集中
あみもの教室
講師　山田久子
つつじケ丘教室（月・水・金）　☎309－6334 呼
緑ケ丘教室（火・木・日）　☎309－4721

豊富な品揃え
酒類，食品，たばこ，燃料
鍋屋本店
甲州街道　仙川駅入口角　☎300－4831

住まいづくりのことならなんでもおまかせ
東京都知事許可　般57第5933号
佐藤工務店
建築士　佐藤　満
仙川町１－23－41　☎（307）5457・2360

フルーツショップ

しみずや
仙川駅前　☎３０８－５１７７

加藤みや子ダンススペース
仙川ファクトリー

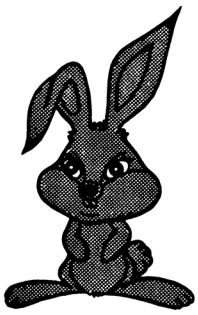
大人クラス　◦モダンダンス◦フィットネス
◦ダンスワーク気宇◦太極拳
◦エアロビックエクササイズ
子供クラス　◦モダンダンス◦リズム運動◦リズム音楽
◦ジュニアアート◦英会話◦リコーダー
初心者から専門家，幼児から中高年まで。
緑ケ丘地域福祉センター横　☎309－7200

日本テレビ・週刊文春にて紹介されました
味の店
とんかつ仙川
各種宴会40名様迄御相談下さい
仙川駅前東国書林横　☎309－0144

日本書道教育学会（文部省公認）　仙川支部
中野朗子　珪子書道会
教室・世田谷区給田３－23－20　☎309－2885

☆☆☆光と色彩のきらめき☆☆☆

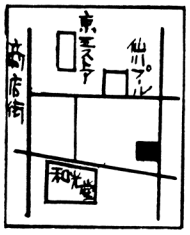
◦ニューステンドグラス◦
店舗・ビル・住宅の
新しい雰囲気づくりに！
（窓・扉・照明・鏡・贈答品などなど）
アトリエ・梓　☎309－9847
（趣味の教室も開いております）



ファッションガード
ソフトな仕上り！

三愛ドライクリーニング

本店　（☎ 300−6763）



生徒募集　シャルレ特約店　婦人服お仕立

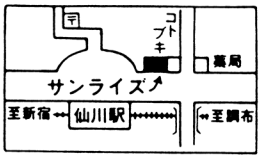
洋裁教室ナカムラ

給田 1 − 18 − 15　☎ 300 − 4972

フイルムもプリントも **フジカラー** 2時マデのが今日出来る店

サンライズ現像所

仙川駅前　☎ 326 − 4116・300 − 6808



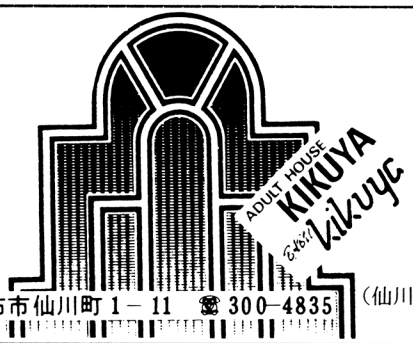
生鮮食料品のビックストアー

大八車の引売八百屋から，創業60余年，
初心にかえり，「奉仕に明けて，奉仕に暮れる」
誠心で励んでいます。　年中無休 10：00〜22：00

新正宿 **丸正食品** 仙川駅前店　☎ 300−1415

アダルトハウス キクヤ

アダルト紳士洋品専門店



ミセス ブティック

キクヤ

〒182 調布市仙川町 1 − 11　☎ 300−4835（仙川商店街）

特集

実篤記念館と共に

昭和53年の実篤公園開園から6年余を経て、念願の記念館がオープンした。開館式典の折の祝辞とあいさつの要旨を、各氏のご厚意によりご紹介いたします。貴重な実篤略年表ともども、実篤氏との新たな出会いになれば幸いです。（企画・協力　調布市武者小路実篤記念館）

実篤記念館――今後の運営

調布市武者小路実篤記念館　堀　公彦

調布市にとって年来の懸案であった実篤記念館が、市制三〇周年を記念して、このほど実篤公園の隣地に開館した。今年はおりしも実篤先生の生誕一〇〇年目でもあります。

「実篤公園と記念館」は、昨年暮れに市民投票できまった「ちょうふ八景」でも上位で選ばれており、市民のオアシスとしてすでに多くの人々に親しまれてきた公園の魅力とともに、記念館に対する期待の大きいことをうかがい知ることができます。

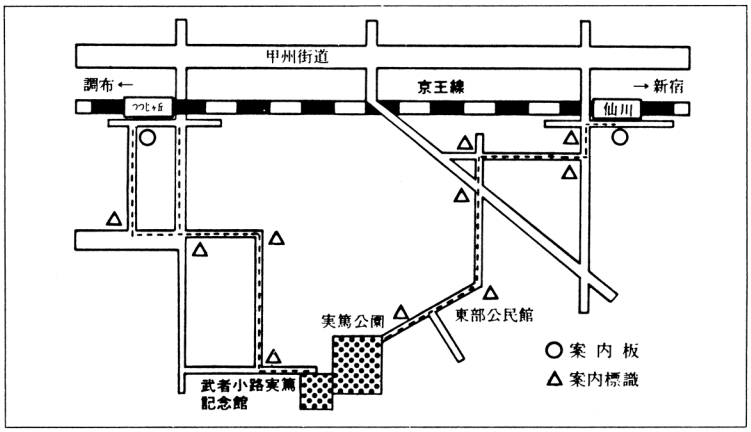
記念館は、実篤公園とは道路を隔てて接しているので、今までの公園の地下道とともに二本の地下通路をくぐってようやく辿りつくことになります。比較的年齢層の高い利用者にとっては、いささか負担と言えますが、もともと旧実篤邸跡を公園化する際に、出来るだけ原状を変えず、しかも周辺の環境ともマッチした施設をということから、地下通路による連絡とした経緯があります。

ともあれ、実篤先生が生前こよなく愛され、既に公園の一部として公開されている旧邸に近接して設置されたことにより、その相乗効果も期待され、まさに〝せんがわ〟ならではの、地の利を生かした施設といえましょう。来館（園）者にとっては、記念館↓公園、あるいは公園↓記念館へと足を進めることによって、おのずと生活の場をも含む実篤氏の全体像といったものをイメージすることも可能となります。

記念館の展示設計にあたっても、そうした配慮からいくつかの〝仕掛け〟が考えられています。

エントランス・ホールのさわれる資料・手形レリーフ「我が老いたる手よ」、九〇歳の生涯を年譜と写真で構成するユニークな〝道〟のゾーン、文庫本を手にとって実篤作品に親しんでもらう〝和〟のゾーン、空間を補完しながらわかりやすく実篤を紹介するためのビデオ・コーナーなど、単なる資料の展示に止まらないいくつかの工夫もなされています。また小規模ながらも、庭内には氏ゆかりの白樺や画題にした草木なども配して趣のある施設とするよう心掛けています。

当館は、10月28日の開館式を経て翌29日からオープンとなったわけですが、2カ月足らずで来館者も既に五〇〇〇人を超える勢いで、今更ながらに、実篤ファンの根強さに驚かされます。それだけに館の今後の運営も十二分に心していかなければと痛感している次第です。



調布市武者小路実篤記念館　〒182 東京都調布市若葉町1－8－30
TEL 03（326）0648

利用案内

開館時間
午前9時～午後4時まで

休館日
月曜日（祝日のときはその翌日）
年末年始
展示替え期間中

入園料

大人（高校生以上）	100円
子供（4歳以上、中学生以下）	50円

ただし65歳以上は無料

交通機関
京王線・つつじヶ丘駅または仙川駅下車
徒歩10分

子供たちの世界では今〝いじめ〟の問題が日常茶飯のように取上げられ、大人の世界でも相変わらず核の危機が叫ばれています。こうした状況下であればこそ、わたくしたちはこの記念館を、単に故人を懐かしむことだけを目的とした、〝メモリアル・ホール〟に終わらせることなく、多岐にわたる〝人間〟実篤の生きざまを通して、自らの生き方をあらためて問い直す機会を人々に提供する場ともしたいと考えています。

さて、〝せんがわ〟とのかかわりという点で、忘れてはならないことがあります。

公園がオープンした年の翌年（昭和54年）の暮のことでしたが、市庁舎の一室で、小さな会合がもたれていました。市側から、市長以下数名の職員、実篤氏のご遺族を代表して武者小路辰子氏と新しき村の福田氏が出席されたほか、日本近代文学館理事長の小田切進氏、女子美術大学学長の柳悦孝氏、それに当せんがわ・21の青野氏が招かれて、会は進められました。小田切氏以下の三氏は、それぞれのお立場のほか、当地せんがわ在住の文化人という共通の立場もあって、特に請われての出席でもあったと思われます。

話題は、当然ながら当時市が計画中の「実篤記念館」をめぐるものでした。席上、小田切氏は、「将来展望に立って、じっくりと時間をかけて、調布市として永遠に誇るに足る仕事をしてほしい。」と力説されました。「周辺の緑と調和のとれた立派な記念館づくりを期待している。」と柳氏。青野氏からは、「地域はもとより、全国の実篤ファンを結集した一大プロジェクトを……」と、それぞれ熱っぽく語られました。遺族側からのごあいさつがあったあと、「緑の拠点であるこの地域の自然とマッチしたすばらしい記念館づくりをしたい。」と、市長が決意のほどを述べて、この日の会合は幕となりました。

あれから5年余をへだてて、今日晴れて開館できることになった裏には、今さらながら、あのとき話し合われたことの成果が大きなよりどころとしてあったことが痛感されます。その意味で、今も忘れることのできない心に残る会合でした。せんがわ在住の方を中心としたものであったことにも、特に意義深いものを感じています。

今後の館の運営については、もとより多くの方のご指導に待つところですが、そのためには、単に館内での展示活動のみに止まることなく、図書館や公民館などのほか、学校教育の場との連携や地域との交流なども積極的に進めていくことが必要と考えます。より多くの方のご支援を期待する所以です。

公園の紅葉も今年は、ことのほか鮮かな色彩を池の水面に投げかけているように思えます。2つのトンネルをくぐりながら、公園のオープンで走り回った日々がつい昨日のように思い出される今日このごろです。

開館式典の祝辞とあいさつから

口中川一政さん

きょうは、たいへんうれしい…、それだけ申上げればいいくらいなんだけど、わたしは自分の身内でも友達でも、墓に行って、そこに霊魂があるとは思えないのです。こんなところに霊魂なんていない。いるように感じないのです。だけれども、今日この開館式に来まして、やっぱり武者小路さんは、亡くなって方々歩いていて、やっと住みかを持った、そういうように思うんです。それがわたしには嬉しいのです。

わたしは、幸せなことに、いい先輩を随分持っています。その中でも一番わたしに影響を与えたのは武者小路さんです。

それで……三分間話せというんですが、ちょっと言っておきたいことがあるんです。それは、さっき画を見ていたら、辰子さんが画を批評してくれ、誉めてくれと言うんです。そのわたしの前に晩年の油絵があって、それに感心しているところへ、そう言われた。

それで、いつか会があった時に、武者小路さんの画の悪口を並べて言ったのです。それは、わたしが言ったのではなくて、一般の人が武者小路さんの画について言ったことをわたしはまとめて話をしたのです。それで、さんざんそういうことを並べておいて、後でわたしが誉めようと思っていたのです。

ところが、悪口を言っている時に時間が来ちゃって、時間だから降りろと言うのです。それで降りては、わたしの話の半分にもいってないからと思って、我慢をして話を続けていたら、楽屋から武者小路さんが出てきて、「きみ、降りろよ」と言うんです。それで、本人が出てきたのだから降りないわけにいかないので、降りた。だけども、後から考えると、どうも気持ちが悪くてしようがない。言い足りない、大変なことを言い足りない。その時はそれで降りたんですが、それがいままで気になっていたので、今日は、その続きをわたしは言いたいのです。

それで、武者さんの画というのは、さっき僕が感心した画なんかでも、独立した画として立派だと思うんですが、画と文章とか、詩とか、そういうものを合せた画のジャンルというものがあるのです。後で御覧になればわかるけれども、白隠さんの画とか、仙崖さんの画とかいう類の、画としては半分だけれども、文章が助けて、半々のものが一つになっている。そういう画のジャンルというものがあると思うのです。武者さんの画は初めからそういう画で、讃と画が一緒になって、それでもってひとつの芸術を醸し出している。そういうふうなもので、武者さんというのは、わたしはやっぱり坊さんだと思うんです。白隠さんなどの後に、画のほうからいえば、ついている画だと思っていた。だけれども、だんだん画と…画が独立してきて、晩年のように、ああいうふうに、実に唐なすでもなんでも、こくがあって、それでもって構図が動かないのです。どうしても動かせないような構図を作っている。それで、武者さんの画というのは、日本の、日本でも支那でも、ああいうふうに、士太夫の画で、あくまでもそれが根本になっていて、士太夫の画というのは、ずるいことを否定する、小細工を否定する、真直ぐに自分の思うことを言う、そういうふうな画のジャンルから出ていて、芸術品として一つひとつの画としても、完全な画となってきた、そういうところで武者さんは亡くなったと思うんです。まあこの位で……。

口志賀直吉さん

先程ご紹介いただきましたように、父が死にましてから、蔵書を整理いたしましたが、やはり武者小路さんからいただいた分が一番多うございまして、たしか百三十何冊かの署名本がございました。これを私のところに置いておきましても人目にも触れませんし、それだけ集めるのもなかなか大変でございます。なにかお役に立てればと思いまして、武者小路家にご相談しまして、頂載したものですが、お返しして有効にお使いいただけないかとお話しをしましたら、しばらくしてこの調布に記念館ができるので、そこで使いたいというお話しがございました。

父は昭和46年10月に亡くなりましたが、約一年ほど病床に伏せておりました。その時に武者小路さんが、新聞紙一枚ほどの紙に文章を書いてくださいました。武者小路さんと父の間柄が、一番良く感じられる文章なので、それを読ませていただきます。

直哉兄
この世に生きて君とあい
君と一緒に仕事した
君も僕も独立人
自分の書きたい事を書いてきた
何年たっても君は君　僕は僕
よき友達持って正直にものを言う
実にたのしい二人は友達

昭和四十五年十一月十五日
実篤

小田切氏

武者小路氏　　中川氏
井上氏

口井上　靖さん

私は武者小路実篤先生のずっと後輩でありますが、武者小路先生のお仕事、またお人柄からいろいろな影響を受けて、今日ここまで育ってきた者であります。

武者小路先生がお歩きになった時代は激しい時代であります。明治、大正、昭和と、しかもその真中を武者小路先生一流の歩き方で、誰も及ばないただお一人の歩き方で、そうしてなさることは独創的でありました。それを見事に貫いておられます。そういうお仕事が、一口でいえば、武者小路先生はご自分のお歩きになった跡を〝武者小路山脈〟とでもいうような山脈をお作りになっていると思います。その山脈が、いろいろな形でこれから研究され、学ばれ、そうして将来の日本の文化界に大きい影響を与えると思います。

口小田切　進さん

芸術家としての武者小路さんについてはもう先程からいろいろお話しがありましたが、私は思想家としても大変大きなものを私達に残してくださったと思います。武者小路さんのお人柄、お仕事を敬愛するものの一人として、こんなに立派な記念館を調布市長始め市の皆さん、また大勢のご関係の皆さんのお力で作っていただいて、大変嬉しく存じます。

実は六年前、市長さんと辰子さんからご相談があり、市長室に招かれて、この記念館の最初の計画を示され、意見を求められました。私は瞬間迷ったのですが、憎まれても構わないから思う通りを申し上げようと思い、こんな記念館では世界の武者小路に恥ずかしい、調布市民の恥でもある、市長さん、これではだめですよ、もうちょっと何とか隣りの土地を手に入れて作ってくださらなければ、とてもとても問題になりません。武者小路さんは素晴らしい仕事を残した素晴らしい人なんですから、これでは武者小路さんにふさわしくないからだめです、と判然申し上げました。

県立図書館や市立の図書館、あるいは歴史郷土資料館に併設されている文庫などをふくめると、日本の文学ミュージアムは百十に達します。個人記念館としては武者小路実篤記念館は二九〇平米ほどで、一番小さいミュージアムだと思います。これからいろいろな企画に関連のある幾つもの東京都のミュージアムが全面的にバックアップしてくれます。かえって非常にいい形で記念館が出来たのじゃないか、美術品はやはり東京都の美術館が預かってくれている、これが最上だと思います。ここで必要なときには運んできて、このゆかりの一番深い地で武者小路さんの仕事にふさわしい立派な展観をするように考えていけばいい。大変理想的な形で、また六年前よりもずっと大きな規模で記念館ができて、内心私のためになかなかできないのではないかということでハラハラしておりましたので、それだけに格別ありがたく、嬉しく思います。

口武者小路辰子さん

こんなお高い所からご挨拶いたしますのは大変申し訳なく存じますが、今日は父の記念館を建てていただきましたことのお礼で、何とお礼を申上げていいかわからない気持ちで一杯でございます。

本当に父と母の住み家でございまして、20年間孫たち七人と始終通っておりまして、私達といたしますと、おじいちゃんとおばあちゃんの家というふうに思っておりました年月が長うございました。そうして、父と母が連れ立つように51年の2月と4月に亡くなりまして、本当に思い出の所でございますが、それから実篤公園を調布市で作ってくださいまして、またこの記念館が出来るまでにもう本当に多くの方々にお世話になりました。そういう人達の、何というのでしょうか、愛情を、父から人々に、人々からまた私ども遺族にも与えて載きましたように存じまして、本当に嬉しく思っております。

この記念館をご覧になりますと、きっと皆さんお分り下さると存じますが、本当に隅々まで愛情が込められているという気がいたしまして、私ども両親を亡くしましても、空しさというものはないように存じました。本当に嬉しく思っております。

この記念館が、これからも本当に調布市の誇りとして生き生きとした、生きているものとして、これからも発展していくように、お礼を申上げると同時に、お願いいたす次第でございます。

本当にありがとうございました。

武者小路実篤記念館年譜について

武者小路実篤年譜は従来、中川孝、紅野敏郎、大津山国夫、渡辺貴二の諸氏、および東京都美術館によってそれぞれ作成されている。本記念館はこれらを貴重な資料として参考にし、このたび武者小路実篤年譜委員会（調布市、新しき村、皆美社、武者小路実篤会）の手によって検討し、本記念館の年譜を作成した。なおこの図録には、これを基本として抜萃再編し、略年表として収めた。

武 者 小 路 実 篤 略 年 表

1885 明治18年

5月12日　東京市麹町区元園町1-38(現東京都千代田区一番町19-4)に生まれる。父、子爵武者小路実世数え35歳、母、秋子(勘解由小路家)数え33歳の8番目の末子。兄姉のうち5人は早く死に、5歳の伊荔子、2歳の公共がいた。実世は明治4年(1871)岩倉具視の遣欧使節団の一行に加わり、3年間ベルリンに留まって法律を学ぶ。

1887 明治20年／2歳

10月　父死去。父は死を前に「この子をよく育ててくれるものがあったら、世界に一人という男になるのだがな」と言ったという。父を覚えていない実篤に、この言葉は強い影響を与えた。

1890 明治23年／5歳

半蔵門近くの幼稚園に通う。病弱で神経質で母は教育に苦心する。4歳から10歳になるまで、毎年夏、鎌倉海岸に行く。

1891 明治24年／6歳

学習院初等科入学。成績は中の上だったが、兄が首席だったため、母から比較されることが多かった。朗読と数学が良く、音楽、習字、図画、作文が苦手。木下利玄と同級。

1896 明治29年／11歳

三浦半島金田に移住した叔父勘解由小路資承のもとに、毎年夏訪れる。

1897 明治30年／12歳

学習院初等科卒業、中等科入学。武課と体操が嫌いだった。

1902 明治35年／17歳

9月　中等科6年の時志賀直哉が同級になり、下級との対立事件を通して親しくなる。

1903 明治36年／18歳

3月　短篇「初恋」のお貞さんにうちあけぬままの失恋が文学へ傾斜させる。
5月　邦語部(弁論部)で初めての演説。以後、直哉とともにさかんに活動。
9月　高等科に進む。兄公共は高等科を首席で卒業し、東京帝国大学法科に入学。
11月　「輔仁会(校友会)雑誌」に「所感録」を発表。○この頃から、トルストイ（ドイツ語訳)、聖書、仏典をしきりに読み、とくにトルストイに強くひかれる。

1906 明治39年／21歳

4月　志賀直哉と富士五湖から赤城山まで徒歩旅行。
7月　学習院高等科3年を卒業、成績がビリから4番だった。
9月　東京帝国大学哲学科社会学専修に入学。大学の授業にあきたらず、小説・詩・対話・戯曲・感想など、形式にこだわらず創作をこころみる。

1907 明治40年／22歳

4月14日　志賀直哉・正親町公和・木下利玄と十四日会をつくり、毎月創作を批評しあう。また、輸入の美術雑誌・複製画や展覧会をともに見て、美術への関心も深める。
8月　外務省に勤めた兄公共と相談、その励ましを受けて、大学を中退。
10月　十四日会で雑誌発行を計画するが、この時は実現せず。
この頃、メーテルリンク『智慧と運命』(ドイツ語訳)を読んだことや、ドイツの理想派の画家クリンゲル等の影響を受け、トルストイの禁欲的傾向から自己の解放を図る。

1908 明治41年／23歳

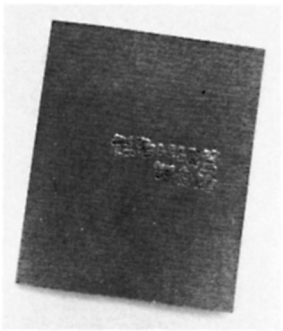
4月　『荒野』初めての出版。(後年未熟として再版しなかった)
6月　東北帝国大学農科大学(旧札幌農学校)に赴任していた有島武郎を訪問、翌月帰京。7月、十四日会で回覧雑誌〈暴矢〉(後に望野と改称)を始める。
○この頃、ドイツの複製画を丸善でしばしば購入、西洋絵画の絵葉書の模写をする。

1909 明治42年／24歳

4月　学習院2年下の里見弴・園池公致・児島喜久雄等の回覧雑誌〈麦〉、3年下の柳宗悦・郡虎彦等の回覧雑誌〈桃園〉と〈望野〉を統合して新しい雑誌を企画。1年間の準備期間をおく。3幕物「ある家庭」(戯曲の処女作)を書く。
10月　上野桜木町のバーナード・リーチを直哉と訪れ、エッチングの講義を聴く。

武者小路家は藤原北家閑流院右大臣三条西実条の二男公種(1631－92)を祖とし、最初の住所によって武者小路を姓とした。家禄130石。代々和歌の家であり、2代実陰は、和歌で霊元天皇に重んぜられ、破格の従一位、准大臣を授けられた。明治以後は華族となり、実世は子爵を授けられた。

〔本略年表の出所〕



調布市武者小路実篤記念館

発　行　昭和60年10月28日
調布市教育委員会
編　集　調布市武者小路実篤記念館
東京都調布市若葉町1－8－30
☎03(326)0648
印刷所　大日本印刷株式会社

著　書	美術・演劇他
荒　野	

		著書	美術・演劇他
1910 明治43年／25歳	4月　雑誌〈白樺〉創刊。有島武郎、壬生馬(のち生馬)兄弟、少し遅れて長与善郎も参加。巻頭に「『それから』に就て」をのせ、夏目漱石から好意のある葉書をもらい。東京朝日新聞に感想執筆を依頼される。 11月の〈白樺〉ロダン号のために有島壬生馬を通してロダンと文通。		白樺社主催南薫造・有島壬生馬滞欧美術展
1911 明治44年／26歳	12月　ロダンに〈白樺〉同人より浮世絵を送ったのに対して、贈られたロダンのブロンズ3点が初めて日本に入る。○岸田劉生が訪問、交友が始まる	お目出たき人	白樺主催泰西版画展(ムンク等) 白樺主催洋画展
1913 大正2年／28歳	2月　竹尾房子と結婚。	世間知らず 生長　心と心	白樺第4回展（ロダン）第5回展
1914 大正3年／29歳	5月　生家を出て麹町区下二番町に家を借りる。8月、漱石のすすめをうけて短篇「死」を〈朝日新聞〉に発表。	わしも知らない 死	白樺第6回展　梅原良三郎〔龍三郎〕展 泰西版画・複製展
1915 大正4年／30歳	1月　神奈川県鵠沼に転居。3月、戯曲「その妹」を〈白樺〉に発表。	彼が三十の時 向日葵	白樺第7回展 ○わしも知らない(文芸座)
1916 大正5年／31歳	2月　小石川区小日向台町に転居。○「或る青年の夢」を〈白樺〉に連載。 12月　千葉県我孫子町字根戸に家を建てて転居。我孫子には志賀直哉や柳宗悦が以前から住み、バーナード・リーチものちに移住。	その妹　小さき泉 後ちに来る者 小さき運命	○二つの心(新富座) ○清盛と仏御前(芸術座)
1917 大正6年／32歳	〈白樺〉10月号に「美術館をつくる計画に就て(並びに同志の人の寄附をつのる)」を発表。日本最初の西洋近代美術の美術館設立を提唱。	ある青年の夢 日本武尊 新らしき家 カチカチ山と花咲爺	○その妹(舞台協会) 悪夢(牛込芸術倶楽部)
1918 大正7年／33歳	3月　白樺美術館の基金をつくるため、白樺同人の合著『白樺の森』刊行。 7月　「ある国」(のち「新しき村に就ての感想」)を大阪毎日新聞に発表。月刊〈新しき村〉を創刊。　8月、新しき村本部を東京につくる。 9月　我孫子を出発、東京・浜松・信州・京都・大阪・神戸・福岡で新しき村の演説会。 11月　宮崎県児湯郡木城村大字石河内字城に「新しき村」(2.5ha)建設。三方を川に囲まれた山村。最初の住人は子供2人をふくむ17人。	我孫子より 新しき村の生活 或る脚本家 雑感	○だるま(市村座) 白樺第8回展(ギリシャ、ルネッサンス等複製)
1919 大正8年／34歳	新しき村で、家作りのための材木運びや麦まき等に従事。 毎年2回ほど上京、「白樺」「新しき村」のための活動、身辺の用事を果すとともに、各地に講演旅行をする。白樺同人合著『白樺の園』『白樺の林』刊行 4月　〈白樺〉10周年。記念号を発行の他、「記念演説会」「岸田劉生個展」(この展覧会を武者小路兄に捧ぐ)「記念音楽会(柳兼子等)」を開催。 7月　周作人(魯迅の弟)訪村。○「友情」を〈大阪毎日新聞〉に連載。	自己を生かす為に 第二の母 幸福者 一つの道	○二つの心(白樺演劇社第1回試演会)
1920 大正9年／35歳	東京市外長崎村(現豊島区)に「新しき村」印刷所・曠野社創設(～大正15) 4月　隣村川南村に「第二の新しき村」をつくる。○志賀直哉訪村。	人間的生活 新しき村の労働 友情　耶蘇	○二十八歳の耶蘇(帝国劇場)
1921 大正10年／36歳	1月　「新しき村」最初の住居を兼ねた集会所焼失。すぐ復興にかかる。 4月　〈生長する星の群〉創刊。(～大正13年)	土地 未能力者の仲間 生きんとするもの	白樺美術館展(ゴッホ、セザンヌ)
1922 大正11年／37歳	2月　有島武郎・志賀直哉編『現代三十三人集』刊行、村の水路のために印税寄付。 9月　長与善郎訪村。「人間萬歳」を〈中央公論〉に発表。 10月　「村のための会」(講演・演劇)で「神と男と女」「天国に旅する学生(ハンス・ザックス)」を上演。中川一政・犬養健・倉田百三・実篤・房子等出演。河野通勢装置。ついで京都でも上演。 房子と離婚。前年入村した飯河(いいこう)安子と結婚。	燃ゆる林 女の人の為に 彼の結婚と其後 二人の彼	○一日の素盞嗚尊(帝国劇場) ○張男の最後の日(有楽座)
1923 大正12年／38歳	4月　戯曲「楠正成」を〈中央公論〉に発表。　6月　有島武郎自殺。 9月　関東大震災、母は無事だったが生家は焼失。〈白樺〉9月号未刊のまま廃刊。 12月　長女、新子出生。 この頃から、絵(鉛筆素描、墨画淡彩)に熱心になる。	彼れの青年時代 第三の隠者の運命 武者小路実篤全集 全12巻(芸術社)	
1924 大正13年／39歳	1月　〈新しき村〉〈生長する星の群〉を合併「人間生活」発行。(～11月) 4月　志賀・長与・倉田らと雑誌〈不二〉創刊。(～大正15年7月) 11月　〈新しき村通信〉を村から創刊(～昭和14年3月165号)	或る男　人間萬歳他 新しき村の今後 草原　桃源にて 自分達の使命 建設の時代	○桃源にて(麻布南座)

		著　書	美術・演劇他
1925 大正14年／40歳	2月　木下利玄死去。次女、妙子出生。　6月　叔父勘解由小路資承死去。 7月　村に印刷所を作る。ドイツのレクラム文庫にならって、日本最初の文庫本「村の本」刊行。 12月　離村して村外会員となり、志賀直哉の在住していた奈良に移る。	泉と鐘 人生を斯く考へる 詩百篇 運命と人々 愛慾	○人間萬歳(帝国劇場)
1926 昭和元年／41歳	1月　奈良市水門町に転居。昭和14年埼玉県に「東の新しき村」を創るまで、毎年2度は訪村、執筆活動で引きつづき村の財政を支える。 12月　和歌山市西高松に転居。同市西正寺に姉伊嘉子の墓がある。	自然 人生 社会 死に克つには 孤独の魂 気まぐれ日記	○愛慾(築地小劇場) 生命の王(築地小劇場) ある日の一休(先駆座)
1927 昭和2年／42歳	2月　東京府南葛飾郡小岩村(現葛飾区)に転居。○小説「母と子」を〈朝日新聞〉に連載。 4月　実篤主宰編集〈大調和〉創刊(～3年10月)。白樺同人の他、高村光太郎・倉田百三・千家元麿・生田春月・室生庫星・菊池寛・野上弥生子・平塚雷鳥等が執筆。 西巣鴨に「新しき村」東京支部を設立、第1回「木曜会」を開く。(同会は大戦末期の約半年間を除き、今日まで継続) 9月　「最初にかいた油絵」と記す〈南瓜〉を描く。以後、油絵もさかんに描くようになる。　10月、牛込区左内町(現新宿区)に転居。	人類の意志のまま 若き人々 運命と葬をする男 文芸雑感 平和の民 母と子	第1回新しき村展 第1回大調和展
1928 昭和3年／43歳	1月　麹町区下二番町に転居。有楽町に「新しき村の会場」を作り、毎月のように講演会、室内劇、毎週座談会を開く。月刊〈第三の者〉を刊行。 11月　母、秋子死去。三女、辰子誕生。個人雑誌〈獨立人〉を創刊(～5年3月)。	思ったまゝ 雪舟	
1929 昭和4年／44歳	4月　東京市外下落合(現豊島区)に転居。 5月　「第4回国画会展覧会」に油絵3点入選、以後毎年出品。 9月　「新しき村」満10年。佐藤春夫が発起人となり、文壇・画壇69氏の作品を集めた『十年』(改造社)を出版、その印税を村に寄付。 東京市外祖師ヶ谷(現世田谷区)に転居。 12月　神田猿楽町に美術店「日向堂」を設立。○岸田劉生死去。	日蓮 劇五篇	最初の個人絵画展(日本橋・丸善)
1931 昭和6年／46歳	1月　雑誌〈星雲〉を創刊(～9月)。○小説「井原西鶴」を〈時事新報〉に連載。 7月　東京市外砧村喜多見(現世田谷区)に転居。	詩　集 二宮尊徳 棘まで美し	○日蓮(帝国劇場) ○出鱈目(村・演劇部) 実篤近作洋画展
1932 昭和7年／46歳	5月　「国画会」会友となる。 11月　長与善郎と月刊二人誌「重光」を創刊(～9年10月)。	大石良雄	
1933 昭和8年／48歳	3月　月刊雑誌〈新しき村〉を復刊(以後断続して15年まで)。 7月　新しき村演劇部第7回公演「詩人の夢想」に出演。 11月　新しき村誕生15年を記念し第1回「新しき村祭」を東京赤坂三会堂で開催。	論語私感	○愛慾(築地座) 義時と泰時(左団次一座)
1934 昭和9年／49歳	1月　市外吉祥寺鶴山小路885に転居。 12月　吉祥寺日向小路645に転居。	維摩経　釈迦 空海及び其他	
1936 昭和11年／51歳	4月27日　横浜より欧米旅行に出発。　10月、パリにてマチス、ルオー、ドラン、ピカソを訪問し、ピカソからエッチング《ミノトール》(現在、東京都美術館蔵)を贈られる。アメリカを経て、浅間丸で12月帰国	志賀直哉の手紙 トルストイ 欧州見聞記	実篤小品集
1937 昭和12年／52歳	6月　芸術院会員となる。市外三鷹村牟礼359に転居。	楠木正成 一休 曽呂利 良寛	実篤渡欧小品展 実篤色紙展
1938 昭和13年／53歳	宮崎県営の水力発電所建設のため、日向の新しき村の1haの耕地が水中に没することになり、東京近郊に新しき村建設の土地を探す。	人生論 愛情の書 ルオー	実篤日本画展(京都・大阪・東京2回) 実篤近作展
1939 昭和14年／54歳	9月　埼玉県入間郡毛呂山町、1.08haの丘陵地に、東の新しき村を創設。	愛と死　井原西鶴 蝸牛独語	実篤新作展
1940 昭和15年／55歳	3月　小説「愛と死」で菊池寛賞を受ける。 9月　三鷹村牟礼490に転居。○小説「幸福な家族」を〈婦人公論〉に連載。	湖畔の画商 幸福な家族 楽園の子等	実篤日本画展(大阪) 実篤個展 ○七福神(文学座)
1941 昭和16年／56歳	5月　新しき村機関誌〈馬鈴薯〉を創刊。神田神保町に「新村堂」を開設。	孔子　無車詩集 息子の結婚	
1942 昭和17年／57歳	5月　日本文学報国会劇文学部長に就任。 10月　長女新子、木村龍蔵と結婚。 11月　大東亜文学者大会が東京で開催され、講演。	画集と画論 東西六大画家 美術論集	「画集と画論」出版記念近作展

		著書	美術・演劇他
		希望と回想	
1943 昭和18年／58歳	4月　中国・南京で開かれた中日文化協会大会日本側参加団に加わり渡航、周作人と再会。○倉田百三死去。	美術を語る 暁 三少年国を護る 豊太閤の手紙	実篤日本画展 ○三笑（芸文座）
1944 昭和19年／59歳	3月　〈馬鈴薯〉終刊、戦時政策のため〈文芸日本〉へ強制合併。	野菜讃　三笑	実篤個展
1945 昭和20年／60歳	3月　三女辰子、武者小路穣と結婚。 4月　家族と伊豆大仁を経て三条市へ疎開。 5月　新しき村会員により東京の自宅で還暦の誕生会。 6月　秋田県の近郊稲住温泉に移る。 8月　終戦を知った1日だけ原稿も画も書かなかった。9月、帰京。10月、小説「愚者の夢」を脱稿。12月、新しき村講演会を東京文化学院（以後数年毎月各所で開催）	武者小路実篤脚本 詩と劇	実篤個展
		人生の書	
1946 昭和21年／61歳	3月　勅選議員に任命される。　7月、公職追放令G項該当、勅選議員・芸術院会員を辞任。毎年春秋京都旅行。	若き日の思ひ出 愚者の夢　虹 新日本の建設	実篤旧新作展
1947 昭和22年／62歳	1月　雑誌〈向日葵〉を創刊（～3月）　○この年　長与善郎、志賀直哉、安倍能成、和辻哲郎、小泉信三らと新しい雑誌発行を計画する。	稲住日記 愛と人生　歓喜 美しき時代	実篤個展（京都他2回） 新しき村美術展（都美術館）
1948 昭和23年／63歳	3月　新しき村を財団法人とする。千家元麿死去。 4月　次女妙子、安宅侃三郎と結婚（武者小路姓を名のる）。	混沌　岸田劉生 芸に生きる人々	
	7月　雑誌〈心〉創刊、文壇・画壇43人の同人で生成会をつくる。 11月　新しき村30周年を祝う会を共立講堂で開催。	レンブラント 美はどこにも ある彫刻家	
1949 昭和24年／64歳	4月　月刊〈新しき村〉を復刊。○小説「真理先生」を〈心〉に連載。 9月　埼玉新しき村「東の村満十年を祝う会」を東の村にて開催。	人間釈迦 第三人生読本	実篤油絵展 実篤個展（日本橋・壺中居、昭和50年まで毎年開催）
1950 昭和25年／65歳	11月　倉敷の大原美術館が開館20周年を迎え、白樺の同人とともに訪問。さきに白樺美術館が購入したセザンヌの《風景》とロダンから贈られた彫刻3点を同館に寄託。倉敷で講演。	愛と美の人生論 幸田露伴 生き残った者	新しき村美術展
1951 昭和26年／66歳	8月　公職追放解除。 11月　文化勲章を授与される。三鷹市名誉市民の称号を贈られる。	理想的社会 真理先生 笛を吹く	実篤日本画展（上野・松坂屋、昭和50年まで毎年） ○その妹（劇団民芸）
1952 昭和27年／67歳	3月　中川孝の永年のコレクションを「実篤文庫」と命名した。新しき村会員からも多くの資料寄せられる。　4月、芸術院会員に再選。	武者小路実篤詩集	実篤個展（大阪） ○その妹（慶応義塾）
1953 昭和28年／68歳	11月　新しき村誕生35周年祭を東の村で行う。「この道より我を生かす道なしこの道を歩く」の詩柱建立。	のんきな人達 空想先生　馬鹿一 我が人生の書 後然草私感	実篤近作展（大阪・京都各2回、東京） ○その妹（松竹映画化） 第7回新しき村展
1954 昭和29年／69歳	5月　文壇画壇35氏発起による古稀祝賀会、東京会館で開催。 京王線仙川の近くに泉と池のある土地を買う。（北多摩郡神代町入間468番地・現実篤公園）	花は満開 武者小路実篤全集 全25巻（新潮社）	古稀祝寿展（銀座・上野） ○めでたし（NHKラジオ） ○人間萬歳（宝塚雪組）
1955 昭和30年／70歳	11月　新しき村36周年祭（東の村15周年）挙行。東の村の名称を廃し「新しき村」と呼ぶことに決める。 12月　仙川の新居に転居（山口芳春設計）	我が人生と真実 馬鹿一萬歳 我が信念の書 古稀畫帖 恋愛論	○愛と死（ラジオ東京） 実篤十年間の作品 個展（日本橋壺中居） 「心」生成会書画展 実篤近作展（新宿・伊
1965 昭和40年／80歳	5月　東京都より名誉都民称号を贈られる。満80歳祝賀会を上野精養軒で開催。		実篤小品展
1966 昭和41年／81歳	5月　書画落款を「実篤」と当用漢字に改め、年齢を書き添えることとする。	のんきな男とのんきな造物者 思い出の人々	実篤人形画展 大調和展 我が愛する書画展
1968 昭和43年／83歳	4月　新しき村に50周年記念碑が建つ。 7月　NHK教育テレビで中川一政、臼井吉見との対談「この人と語る」放映。 8月　日向新しき村のある木城町で記念碑2基を除幕。 11月　「新しき村50周年祭」を文京公会堂で開催。講演、長篇詩「新しき村五十年の祭日に読む為につくる」を朗読。　○自伝「一人の男」を〈新潮〉に連載（42年～45年）	或る男と創物者 実篤選集全8巻 考え方思い方 真実の世界 若き日の為に 対談鼎談集 青春に贈る	実篤書展 ○その妹（俳優座新人会） 実篤近作展 実篤日本画展 熊谷守一・実篤展 心20周年記念展 新しき村50周年展

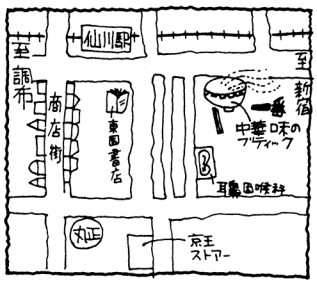
		著書	美術・演劇他
1956 昭和33年／73歳	1月　ＮＨＫテレビ亀井勝一郎と対談「伝統の美術」 7月　ＮＨＫ第２で「絵と彫刻の美について」放送。	山谷五兵衛 二宮翁夜話私感 画をかく喜び この道を歩く 白雲先生 人生をどう生きるか 人生随想	勢丹・昭和33年まで毎年） ○愛と死(ニッポン放送) 実篤個展（銀座） 仕合せな馬鹿(NHKラジオ) 実篤色紙短冊展（大阪） 実篤油絵新作展 実篤小品展 生成会この道展
1958 昭和33年／73歳	11月　「新しき村40周年記念祭」を九段会館で開催。新しき村、自活達成。		
1960 昭和35年／75歳	1月　「志賀直哉と対談」「里見弴・吉井勇と鼎談」「中川一政と対談」放送。 5月　月刊〈新しき村〉を〈この道〉に改題。 11月　梅原龍三郎、中川一政らを中心に、この道会を結成。「この道会記念展」を日本橋・壺中居での開催、収益を新しき村に寄付。		
1961 昭和36年／76歳	5月　文壇・画壇57氏の発起による喜寿祝賀会を椿山荘で開催。650名の参会者。 9月　東京12チャンネルの座談会「劉生33回忌に因んで」に中川一政、岸田麗子と出席。 ○この年、柳宗悦、長与善郎死去。	或の男の雑感 実篤　画と文 道徳論	喜寿記念展 ○だるま(NHK教育) ○お目出たき人(NHK) 実篤近作展
1962 昭和37年／77歳	4月　第７回「美術家祭」で日本画家高齢功労者として表彰。兄、公共死去。 11月、トルストイ記念祭で講演（日本青年館）。	私の貝殻	実篤日本画展 大調和展（復活第1回以後毎年出品）
1963 昭和38年／78歳	8月　日向新しき村が財団法人となる。 11月　新しき村45周年記念祭を共立講堂で開催。	人生の言葉 武者小路実篤画冊 六人の現代画家 馬鹿一の一生	実篤彩墨展 実篤近作油絵展 心同人陶器展 実篤書展　実篤個展
1969 昭和44年／84歳	1月　東京12チャンネルの「私の昭和史１・新しき村の五十年」に出演。 4月　日向新しき村に50周年記念碑が建つ。 7月　東京12チャンネルの「人に歴史あり」に出演。	人生の特急車の上で一人の老人	実篤作品展（酒田） 実篤書展
1971 昭和46年／86歳	5月　「武者小路実篤展－そのゆたかな流れ」東京都近代文学博物館で開催。 ○志賀直哉死去。	自選詩画集	実篤満八十五歳展 和と真・実篤展 大調和回顧展
1972 昭和47年／87歳	5月　米寿祝賀会を丸の内・東京会館で開催。文壇・画壇、新しき村会員など数百名参会。	一人の男 無限に広がる心 人間はいかに生くべきか	米寿記念福寿開展 心25周年記念展 ○詩「笛を吹く」バレエ化（牧阿佐美バレエ団、孫娘有紀子主演）
1973 昭和48年／88歳	6月　夫人、安子が東京女子医大病院に入院。９月中旬、退院。	愛・人生・死 美愛真 愛・幸福・人生	
1974 昭和49年／89歳	11月　新しき村の機関誌〈この道〉を創刊時の〈新しき村〉と改題。 油絵静物（讃あり）、最後の作品となる。当館所蔵。○園池公致死去。	私の美術遍歴	白樺とその周辺－書画展
1975 昭和50年／90歳	１月末、安子２回目の入院、３月末退院。 4月　「白樺派の作家展」日本近代文学館で開催。 5月　卒寿祝賀会を信濃町・東医健保会館で開催。 6月　「武者小路実篤卒寿記念展」を大阪・高島屋で開催。 この夏は健康がすぐれず、〈心〉〈ＰＨＰ〉〈うえの〉〈新しき村〉に連載の原稿もほとんど休稿。 安子、実篤記念のため、土地・家屋・美術愛蔵品等を公的なものとする旨の遺言状を作成。 12月　安子、上祖師谷至誠会病院に３度目の入院。		真と和の画業・実篤作品展 第28回新しき村美術展 ○九十歳の春（NHKテレビ）
1976 昭和51年／91歳	１月　自宅仙川例会（毎月第２日曜）に最後の出席。危篤を続ける安子を入院先に見舞い、翌日脳卒中の発作を起し病床につく。 ２月　安子夫人死去。 ３月　狛江の慈恵医大第３病院に入院。 4月9日　早朝４時25分、死去。10日、近親と新しき村の会員により、仙川の自宅で密葬。24日、青山葬祭場で無宗派の葬儀を挙行。斎場は谷口吉郎設計、葬儀委員長は梅原龍三郎、里見弴、中川一政の３名、会葬者1,500余名。 5月16日　新しき村大愛堂に、３月に納められた安子の遺骨と並べて納骨。 8月　東京都調布市若葉町の自宅並びに愛蔵品は調布市に、近代美術品・文学資料は東京都に、一部は新しき村、三鷹市等に、それぞれ寄贈。		新しき村、心、信州白樺、追悼号。新潮、群像、海、文芸、現代、婦人公論、婦人之友、新美術新聞ほか日刊紙、週刊誌が追悼記事を掲載。 追悼新しき村美術展、人生の詩人・武者小路実篤展

TEA ROOM

白い壁に藤の1号
明るい"おしゃべり動物園"
へぜひ どうぞ

チャティー・ずう

仙川商店街通り（西友前）　☎308−9278



ライト感覚の新しいタイプの中華店!!

ラーメンがうまいよ!!

ちゅうか味のブティック 一番

12:00 ～ 1:00　第2，4月曜定休　☎309－6755

心と心のふれあいを大切にします

ボーナス有利にグーンとアップ　最もおトクな　期日指定定期預金

EIRAKU 永楽信用金庫　仙川支店　☎326－7001

Elégance boutique

ehime　CHOFU SENGAWA 1－12－12 TEL 326－2476

仙川 モッテ 画材・額縁

お蔭様で開店11周年を迎えました　☎300－8287

高級婦人服地

QUEEN
MODE FABRIC

クイン

仙川通り（西友前）　☎ 308−3819

皆様に喜ばれ
毎日のくらしに役立つ

西友仙川店

南側　無料駐車場あり
☎ 309−0111

SEIYU
西友

心やすまる　ティールーム

喫茶 ラボール

仙川駅第一勧銀前
9：00〜23：00　☎ 308−4419

男のファッション
MEN'S
ツカモト

仙川商店街中程　☎ 300−6707

私、おでんで好きなのは、
たまごにだいこんッ
あ〜ふっふう〜！

甘み処 よしきり

仙川町1−16　300−8481

《若葉町二丁目仙川教会前》

☎ (03) 308−8018

若葉歯科医院

午前　10：00〜12：30　休診日 木曜日
午後　2：00〜8：00　日曜日はAM10:30〜PM2:30まで

〒182 調布市若葉町2−19−38
（ハイムシナジー若葉町2F）

おいしいお茶と海苔の専門店

●都内無料宅配（含む三多摩地域）
●地方発送承ります

お茶と海苔
仙川商店街中央・藤屋ビル1F
☎ 307・7288
やまりや
金山利臣

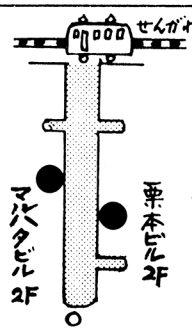
春4月、央舟一人芝居
ロングラン開始!!

琵琶モノドラマ
耳なし芳一
吉田央舟

毎週金曜午后8時・問合せ307・6015
スペース仙川8時劇場

炉端焼
くいだおれ

☎ 326−3530

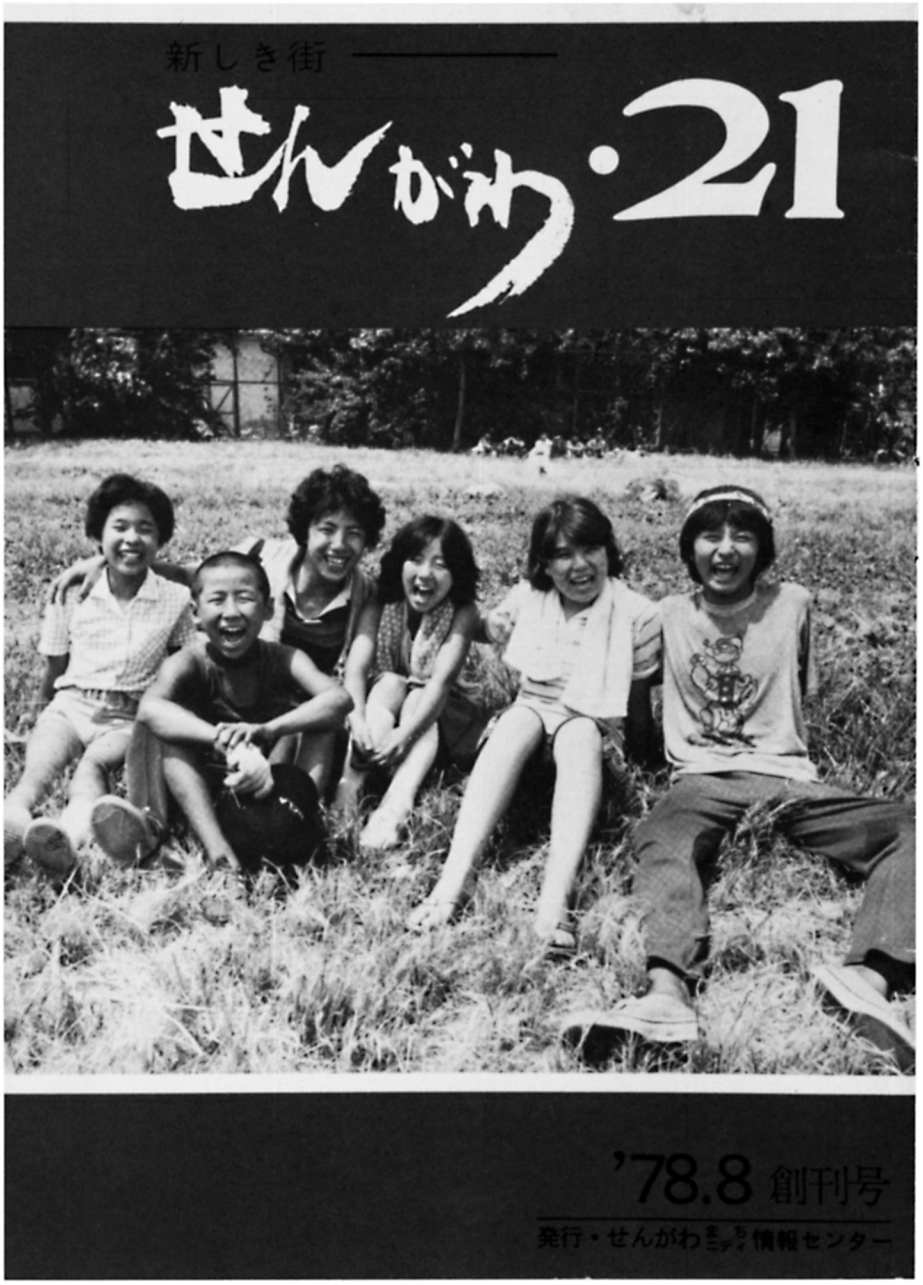


カラオケ
PUB
くいだおれ

☎ 309−3734

流れゆく時空の中で……

こんなに成長しました。どれが誰だか分かりますか？



本誌創刊号の表紙　'78年８月号の子どもたち

丹下美和さん　杉原伸之君　平沢恵美さん

榎本竹伸君

西沢さんと吉田君は残念ながら撮影できませんでした。

▲失なわれたものはなつかしい……仙川駅舎

■ 仙川の変化と不易 ■

1978年

1985年

▼緑ケ丘の仙川は緑豊かに流れ……

▼旧仙川村からの菩提寺－新装・昌翁寺

▲入間川を渡る京王線の土手

▼まち境いのランドマーク－仙川遺跡

▼仙川寺町にも町並みの美しさを!!

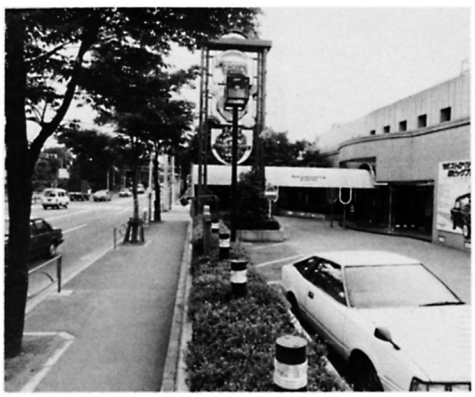
▼モールとは快適に歩ける道のこと……

マップ21

ニューフェース
せんがわ10景

⑥ 緑ケ丘に待望の郵便局

⑦ 夜景が楽しい郊外型レストラン

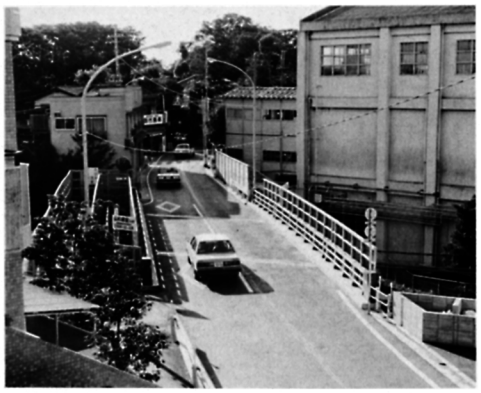


⑧ 和光堂研究所－研究タウン仙川へ

⑨ 中層化すすむ若葉町通り

⑩ ハケ沿いの緑を確保－入間公園

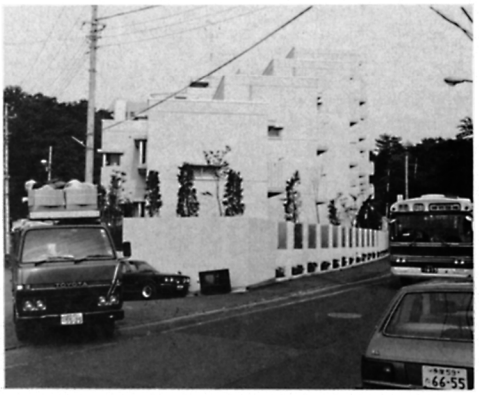
① 京王線をまたぐ新装・大正橋



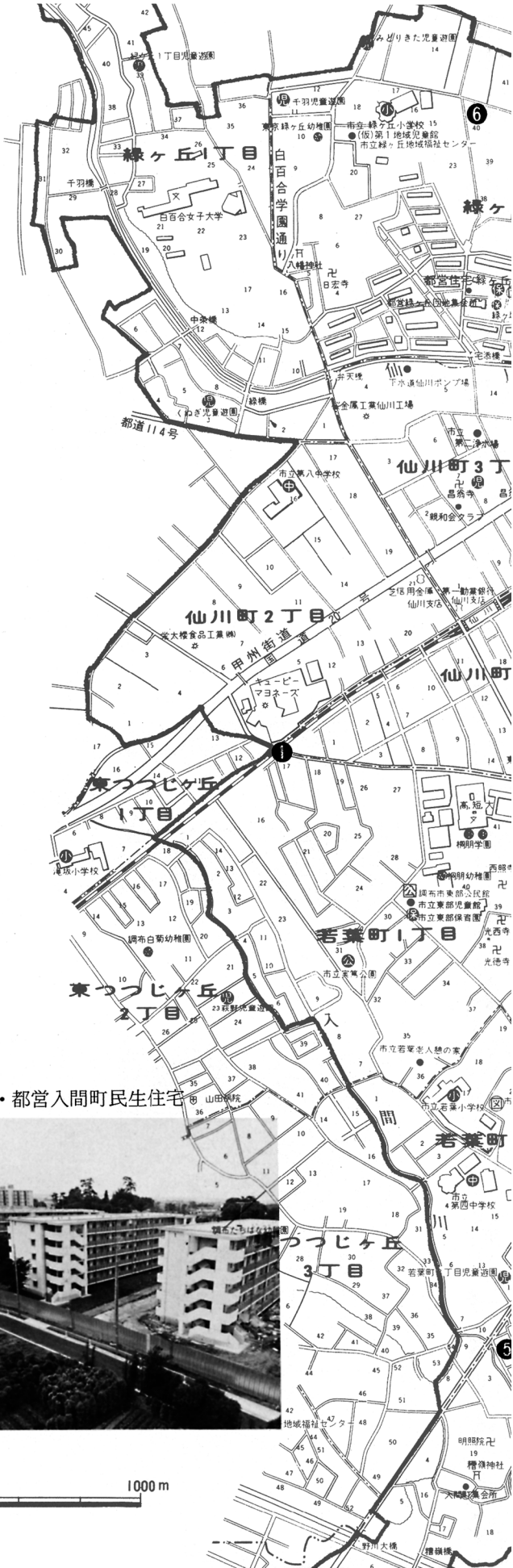
② スッキリなった神代高校フェンス

③ かつてのうっそうとした雑木林は

④ 坂道に沿ったシャレたマンション



⑤ ニュー・都営入間町民生住宅



カメラの眼でみた ―

〝仙川という街〟の変化

加藤　純一郎

「せんがわ・21」創刊当時（'78・8）から七年余りを経た、今日の〝仙川という街〟の変貌をしっかりととどめておきたかった。

十年位前からであろうと思うが、気が向いたときに仙川にやって来て、特別にあてがある訳でもないのに、ただうろうろするようになっていた。

今年の四月頃だったか、ある日、若葉の森の坂道を登り切った時、以前にはあったはずの森が、ごっそりとなくなってしまっていた。一部分だけ残った生垣の間から、一面掘り返えされた土と、右手に建ったばかりの白いマンション、ほぼ正面に新しい家が目に入った。そう言えば、しばらくこのあたりには来ていなかったけど、一体いつこんな姿になったのだろう、と愕然としてしまった。地主さんには申し訳ないが、犯人は誰だろう、とさえ思った。探してみると生垣の端の方に、俺がやったんだよ、と言いたげにブルドーザーがデーンと座わり込んでいた。

その後ここを通る度に、気になって見渡していると、いつの間にか種がまかれ、今は、数種類の野菜畑になっている。なぜかホッとした。一時は、こんなに掘り返して、このあとここはどうなるのだろう、何か建物が、などと心配ばかりしていた。通勤・通学あるいは買い物道として、毎日ここを通る人はどんな思いをしていただろう。私などは、時々気が向いた時に通りかかるだけの関係であるが、地元の人にとっては、はるかに大きな関心事ではなかろうかと思う。

街も生きものであり、時々刻々、成長し変化する。地域環境として、人が住み生活する環境として成長、変化であってほしい。私は仙川に住む一人ではない。なぜか仙川に行きたくなるよそ者の一人として、その成長をしっかりと見させていただきたいと思っている。

大小さまざまに、至る所で成長・変化がある中で、一帯の森が、ある日なくなっていたことが、あまりにも鮮烈に印象に残った。このことがきっかけとなって撮影を始めたが、ほんの一部分、ほんのわずかな部分しかとらえられていないと思う。微々たることしか出来ずとも、ほんの小さなことにも目を向け、私は私なりに、仙川の街を写真によって記録し残しておきたいと思う。いつまで続けられるかわからない、そんな無責任な姿勢ではあるが、それはそれとしてお許し願いたい。

それにつけても、七年間という時間を改めてかみしめる。創刊号の表紙に登場していただいた当時の彼等が、成長した姿はまことにみごとであり、驚きであった。六人の方々のうち、一人は他の土地に引っ越されていて、一人は電話でお話しが出来、一人は私自身はお話しも出来なかった。編集サイドの努力の結果、三人の方だけお集まりいただけて、当時とは少し変わった仲よし広場で撮影が出来た。三人にとっては、あんなに広いと思っていた場所が、狭く感じられたのではないかと思う。

私にとって、三人の方々と七年振りに会え、同じ場所で、しかも同じカメラで撮影出来たことがなんとも嬉しいことであった。今後七年間には、仙川はさらにどう成長・変化するのであろうか。

作品集
仙川の四季
―秋―

予約受付中!!
白黒・六ッ切プリント
30点――3,000円

予約申し込み先
03-480-7656
加藤　純一郎
〒201
狛江市中和泉5-30-11

ボンネットバス メモランダム

現在はバス路線がなくなってしまった桐朋前の通りで ▲

15年前の仙川終点。ヘッドライト一灯のバスもなつかしい ▲

このあたりは今もあまり様子が変らない(和光堂付近) ▼

▼ 終点間近。いつもこれ位すいてるとよいのだが・・・・

写真提供：佐野敦氏

雨の宮下橋を渡る仙川行 ▶

▲ 運転席と後部座席。後部の中央は非常口だった

そこのけそこのけバスが通る ▶

▼ 降り出した小雪をついて坂を登る

犬をつれて仙川を渡る ▶

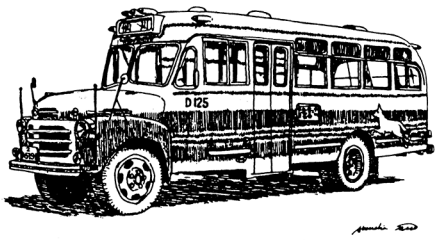
（撮影・昭和44～49年）

ボンネットバス メモランダム

佐野　敦

今でこそ都内の路線バスといえば、出入口の2カ所あるワンマンカーが当り前の世の中ですが、10年ちょっと前までは仙川にもボンネットバスがはしっていました。

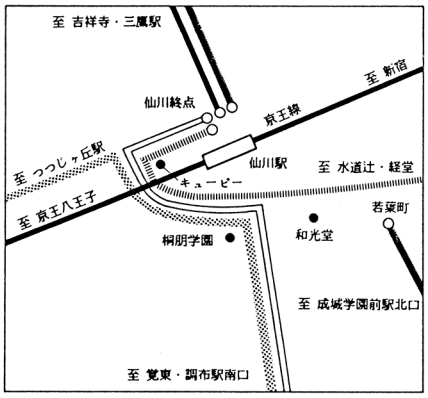
私が祖師谷の自宅から仙川にある幼稚園・小学校へ通うのもこのボンネットバスを利用しました。当時は図－1の様な丸味を帯びたバスが使われており、写真にある様なバスは昭和36年にはいってから使用され始めました。私はまだ小学生になったばかりの頃でしたが、鼻の先から見えてくるバスが四角っぽいのを見つけると「ワァー！新車だぞ!!」とバス停で小踊りして喜んだのを覚えています。あの時の感動が今でも生々しく甦えってくるところをみると「乗合自動車溺愛症候群」の兆しは既にこの頃から出始めていたようです。



▲図－1　丸味のある旧型車（ニッサン）
道の狭い路線を中心に使用された。

私が利用していた路線は経堂↕仙川線ですが、これはもともと昭和28年に吉祥寺↕経堂線として開通したもので、その後昭和35年に狛江営業所が出来た時に吉祥寺↕仙川と経堂↕仙川に分割されました。開通当初の担当である吉祥寺営業所では、この路線の道幅が狭いのを生かして(?)営業所に配属されたばかりの運転士さんの練習路線に充てていたそうで「おい、ちょっと経堂まで行って練習してこい！」といった感じで車庫を出て、戻ってきても多少のキズや凹みは大目に見てもらえたとか。

現在、成城学園前駅から若葉町を通り、和光堂の前を通って調布駅まで行く路線は、成城学園駅↕若葉町と仙川↕調布駅南口の別々の路線が整理されてできたのですが、更に遡れば後者は吉祥寺↕覚東という路線がそのルーツにあたります。この路線では図－3の様なバスが仙川に顔を出していましたが、これはボンネットバスのうちでは大型の部類で、図－1や写真のバスに比べて幅が約20センチ広く現在の大型バスとあまり変りません。一方、図－1や写真のバスと同じ幅で現在成城学園前駅↕調布駅南口線に使用されているバスは幅が狭いことから俗に「ナローバス」と呼ばれています。これは桐朋学園前から若葉町までの道幅が狭いからですが、仙川↕経堂線が営業していた頃は道路事情がもっと悪く、バス同士のすれ違いもなかなか大変でした。昔は道路脇の側溝に蓋がなかったので、バス



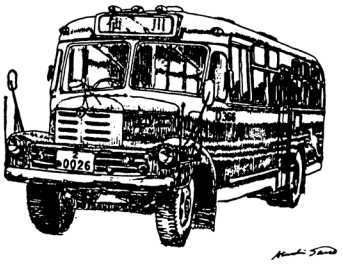
▲図－2　昭和40年頃の仙川周辺バス路線

▲　現在の仙川終点と最新型バス（三菱）
待合せ用のベンチとシェルターができた他は15年前と殆んど変っていない。

の車輪が落ちてしまうこともよくありました。

小学校からの帰り、やはりバス同志のすれ違いで向こうのバスがどぶに落ちてしまい、こちらのバスの運転士さんと車掌さんは引き揚げの応援に行ってしまいました。他の大人の乗客は降りて歩いて行ってしまい、車内は吊り輪・鉄棒・マットと揃った体育館へと早変り。それにしても運転席に坐らなかったのは今にして思えば残念なことをしたものです。

その後経堂周辺の工事や交通規制等で、この経堂↕仙川線は昭和41年から3年程水道辻という所まで路線短縮となり、経路変更して経堂までの路線が復活したものの2年後の昭和46年12月に利用客が少ないため廃止となってしまいました。これと前後して狛江営業所に残っていた10数台のボンネットバスも5台になり、更に昭和48年には2台に、そして翌49年12月に都内最後の営業用ボンネットバスは残念ながら廃車となりました。

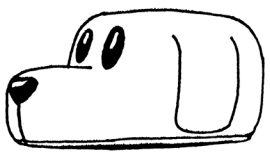


▲図－3　大型のボンネットバス（いすゞ）

昭和40年代前半までに仙川周辺からは姿を消した。

ところで、ボンネットバスの魅力とは一体何なのでしょうか？

まず第一にそのユーモラスな形を挙げることができます。適度な丸味と鼻の様に突き出たエンジンルームは、どちらかと言えば機械よりも生き物に近い印象を与えるのではないでしょうか。手塚治虫氏の名作『鉄腕アトム』では、21世紀という時代設定にも拘らず「ワンワンパトカー」という、それこそボンネットバスに通じる形態をしたパトカーが登場するのですが、これなどはどことなく親しみが湧いてきます。次に、ほどよい大きさという点に着目できるのではないでしょうか。やや独断的ではありますが、国電と路面電車とを比較した場合、車内の雰囲気が前者はよそよそしい感じなのに比べ、後者は何となくなごやかで乗客同士のコミュニケーションが生れそうな気がします。これは電車の運転される速度等も密接に関わっていますが、客室の広さという点にも着目する必要があります。つまり人間的スケールに近い方がなじみ易いため、ラッシュ時の窮屈さという問題点はあるにせよ、広すぎない車内空間にある種の安心感を無意識のうちに覚えていると思うのです。第三点目は、ボンネットバスに限られたことではありませんが、ツーマン車であったことも見逃せない要素です。前項のコミュニケーションという点とも関わってきますが、ワンマンカーに於ける料金のやりとり、無味乾燥なテープの車内放送、そして押ボタンによる無言の合図に比べ、車掌さんとの事務的であるにせよ会話のある運賃の支払いや、手と目による降車の合図とそれにうなづいて答えてくれたツーマンカーの持つある種の暖か味は、現在の社会が失ってしまった大切なものを象徴している気さえします。



▲図－4　ワンワンパトカー

手塚治虫氏の名作「鉄腕アトム」に登場するパトカーで，耳に相当する部分が出入口となっている。

「どこまで行くんだい？」と運転士さん。

「宮下橋」と一番前の席は陣取る幼少の私。

「今日は木曜だから宮下橋はとまらないよ」

冗談とわからずに泣き出した私に、今度は運転士さんが慌ててしまったことがありましたが、今となっては楽しい想い出です。

現在、日本各地で観光用或いは自家用でまだボンネットバスが頑張っています。台数は勿論数える程ですが、東京近郊では八王子駅から陣馬高原下まで乗車することができます。但し4～6月と9～11月の休日のみの運行ですが女性のガイドさんも乗車しているので、ハイキングがてら一度行ってみてはいかがでしょうか。

お茶とのりの名門店

お年始大売出し　　市内・都内配送無料

青香園

地方発送承ります

仙川町1－18－4　☎300－8737　東京相互銀行前

丹波路　山路の露　栗ようかん　お年始に御利用ください

笹子見し幸巻餅の柔ら幸　汀女

御菓子司　光輪堂

若葉町2－14－5（和光堂横）　木曜定休　☎308－1455

珍味、新鮮さで評判――築地・気仙沼より直送

〈四季の特別メニュー〉

春・磯の香りいっぱいの芽かぶ
　白魚のおどり喰い
夏・殻ウニ
秋・サンマの刺身
冬・殻がき(生食)

すしの磯春

＜出前承ります＞
京王ストア前　仙川プール並び
☎300－1710，5002　火曜定休

お電話下さい。

●室内装飾専門店●

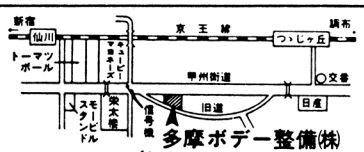
フェリカインテリア

●内装工事
クロス（壁紙）張り替え、ジュータン、クッションフロアー、パンチ等の敷込み、カーテン、ブラインド、アコーディオンカーテンの取付け。

調布市仙川町1-10 4
第2伊藤ビル1F　☎03-305-0028

解体部品装着ＯＫ！　安く直ります

（貴方好みの色でカローラクラス6万円より）



多摩ボデー整備K. K.

調布市東つつじケ丘1－15－3　甲州街道滝坂　☎307－6105

腰痛・肩こり・神経痛
リウマチ・痛風…

体の痛みがスッキリとれた

簡単すぎるこの方法に感謝の声が噴出！

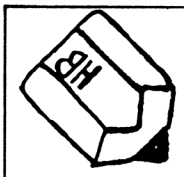
大槻　彰・成瀬正幸
定価690円/二見書房刊

驚異の自然治癒力

本書に紹介された「体の痛みをとる法」をご指導いたします。

カワバタ薬局

仙川駅入口バス停前　☎300－4980



文具・事務用品

清心堂

300・4616

井上歯科

仙川駅前　☎300－3031

1F　手作り　手染め　ホビーショップ

たんぽぽ　☎308－4637

お気軽にご相談下さい

むさしや質店

仙川駅前森の中　☎300－0627

佐藤精肉店

仙川商店街中央SSストアー

日曜定休　☎300－6625

姉妹店　もめん製品，もめん生地，手芸用品

SSストアー奥　桐朋学園正門通りSSビル1F
コットンハウスベル　☎309－5620

美容と健康にマッサージ！

榊原治療院

つつじケ丘駅南口下車線路際ヤマハ入る

10：00～6：00　東つつじケ丘治療所　☎309－6510
8：00～10：00　緑ケ丘出張のみ　☎309－9492

21世紀を創造するこどもたちへ

アトリエ

はちの巣

目黒はつ枝

仙川駅から歩いて5分　☎300－3616

最新のビデオソフトが借りてみられます。
只今新作ソフトがぞくぞく入荷中です。
レザー，VHD，ビデオディスク取扱い開始

レンタルビデオ

ビデオデッキ・テープが大特価セール中!!

サトウデンキ

仙川商店街中程　☎300－5016

寿司・割烹・うなぎ

大鮨

仙川商店街

宴会（30名まで）承ります　☎307－7678～9

ハクビ京都きもの学院

仙川教室

生徒募集中！

毎週木曜日　10：00～12：00　14：00～16：00
18：30～20：30
入学金　2000円　授業料　3000円
維持費（3ヶ月分）　1000円
御申込みは　☎309～5014

「緑ケ丘の移り変わり」

田中　重男

十年一昔というが、緑ケ丘の草原はこの十数年の間にすっかり住宅街となり、川底にすみれやたんぽぽの花が咲きみだれ、その真中を一筋、ちょろちょろと水が流れ、牧歌的な風景を作っていた仙川は、両側をコンクリートで固められ、昔の風情がなくなった。

そのかわり、川底が広くなり、六十糎もある緋鯉、真鯉、錦鯉が群をなして水中を泳ぎ、道行く人の眼を楽しませてくれる。秋になると、シベリヤから鴨の群がやって来る。川底の草むらに巣を造り、春には新生児を交えた数十羽の群となって北の国へ帰って行く。この数年間に、一丁目の山桜の林、白百合大学の裏庭に続く欅やぶなの林など、自然の緑はめっきり少なくなったが、川沿いには、現在流行のデザインを誇る美しい住宅がぎっしりと建ち並び、四季おりおりの草花が色とりどりに、家々の塀の上から顔をのぞかせ、互いに研を競っているようである。

仙川は三鷹市新川の勝淵神社前にある丸池から、こんこんと湧き出る清水が流れ出て造られた川である。閑静な場所を流れていたので「仙」の字があてられたのであろうと云われる。今や丸池は昔の幽遂の面影はなく、湧水も殆どなく、仙川の源は丸池を更に北方に遡り、三鷹市内の小さな溝に通じている。川の緑は消えたが、庭面積に恵まれないこの町の人々は自分達の池として、仙川をこよなく愛し、鯉にパンを与え、野鴨の親子を驚かさぬよう気を配り、同時に子供達に対する即物教育の教材にしている。

緑ケ丘は、昔は現在の仙川町二・三丁目及び仙川町一丁目、西つつじケ丘の一部と合わせて下仙川村と云った。新編武蔵風土記をひもとけば江戸時代よりずっと昔の記録も読むことができる。それほど遠くない約一二〇年前の明治元年の下仙川村の家数は四五軒であった。現在の緑ケ丘地区は村全体の約三分の一と見て、一五軒位だったであろうか。現在（昭和六十年四月末）の家数は二九七二軒、人口は七九一八人である。

日本全国の人口は明治初期に於いて三〇〇〇万人位と云われる。現在の人口はその四倍に膨れている。緑ケ丘の人口は同一期間に家数にして約一九八倍である。凄まじき人口の膨張である。ちなみに、四月末の調布市の人口は一八五一五八人であるので、調布市の人口の四・三％がここに住んでいるわけである。緑ケ丘一丁目と二丁目は合わせて「やかん」を横から見た形をしている。「やかん」の中心部に八幡神社がある。下仙川村開村当時、大阪の誉田八幡宮を勧請してお祭りした古社である。大晦日の夜から元日にかけて人々は神社にお参りする。十数年前迄は八幡神社にお参りする人は少なかった。

この神社をお世話する人達の献身的な努力が実を結び、近年は暮の三十一日は夜がふけるとともに人出がふえ、ピークには一の鳥居から拝殿までぎっしりと人で埋まる。

（北野四丁目）

せんがわ　変化と不易

インタビュー

☆**後藤章夫**さん（ハックルベリー店主）

仙川の一番の魅力といえば、やはり緑が多いということですね。それがだんだん開発されていくのを見ていると、なんだか寂しい気がします。私のように商売をやっていると、ある程度、人はいないといけないのですが、開発されればそのぶん競争相手もふえるわけですから、同じことだと思います。それよりもっと、ゆったりとやっていきたいですね。

たとえば仙川駅だって昔の方が良かった。古めかしいけど、こんな駅だってあるんだぞって感じでね。同じお金をかけるのだったら駅前に花壇を作ったり、ベンチを置くとか、安らぐ感じにしてほしかった。仙川のあたりもコンクリートよりも土手をそのまま生かして川遊びの場を作るとか、何かこう緑を大切にするような街にしてほしかったな……。

若者サミット会議（II）

〝今の中高生って……大人だって本当は……〟

今の中高生は、我慢が足りないというより、くやしさを知らないと思う……。

清水　中高生と話す機会があまりないから、よくわからないけど、我慢するということができないんじゃないかな。苦しいことを避けよう避けようとするので、抑圧された時、変な形で発散しちゃう。校内暴力とかね。もっと自分自身でよく考えてみて欲しいですね。

樋口　僕は我慢が足りないというより、くやしさを知らないと思う。我慢はくやしさから生まれるんじゃないかな。僕たちはバレーボールをやっていたから、よくわかるんです。試合に負けるとくやしいですよ。だから次は絶対に勝とうとすることが我慢につながり、自分を押さえて行動することになる。でも、今の中高生はスポーツも中途半端な気持でやっているような気がする。その場が楽しければいいという感情を持っていて、絶対に勝ちたいという意志が希薄に思えます。

小峰　去年、大阪で同級生殺人事件がありましたよね。殺された方も、それだけのことをしていたのだと思いますが、あまりにも結果を考えない刹那的な犯行だと思います。

中川　僕は、今の中高生は根本的には自分たちの頃と変わっていないと思います。ツッパリとか、いわゆる暴走行為、そんなのは一種の流行だと思います。僕らの頃にもありました。あいつらがあそこまでやったんなら、俺たちもここまでやってもいいだろうというふうに、どんどんエスカレートして行くんです。今はその究極的な状態じゃないかな。幾分成長した現在の自分のレベルで見てしまうから、彼らが幼く見えてしまうけど、実際のところ、僕らの頃も同じようなもんだったと思います。

本当に子供たちが知りたいと思っていることを大人たちは教えてやっているでしょうか……。

樋口　教師や親は、先の先まで見過ぎていると思います。子供の将来のことを考え過ぎているんです。中学生なんか、ほとんどが現在しか見えていないでしょ。将来のことをはっきり決めている子なんて、そう数はいないと思います。そういう子たちに対して、大人たちは結果だけを押しつけようとするんですね。もっと過程といったものを大切にしなくっちゃ。

小峰　だいたい理解のない先生が多くなってきているように思います。なんでもハイハイ従うことが、果してイイ子といえるのかしら。

中川　あの年頃の子っていうのは

清水　今の中高生って、目標が曖昧ですね。目標があって、それに向かってやるからこそパワーが生まれます。僕の場合はバレーボールの試合に勝つことが目標でした。親や教師が同じことを求め過ぎるんですよね。例えば進学とか。型にはめたがってんですよ。これじゃあ自分自身の目標は持ちづらい。

鈴木　僕の場合は、目標と言うより、押えつけようとする教師への反発と、単にバレーボールが好きだったということに支えられて、がむしゃらにやってきて、それでよかったと思っています。

中川文幸さん（西つつじケ丘）　清水祐二さん（入間町）　鈴木輝行さん（仙川町）　樋口　徹さん（緑ケ丘）　小峰亜紀さん（緑ケ丘）

好奇心旺盛で、いろいろなことを知りたいし、経験したいという気持が溢れています。そんな子供たちに、今の大人たちはどれだけのことを教えてやっているでしょうか。本当に子供たちが知りたいと思っていることを教えてやっているでしょうか。長く生きていて、様々な世界を、様々な道を知っているというのに。だけど、大人たちの言うことといえば、馬鹿のひとつ憶えみたいに、勉強しろ、勉強しろでしょ。挙句、いい大学に入って、いい所に就職しろというわけです。いい所というのは、何が基準なんですかね。結局、これじゃあ、何も教えていないことと同じだと思います。

清水　僕たちだって、親や教師に何も教えてもらわなかったんじゃないかな。でも、中学生ぐらいの年頃になると、それくらいのことは自分で考えるようになりますよ。とにかく、大人たちに望むことは、下の者の意見を尊重して欲しいということですね。こういう考えもあるのかと。話す時は人間対人間なんですから。

鈴木　中学生くらいになると、子供だけど、まるっきり子供でもないわけだから、やはり言動を尊重してやって欲しいと思います。

清水　子供に間違ったことをやらせてみるのもいいんじゃないかな。多少の悪さとか、けんかとか。それによって自分が体験上、いろいろなことがわかってくると思いますし。僕なんかも、先生に毎日のように殴られました。その時は反発しましたが、今では、あの時はあれでよかったと思っています。

中川　今では、上のものの言うことを、何でもハイハイ聞くのがノーマルだという固定観念があって、それからはずれた人間を見つけると抑え込もうとする傾向がある。人間みんな同じわけないし、その人の個性を伸ばしていくべきはずなのに、同じ塊の中に押し込んでしまおうとしていると思う。大人だって本当に完成されているわけじゃないでしょ。何歳になっても精神的にも学問的にも勉強する姿勢が大切だと思うのに、身勝手な言葉の暴力だけで押えつけようとするのは、絶対にやめてもらいたいと思います。

（構成・堀内正樹）

●人と仕事シリーズ

バス通り裏で　乳搾り35年

山内牧場主　山内　鋭治さん

商店街から歩いて五、六分のところに牧場がある、といえば、知らない人はたいていびっくりする。若葉町三丁目、神代高校の隣りにある山内牧場は、仙川の町の七不思議の一つかもしれない。

☆子牛一頭からはじめて

山内牧場の牧場主、山内鋭治さんは、仙川の古い農家の十九代目。明照院にある墓石に刻まれた年号から推定すると、山内家は少なくとも寛永年間からこの地で農業を営んでいたらしいという。そんな永い歴史を持つ野菜農家を、現在の酪農家へと切り換えたのは、山内さん自身である。

昭和二十五年〝衝動的に〟牛が飼いたくなり、お父さんに頼みこんで一頭の子牛を買ってもらったのが、その始まりという。

もっとも、当時このあたりでは乳牛を飼う農家はとくに珍しい存在ではなかった。調布は酪農地として戦前から知られており、昭和三十年代から四十年代にかけては、市内に百二十軒もの酪農家があったという。

山内さんはもともと動物好きではあったが、それまで乳牛飼育の経験はなかった。しかし、乳牛は乳を出す成牛になるまでに三年かかり、その間にいろいろ勉強できたのがよかったという。

さらに、野菜作りは農繁期と農閑期があり、売値も上がったり下がったりして不安定なのに比べて、酪農は地道で投機性がなく、常に安定した収入が得られるという利点がある。「酪農のほうが、性格的に合っていたようですね」と山内さんは、酪農に取り組んできた歩みをふりかえる。

☆最高の完全食品を作る誇り

最初の子牛を育てることによって酪農の勉強をしながら成牛も入れ、二頭、三頭とふやしていって、最盛期の昭和四十年代には、三十五、六頭にまでなった。四、五百坪もの青青とした牧場で、四十頭近くのホルスタインが草をはむ光景が、ここ仙川のバス通り裏に見られたのである。

しかし、それまでの苦労は並大抵ではなかった。乳牛は常に乳を搾られ続けるために体質がデリケートで

与えられた美ではない創りだしていく美しさを
なりゆきまかせの人生からすばらしいふれあいの生を
——ファッションをとおして
そんなことができないか、
と願っております。

調布市仙川町1-12-1　TEL03(308)7264

azi
FASHION
LIVE SPACE

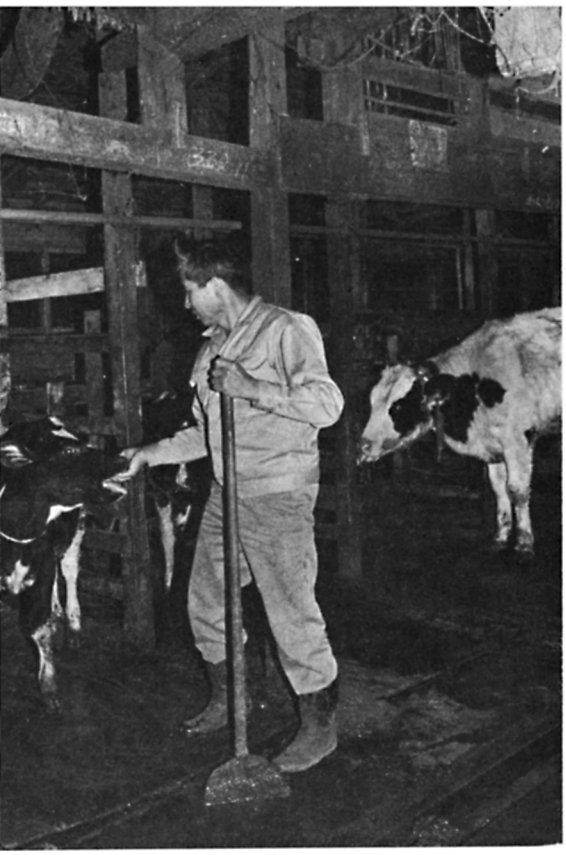
しかも神経質だ。ちょっとしたことですぐに病気になり、それがたちまち死につながってしまう。「二年に一ぺんはそういう牛が出ます。こんないやなことはありません」と山内さん。山内さんの足音を聞き分けて寄ってくるような可愛い牛が、一晩病んだだけで死んでしまうのである。

もう牛は飼いたくないと思うほどの辛さは、野菜作りをしていた頃には味わわないですんだものだろう。

このような苦労のほかに、日々の仕事の忙しさがある。朝五時半には牛小屋へ行き、搾乳器や牛乳缶を消毒してから乳を搾る。奥さんと二人がかりで一時間ほどかけて搾ってから餌をやり、小屋を掃除。乳搾りはふつうは朝夕二回だが、頭数が少ない時は一日三回搾る。この間に家事育児も入るので、奥さんの忙しさは大変なものだった。

しかし、一つ一つの工夫や努力に手ごたえがあること、望み通りの子牛が生まれて順調に乳を出してくれることが何にも増して楽しいという。

そして牛乳という最高の完全食品を作り出すという誇りがある。これが山内さんの三十五年にわたる牧場経営を支えてきたものでもある。



「わくわく動物ランド」(12／25)に左の仔牛と一緒に登場。

☆乳牛から肉牛へ

このところ、東京周辺の牧場は、一つ一つその姿を消してきている。

後継者がいないことや環境の都市化などの理由から、経営者の高齢化と同時にやめてしまうのだ。調布市内でも今残っているのは八軒だけ。

そしてこの山内牧場の乳牛も遠からずその姿が見られなくなるという。

山内さんも孫のいる年令になってさすがに息切れがしてきたし、息子さんが再開した野菜栽培が軌道に乗ってきたので、牧場を少しずつ縮少して野菜畑を広げているのだ。しかし牛は完全にやめるのではなく、世話の楽な肉牛に切り換えるのだそうだ。目下のところは乳牛、肉牛それぞれ十頭ずつだが、乳牛はやがては自然消滅へ持ってゆくという。

「やめるとなると、やはり淋しくて、もういつやめてもいい状態なんですが、一日伸ばしにしているんです」。

仙川の人々の目を長い間楽しませてくれたかつての牧場には、今ぶどう棚がずらりと並んでいる。「ぶどうも植えつけてから三年たたないと収獲ができないところは乳牛と同じなんですよ」。

山内さんの胸の中には、今も乳牛への思いがいっぱいなのだろう。

(松崎洋子)

住いのコンサルタント

土地・売買・建売・分譲・仲介

調査・測量・設計・登記・分筆

武蔵野ハウジング(株)

☎ 307−4177

(株)後迫測量設計事務所

武蔵野開発株式会社

☎ 308−1277

せんがわ界隈史12

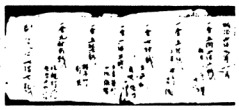
明治・大正～講・青年団・消防組

伊藤純彦
桐朋小学校

この雑誌8号（昭和五八年一一月発行）に、「せんがわ界隈史の会発足」と題した小文がのっている。「私共も、この土地に生まれ育った者として、これまでに伝え聞いた話などを想いおこしながら、拙いながらも『せんがわ界隈史』の一頁ずつを埋めていければ……と思っています。そしてこの地の古文書、記録等を収集し、また、古老、先輩たちから昔話をお聞きしながら、将来的には一冊の本に編みあげていきたいと存じます。」と、会への賛同と協力を呼びかけている。過日、この発起人の榎本晃道、小幡正一、川原主計、田辺喜勝、浜島寛の各氏及び川口三八氏が集まって語り合った、仙川の明治、大正、昭和三〇年ごろまでの姿をまとめることにした。

明治初期に江戸時代の町火消と同格の民間消防組が周辺郡部に「部落消防組」として発足した。

年月日	内容
明治22.	神奈川県神代村誕生
	下仙川村、小字（千羽、社田、柳川、宅添、日向、入会、滝坂、明光山）
明治26.	東京府に編入される。
明治27.	神代村「消防組」発足
※明治43.～昭和11.	一部記録による原文のまま記載
明治43. 1.	神代村出初式（多摩新聞より抜粋）
	従来第13組、各字ニテ執行シ来リシガ、東西二組ニ分ケ、滝坂、深大寺、両小学校ニ於テ行ッタ。整一ヲ保ツ上ニ於テ頗ル好成積デアッタ。
1.	装備器具購入ス（写真）
	舶来ズック管7間（ホース）、五円四拾六銭、継手、五拾銭、竹梯子、五拾六銭、提灯等、合計八円七拾七銭ヲ購入セル。
大正 2.	「町村消防組」となる
	民間の自主的義勇消防組が組織され、出火出場の際は、警察の管轄の下に行動し、装備器具、運営費等は、すべて部落の負担で、各戸の月掛金により集めていた。
	（装備）警鐘付火ノ見梯子及び器具置場（神代村下仙川字日向764番地）
	腕用ポンプ1台、車1台、水管車（鈴付）1台、梯子1個、剣又1個、蛇口8本、玄番桶2個、手桶4個、鈴2個、部旗1流、指揮旗1流、釣板2個、高張提灯2張、弓張提灯8張、手丸提灯5張、水溝1個、屋根鎖2本
大正 2. 4.	京王電車、笹塚～調布間開通
6.	調布町、神代村の甲州街道沿いに電燈ともる。
大正 6. 1.15.	腕用手挽ポンプ車購入



調布市消防団第13分団『分団の歩み』より
（昭和57年９月発行）

昭和七年七月、和光堂工場がスタートしたときの住居表示は、東京府北多摩郡神代村北野字南山谷だった。そのころ、仙川駅そばのむさしや質店は神代村下仙川字日向。明治初年では前者が北野村、後者が下仙川村。昭和三〇年四月、調布町と合併して調布市となる。

地形は標高四〇メートルほどの平坦地が都心部から続いており、風向きで種々の音が聞こえてきていたので、それで、その日の農作業の手順を考えた。代々木練兵場（今のＮＨＫ、代々木公園のあるところ）の空砲の音、皇居内の旧本丸でうつ正午を知らせる空砲の音（昭和四年廃止）、府中大国魂神社の太鼓の音などが聞こえた。冬、中央線の汽笛が聞こえるのと逆に、小田急線の音がよく聞こえると天気が悪くなった。今では、このような音は、全く聞こえなくなった。雨といえば、富士山が曇ればまちがいなく雨になった。

農家の土地所有は、平均すると畑一町八反、田二反ぐらいで、現金収入が乏しく豊かではなかった。明治から大正にかけての主食は、大麦を精白して荒くひき割ったものが六、七割まざる、ひき割り麦飯だった。白い米飯が食べられるのは、正月とお盆ぐらいで年間一五日もなかった。

水田は少なかった。その用水の水源は、上仙川村勝淵（丸池）からの冷たくてきれいな湧水で、種々の栄養をふくむものではなかったので、米の質は悪く、収量も反当六俵とれればよいほうだった。一俵六、七円ぐらいのころで、悪い米は四、五割安かった。小作人は、二俵から二俵半を地主に納めた。陸稲をつくって一家の飯米を補っていた。

今の第一勧銀仙川支店の地に、まゆ買入所があった。養蚕は明治から大正末までが最盛期で、ほとんどの農家がしていた。どこでもそうなのだが、田辺さんの家も蚕場がなく、座敷、台所、至る所に竹製の棚がもちこまれたので、部屋のすみにふとんをしいて小さくなって寝たという。五月の春蚕、八月の秋蚕、そして晩秋蚕まであったが、田辺さんは春蚕しかしなかった。養蚕が主な現金収入なので、お蚕さまとかオコサマと呼んで熱心に飼育した。まゆの値が下がると桑をぬいて、白菜、すいか、それにわずかだがうりに移行した。昌翁寺の檀家で、すいかを五〇から一〇〇個をお金の代わりに納める農家もあった。

鎮守の仙川八幡社は村社なのだが、村民は無格社としていた。村社だと神社本庁がくるし、上納金がかさむし、祭りには村長参拝もあるしで、とかく費用がかかるので格をかくすことにした。だから、下仙川村の小学生は祭りの参拝はしなかった。

この境内に富士講の碑があり、明治、大正のころ、下仙川、中仙川、北野で富士信仰が盛んだったことを物語っている。大正一五年八月のお盆すぎ、昌翁寺住職榎本さんたち三人が代参（みんなに代わっての参詣）となり、富士吉田の御師（お札を配ったり、おはらいや参詣者の案内や宿を業とする者）佐藤さん宅に泊まり、頂上から須走、藤沢を経て帰ってきている。

榛名講は二月一五日にあった。榛名山は農業の神様で、前年に代参した者が進行役となり、くじ引きで数人の代参をきめた。代参はいただいてきたお礼を四月一五日に配った。その日は小祭りといって、農事を休んだ。

お日待は、冬至（一二月二二日ごろ）の前日に日の出を拝み、五穀豊穣を祈った。この夜、日がこれ以上短くなると困るので、日が昇るまで徹夜で語り明かした。

雨乞いに、神奈川県の大山に行く大山講があった。阿夫利神社に参拝し、御師の家で祈禱してもらい竹筒に水をもらって帰る。弁天橋付近の仙川にその水をまき、仙川の流れをせき止めたなかで、みんなが水をかけ合った。

庚申講は、庚申（かのえさる）の日に徹夜で飲食をともにして語り明かした。この夜、腹の中にいる虫が体からぬけて天に昇り天帝にその人の罪過を報告するので、その夜はつつしみおののいて善を行うべきだとされていた。

青梅に古くからある霊場、御岳山の御嶽講は、ここの御師が今でも伊藤吉五郎さん宅にきている。

神代村青年団は、むかしの若者組とか若衆組が明治末から第一次世界大戦のころにつくりかえられたものである。大正七、八年、明治神宮造営があり、青年団は神宮外苑に植える樹木献上のため動員された。種、肥料、木炭などの共同購入やあっせんをしたり、エンジンを買って脱穀機にとりつけ、農家をまわって脱穀の手伝いをしたり、桑畑をつくったり、養蚕の研究をしたり、今の実篤公園下でわさび田をつくったりなど、土地に密着した活動をした。昌翁寺の西隣りの地に材木を持ちよって集会所を建て、青年たちがたむろして剣道などもした。村祭りや旅の芝居興行のほか娯楽のない村では、この青年団の親睦会や運動会が楽しみだった。

民間消防活動として、神代村消防組ができたのが明治二七年。手押しポンプ、ホース、はしご、とび口、おけ、旗、ちょうちんなどの購入や、貯水池、火の見やぐら造りの費用や運営費は、全て村の負担で村民の月掛け貯金で集められた。大正一三年の集会では、「消防手は満二〇歳、すなわち徴兵検査を終わって消防手となること。月掛金を最高五〇銭、最低二銭に変更する。」と決議している。昭和一四年の団員の職業は、農業二三、商業一一、大工四、とび職一、欠員一となっていて、この地域が農業を基本としながらも、住宅や工場が進出してきていることがわかる。

仙川は大きく変わってきた。現在の仙川がどのようにしてできたかを知ることは、将来の仙川を考えるために不可欠のことである。

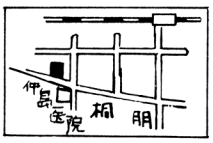
（追記　小幡正一氏は一〇月二日に逝去されました。慎しんでご冥福をお祈りいたします。）

成人式の着付，その他貸衣裳も当店で！

たかす美容室

AM 8：30～PM 6：30　　桐朋学園音楽室前
毎週火曜日定休　☎ 309−4523

やさま畳店



仙川町 1 − 3 − 38　☎ 300−2360

輸入工芸品　室内装飾品　雑貨　衣料　民族楽器

モッタ MOTTA

桐朋学園横　調布行バス停前　☎ 308 − 1849

遊んでいる本は有効に生かしましょう

古書 訪文堂書店

桐朋学園通り　☎ 308 − 6455

コピーサービス　ファクシミリーサービス

レコード レンタル

友&愛 仙川店

YOU and I

ピポット仙川 2 F　☎ 305 − 2280 → 77

ボクにも　キミにもできる

リビット

山田屋金物店

西友ストア前
☎ 300−4407

カジュアル　ファッション

レギュラーサイズ・Lサイズ

ブティック　# たげ屋

オリジナル手染コーナー大好評
商店街駐車場横　☎ 305−0839

生花，グリーン，花環

フラワーアレンジメント

有限会社 イシケン フローリスト

（24時間受付）
世田谷区上祖師谷 5 −31−11　TEL　308−1389

聖教新聞 仙川販売店

仙川町 2 −11−23　☎ 307−7343

くちコミまちコミ広場

アマチュア オーケストラ
"調布フィルハーモニー管弦楽団"
に参加しませんか!?
現在の団員数 約40名 中学生～熱年まで
毎週土曜の夜、調布市内の公民館などで練習しています。見に来てください。
初心者歓迎!
連絡先 TEL 308-9696 山本まで

ポリドールレコード
沢田二郎の
◎女のワルツ
◎おんなり
・レコード発売日、6.25日
・有線放送も宣しくお願いします
・女の旅路も
連絡先、309.1534
マネージャー 市川史郎

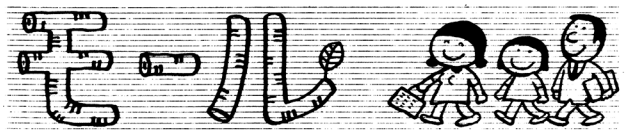
仙川クロッキー道場
・新会員募集・
毎月 第2・第4木曜日
6時半より
於・スペース仙川
会費・入会金2,500円
1回1,000円
問合せ・300-8287
(モッテ風林)

父母と教師と行政と
わたしにも言わせて
教育集会
2月8日(土) 2:00～
調布市公民館 教室
教育委員を自分たちで選ぶ会
連絡先 高島 82-1731、前橋 307-3226

〈るんびに体操クラブ〉
生徒募集
マット・とび箱・トランポリン
平均台、およびシーズンスポーツ
などの生徒募集
―特に小学生男女募集―
TEL 308-1588
または 300-8871(川口まで)

中国語 習いたい方求む!
個人レッスン 1時間3,000円
(初級 中級 上級)
講師・李 松華
文京区後楽1-5-3
日中友好会館160号
TEL(03)814-1261
桐朋学園音楽学部・指揮科在学中
通訳もいたします。

このページを個人や各サークルクラブからの伝言板としてご活用下さい。譲ります／譲って下さい 教えます／教えて下さい／手伝います／手伝って下さい／友人求む 仲間求む／探してます／定例集会などなど／名刺大の大きさに内容を書きこんで編集部まで申し出て下さい。



このページは商店と企業の皆様に開かれた伝言欄です。事務的なお知らせからちょっと工夫した生活情報まで幅広く活用され、とにかく気になるページに育つのが楽しみです。

オープン

▼新しいタイプの中華店です 12～15時迄、日替りサービス定食。夜は中国ワイン&リキュールをそえて、お食事をお楽しみ下さい。小パーティー御会合などにも御利用下さい。御来店お待ちしてます！ **「ちゅうか味のブティック一番」** 仙1 ☎309・6755

▼仙川にコンテンポラリーなダンススタジオ〈仙川ファクトリー〉が出来ました！ 加藤みや子他、優秀なスタッフが指導中。専門家のみならず、全く初めての方、主婦の方が輝いてレッスンしています。モダンダンス、フイットネス、太極拳、エアロビックス、ジュニアクラス他。**「仙川ファクトリー」** 緑2 ☎309・7200

▼世界各国のカップで、珈琲をどうぞ！ 3月21日にオープンしました。珈琲、紅茶の専門店です。お好みのカップで静かな音楽と共にお楽しみ下さい。11時頃から20時頃まで。 **「珈琲茶屋」** 仙1 ☎309・3005

▼自然食品のお店です 私達は一見豊かな食生活を営んでいる様に見えますが、本当に食物から生きている糧を得ているのでしょうか、それらには本物の栄養があるのでしょうか？ こんな疑問だらけの世の中で当店では自信を持って本物の食べ物をお売りします。とにかく一度いらして下さい。**「ほうすいえん」** 仙1 ☎326・2356

▼ピポット仙川2Fにオープン。レコードレンタルの友&愛です。 〝友&愛〟あなたと私の精神のもとに、お客様に愛され、期待され、信頼される店に一日も早くなる様、努力しております。大変明るくすてきなレンタルショップです。皆様のおいでを心よりお待ちしております。**「レコードレンタル友&愛」** 仙1 ☎305・2280

メッセージ

▼21世紀を創造するこどもたちへ 一人でも多くのこども

まちニティ・ショップ・カタログ……広告掲載店INDEX…

――数字は掲載頁です。

●着る
aZi……34
いながわ……51
ehime……52
カスミ……25
キクヤ……15
クイン……26
左岸……38
シュヴァル……14
たげ屋……38
ツカモト……26
明治屋靴店……44
三愛クリーニング……15

●飾る
真珠……52
たかす美容室……38
ビバ美容室……14
堀内美容室……44
レモン美容室……44

●飲む
鬼無里……44
くいだおれ……26
珈琲茶屋……52
スナック時貴……44

ぶれっど……44
ブラウン珈琲……52
まほうつかいのでし……52
まり……52
ラボール……26

●食べる
磯春……29
磯平……52
大鮨……30
家族庵……5
蒲文……46
カプリ……44
サニーメイト……51
ザ・ボウルガーデン……52
とんかつ睦己……52
チャティー・ずう……25
中華味のブティック一番……25
トンカツさき本……51
とんかつ仙川……14
とん忠……44
平野屋……52
よしきり……26
龍鳳苑……4

Sengawa 宣伝ページ

たちが創造する喜びを発見して、より豊かな人生のあしがかりとなってくれることを願っています。絵画教室4才～小学校高学年、毎週水・金曜14時から　**「アトリエはちの巣」**　給1　☎300・3616

▼お正月、成人式の結いあげきもの着付予約受け承ります。年末31日20時まで営業、新年は1月2日～5日まで、予約にて午前中営業いたします。**「堀内多賀子美容室」**　仙1　☎309・0676

▼成人式の着付は当店で　年内無休、31日は20時まで受付。新年は1月3日から受付、5日からは平常通り営業いたします。　**「レモン美容室」**　仙1　☎300・8667

▼モッテミニ画廊復活　しばらくお休みをいただいていた店内奥のコーナーが新装復活。モッテ所蔵の絵画コレクションを展示しております。仙川の新進画家から巨匠まで本物の絵をごらんになりたい方、ぜひ一度ご来店ください。　**「モッテ画材店」**　仙1　☎300・8287

▼べんりや七変化　ちょっとした困り事、人の手を借りたい時、あなたの叶わぬ夢実現したい時、べんりや七変化が助っ人としてお手伝いします。　**「小沢よろずサービス社」**　☎326・3163

▼素人写真ではいまいち！という時に　そんな時にはすぐお電話ください。結婚式、発表会、メニュー、宣伝広告、その他、プロカメラマンが必要なら愛用のバイクで、どちらへでもまいります。もちろんスタジオ写真もOK。モノクロラボも同時進行中。　**「スタジオ・ジュン」**　☎480・7656

募集

▼若い女性求む　年齢20～30歳位まで。時給1000円より、詳細は面談の上。　**「スナック時貴」**　☎326・3536

●買う
アキヤマ……51
イシケンフローリスト……38
玉晶堂……44
光輪堂……29
コットンハウスベル……30
しみずや……14
青香園……29
たからや……51
鍋屋本店……14
ハックルベリー……52
藤屋……表2
川口農園……52
サトウデンキ……30
西友仙川店……26
丸正食品仙川支店……15
ヤナバ電機……52
山田屋金物店……38
山利屋……26
友&愛……38

●備える
永楽信用金庫……25
多摩ボデー……29
むさしや質店……30

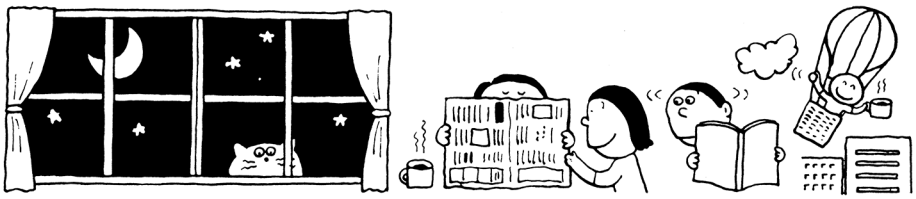
●知る・見る
サンライズ……15
神代書店……表3
聖教新聞……38
清心堂……30

橋本新聞舗……47
訪文堂書店……38

●習う・創る・遊ぶ
アトリエ・梓……14
アトリエはちの巣……30
なかや本店……44
モッテ……25
モッタ……38
珪子書道会……14
スペース仙川……26
仙川ファクトリー……14
ハクビ仙川着物教室……30
つつじケ丘編物教室……14
洋裁教室ナカムラ……15

●からだ
大塚矯正歯科医院……表2
カワバタ薬局……30
榊原治療院……30
井上歯科……30
若葉歯科……26
仙川獣医科病院……52

●住まう
グローバル設計……表3
佐藤工務店……14
フェリカインテリア……29
武蔵野ハウジング……35
やさま畳店……38



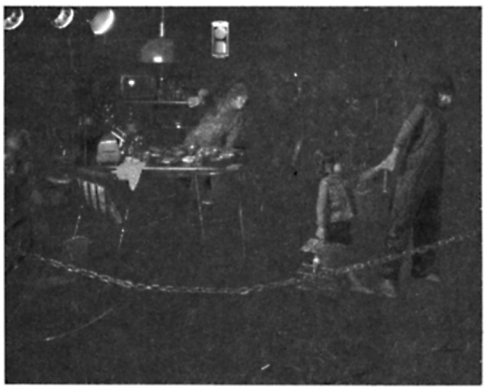
核戦争の危機を訴えたモダンアート
〝オレンジ・オペレーション〟

今年は戦後四〇年ということで数多くの戦争をテーマとした展覧会が開かれましたが、その中でも新川在住のアーティスト、たべ・けんぞうさんの「ヒロシマの日」満四〇周年記念展「オレンジ・オペレーション」（銀座ギャラリー三真堂にて8月6日～18日）は、まさに異彩を放つものでした。

たべさんは広島出身ということもあり、これまでも戦争、原爆をテーマに数多くの作品を発表してきました。今回は「オレンジ・オペレーション」と名づけられ、精巧な臘人形を使い、画廊空間の半分を疑似空間として、「核爆発の一瞬の家族の情景」を表現した大がかりな作品です。

「まっ赤な閃光におそわれた朝の食卓、緊急事態の発生を告げるラジオ放送とノイズ、壁の中に半身のめり込んだ妻の像」などの表現は、いつ起ってもふしぎではない核戦争の恐怖を見せつけ、現在の平和のあやうさを私達に気付かせます。

今回の展示は銀座という日本の繁栄の中心地で行われたことに一つの意味があったのですが、わが仙川の街角にも置いてみたいものです。



仙川で一人芝居の
ロングランに挑む!!
―吉田央舟〝耳なし芳一〟上演―

スペース仙川の持ち主で、仙川眼科の医師・吉田央舟さんが、この春から一人芝居のロングランに挑戦せむと、今、準備に奮斗しています。

出し物は、平家物語より、小泉八雲作〝耳なし芳一のはなし〟を、氏自身が脚色、琵琶を片手に弾奏、演ずるというもの。

スペース仙川8時劇場として、毎週金曜日かかさず上演するという力の入れようで、地方への出前にも応じてゆくそうです。

小劇場活動を支えている若者はもとより、カルチャーセンター等の平家物語を読む会も大いににぎわっているようで、勉強熱心なご婦人の客層も期待でき、また学校での教材としても利用できるのではないでしょうか。

ともあれ、しばらく公演ぬきの状態にあったスペース仙川でも、これを機会に再び小劇場としての活動が開始され、8時劇場の別の企画も考えたいとのことです。

乞うご期待！そして頑張れ!!

初日・四月四日（予定）
毎週金曜午後八時
（一月・八月・祭日休演）
前売一〇〇〇円　当日一三〇〇円
問合せ予約　㈱新樹
TEL（03）307・6015

昌翁寺の天井に家紋が登場

甲州街道沿いの新装なった天台宗昌翁寺の本堂天井に今ではめずらしくなった家紋が描かれました。

住職の榎本照運さんの話によると、だんだんとすたれていく家紋を伝承す

街の話題アレコレ

るために檀家の紋の中から四八家紋を選び、上絵師の川原幸男さんが描き、彩色は富山県井波町の名人、堀友二さんが担当したそうです。

格子天上に顔料を使って描かれた家紋は四隅に四季を表わす家紋を配置し、流れを考えた鮮かな色彩を持ったみごとなものです。みなさんも「わが家」の家紋をさがしがてら、ぜひ一度御覧下さい。

若葉小選抜チーム ソフトボール大会で優勝！

去る8月18日かんとう村で行なわれた調布市青少年対策主催のソフトボール大会にて若葉小選抜チームがみごと優勝しました。

この大会は調布市内の小学校21校が参加し、ブロック予選を経てかんとう村での本大会に参加できるというなかなかの激戦です。若葉小チームはキャップテンの絵幡誠一君を中心に女子2名のレギュラーを含むチームワークを主体としたチーム。野川小との雨中のブロック予戦を始めとして大町小との接戦など予想に反して？大健闘。ついに決勝で強敵布田小を13対4で破り優勝となりました。

監督の棚本弘文さんによると「子供一人一人の頑張りと、早朝より一緒に練習した父兄の協力の賜物」とのことで、いじめを始めとした陰湿な事件が相次ぐ昨今、子と親との交流が実を結んだすがすがしい勝利でした。

大森政秀舞踏儀「アンモナイトの爪総集版」感動の舞台を見せる

本誌No.6にも登場ねがった舞踏家大森政秀氏のアンモナイトの爪シリーズ総集版が、12月3日第一生命ホールにて行なわれました。本誌も協賛に参加しているこの舞台は大森氏が82年小金井市公会堂にて初演して以来、常に追い求めてきたアンモナイトと北という大きなテーマの締めくくりとして行なわれたもので、大野一雄、土方巽の舞踏の両先輩達を始め四〇〇名の観客を動員し盛況の内に幕を閉じました。

大森氏特有のけだるい踊りと大がかりな構成が一つのアンサンブルをかもしだし、この舞台は今までの区切りとともに、これからへの期待を感じさせ、低調をきわめる舞踏界にあって久びさのクリーンヒットでした。次回の公演には仙川のみなさまも是非御覧になることをお勧めします。

沿線随一の品ぞろえ

時計、宝石、貴金属の店

玉晶堂

本店　仙川商店街中程　☎ 300−4734
支店　つつじケ丘店　☎ 0424（82）−4221

手づくりの真心，伝えたい
生活に色どり！

1F　コットン，手芸，服飾
2F　毛糸，刺しゅう

手づくり素材の　2F　Middle Home

なかや本店

（従業員募集）
☎ 300−6805
仙川町 1−15−28　308−3150

成人式アップ，着付，予約受け承ります

堀内多賀子美容室

仙川商店街通り 2F
9:00 ～ 7:00　火曜定休　☎ 309−0676

---

7 DAYS OPEN　AM11:00 ~ PM11:00

PIZZERIA
Capri

—お食事，各種パーティーのご予約承ります—
ピッツェリア　カプリ仙川店
商店街中程　永楽信金 2F　☎ 326−5188

和風スナック

信濃路旅情，家庭的な味

鬼無里
（きなさ）

仙川商店街中央角 2F
17：00～前 1：00　☎ 309−8100

オリジナル
パン・ケーキ

ぶれど

仙川商店街・田辺ビル 2 階　☎ 326−3577

安く楽しく　唄って踊れる店

スナック　# 時貴

PM 7:00～AM 1:00　第一勧銀前
☎ 326 − 3536

月星シューズ
月星化成株式会社

月星特約店
世界の流行をリードする

靴の明治屋

仙川商店街中程　☎ 300−1067

感覚カット＆ベル・ジュバンスの店
健康美を創る　全身美容・フェイシャル

美容室

レモン

桐朋学園正門前　☎ 300−8667

お好み焼き　各種お鍋　お酒

御家庭の延長のお店

季節料理　# とん忠

深夜 2 時半まで　若葉町交差点際
☎ 309−5289

◆ 保育園・幼稚園

東部保育園	307-2081
緑ケ丘学童保育園	309-0330
仙川保育園	300-1055
緑ケ丘保育園	309-5605
仙川かほる幼稚園	309-3930
東京緑ケ丘幼稚園	307-3322
調布若葉幼稚園	300-0763
さくら幼稚園	300-7016
桐朋幼稚園	300-2111

◆ 学校

滝　坂　小	308-5515
緑 ケ 丘 小	308-6166
若　葉　小	308-5256
桐　朋　小	300-2111
四　中	308-1175
八　中	309-4131
桐朋女子中	300-2111
神代高校	300-8261
桐朋学園女子高校普通科	300-2111
桐朋学園女子高校音楽科	307-4101
桐朋学園大学短期大学部	300-2111
桐朋学園大学音楽科	307-4101
白百合女子大学	326-5050

◆ 公共機関

若葉図書館	309-3411
緑ケ丘図書館	300-7672
東部公民館	309-4505
東部児童館	307-6146
緑ケ丘地域福祉センター	326-4861
緑ケ丘児童館	309-0521
仙川郵便局	300-3001
緑ケ丘郵便局	308-0176
実篤公園	300-7607
実篤記念館	326-0648
調布市水道部	0424-88-5111
調布市清掃事務所（粗大ごみなど）	0424-82-0184
高齢者事業団	0424-87-9375
調布市役所	0424-88-5111
神代出張所	0424-82-8281
東京電力調布支社	0424-82-1121
東京ガス調布営業所	0424-82-1191
千歳烏山駅	300-3003
仙川駅	308-1722
つつじケ丘駅	0424-82-3393
調布警察署	0424-88-0110

◆ 医療

夜間急患診療所（土、日、祝日の夜間に具合が悪くなったら）	0424-84-1455
休日診療案内（休日の昼間に具合が悪くなったら）	0424-87-8182
杏林大学病院（内、外、胸外、整外、呼内、形外、精、小、泌、産婦、眼、皮、耳、放）	0422-47-5511
慈恵医大第三病院（内、小、眼、泌、産婦、外、整外、精神、神経、耳、皮）	480-1151
至誠会第二病院（内、外、整外、リハビリ、小、産婦、眼、放）	300-0366
松本医院（内、皮）	309-2175
緑ケ丘診療所（内、小、放）	309-3967
富沢脳神経外科（脳外、内、外、整外）	307-7881
松下小児科医院	300-4633
諏訪医院（産婦、外）	308-5102
松井医院（外、婦、内、耳、咽）	300-0005
岡田医院（外、内、皮）	482-5156
田村耳鼻咽喉科医院	309-2884
耳鼻咽喉科野村医院	300-7070
小沢整形外科医院	309-1530
神森外科	309-2818
仙川眼科医院	309-3855
上祖師谷眼科	326-8110
仲島医院（内、耳、皮、歯）	300-0755
松田歯科医院	0422-44-1235
田上歯科	309-8139
高坂歯科	300-3467
柴田歯科	308-6043
宮島歯科	307-9137
歯科仙川クリニック	300-1184
仙川歯科	308-8011
井上歯科	300-3031
イチカワ歯科	308-8241
目黒歯科	308-6602
行田歯科	308-3122
石川歯科	300-8241
タグチ歯科	488-2013
大塚矯正歯科	308-0707
若葉歯科	308-8018
清水歯科	326-5414
横田歯科	300-0021
関野歯科	300-9061

◆ タクシー

イースタン無線タクシー	309-5103
調布ハイヤー	0424-82-5151
京王自動車㈱調布無線センター	0424-82-0231
エム・ティー無線タクシー協同組合	0424-83-4019

◆ コレはべんり!!

・24時間営業

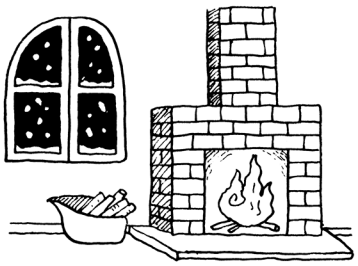
ファミリーマート仙川店	308-7506
ファミリーマート仙川北店	326-0658
プチサン	309-9981

・深夜コピーサービス

ファミリーマート仙川店	308-7506
ファミリーマート仙川北店	326-0658
マイマートいけがめ（12時まで）	300-4422

・ファクシミリーサービス

友&愛 仙川店	305-2280
べんりや七変化	326-3163
スタジオ・ジュン（出張写真）	480-7656
わざわざ相談室（月、木 10〜15時）	309-1422



創造する勇気

㊎ 像人間と言われるように、こどもたちは、テレビが大好き。しかし、眼に映るものは、心のタンスに刻まれる余裕もなく、どんどん消え去ってゆく。これでいいのかしら。

遠い昔の芸術家たちは、驚くべき想像で己の宇宙に挑戦し、神々までも描き出したというのに。時代は違うが、現代も本当は個性派主流なのだ。良きにつけ悪しきにつけ、いろいろな意味で創造教育が重要になってきたと、私は感じている。

私も美術教育十八年、こどもと共に過ごしてきた時間が人生の半分になってしまったが、こども時代に、全てのこどもが、もっともっと、創造的教育を受けてくれたらと心から願う。幼稚園時代から最低小学校中頃までの、心のしなやかなうちに、創作に取り組む時間を増やして欲しいと望む。

私は十数年前、もう一度、芸大に入りなおした。結婚して一児がいたが、その頃、こどもの創作指導に行きづまりを感じ始めていたので、新しい環境が少しでも解決に役立つのではないかという期待にあふれる日々だった。当時の芸大の美術教育の研究室には、教師になりたくても望みのかなわぬ学生が多勢つめかけていた。美術の時間をカットされ、教師として受け入れられない時代であった。

ところが最近何事も、事が表面化しないと動き出さない政府が、重い腰をあげて、教育の在り方を真剣に改革する準備を始めたらしい。

今日程、こどもたちが、勉強勉強と受験準備に追い回されている時代はなかったのではないだろうか。何がこうまで、こどもたちをかりたて、けしかけるのだろうか。二十一世紀を迎えるこどもたちには、ただの受け身の、つめこみ教育でなく、手を使い、心を傾ける「ものづくり」を体験させてあげたいものだ。

私たちが求める人間像は、未来を創る人間だ。応用力があり、広い視野と、ものをいたわる心、探究心に燃える心をもった人間ではないだろうか。こどもたちが、頭でっかちの、わからずや人間にだけはなって欲しくないと願う親心なのだ。

（目黒はつ枝・児童美術アトリエはちの巣主宰）

西照寺コドモ会の思い出

㊐ んがわ21・'84年冬号の巻頭に西照寺子供会の写真が掲載され、ご覧になった方も多いと思いますが、当時子供会にお世話になった私は大変なつかしく拝見し、また幼かった昔が一瞬にして甦りました。

子供会は多く日曜日に開かれ、その日には子供たちの集まる所や電柱に、「ケフニジコドモ会　西照寺」と、ワラ半紙にガリ版刷りの小さなポスターが貼られ、ご住職自らも子供たちに集まる様、知らせに歩きました。小さな子は遊びをやめ、大きい子は家の手伝いから解放され、かすりの着物に三尺帯をきちっと締め、小さな子は真白いエプロンで可愛いく盛装して、近所誘い合せて出掛けました。

入間や仙川のほとんどの子供たちが本当に溢れるほど集まりました。

家の外で自然と遊び、教科書以外あまり本などに接することの少なかった子供たちには貴重な時間でした。

お話が終ると、庭に並んでお土産にお菓子の袋を貰うのが何よりも楽しみでした。袋の中にはせんべいやビスケットなどが入っていて、醤油そのままの味がする小丸せんべいやビスケッ

おでんのタネなら

蒲文（かまぶん）

烏山店
西友ストア隣り
☎ 309－9868

仙川店
若葉ショッピングセンター内
☎ 300－0531

読者のひろば

あて先・〒182 調布市仙川町1-18-8
「せんがわ21」編集部

トのミルクの甘さを今でもはっきり覚えています。家に帰って少しずつ大切にたべたものです。

正月には男の子には凧が、女の子には羽子板が配られ、子供たちは早速、家の畑で凧を揚げ、庭では羽根つきの女の子が集まり、にぎやかでした。

私に配られた凧はむらさきの格子に真赤な朝日が描かれていて、おじいさんに糸目を付けて貰い、風の工合が良かったためかシッポも付けずに欅の梢よりも高く揚り、茶の木の日だまりにむしろを敷き、一日中凧と遊んだ記憶があります。羽子板も当時のものが一枚残っています。

戦雲急を告げつつある当時、沢山のお土産を用意するのは容易ではなかったと思います。

西照寺のご住職は何の機縁で子供会をはじめられたのか知る由もありませんが、物心共に貧しかった子供たちに仏の慈悲の心を実践されたものと思います。

当時の子供たちは五十の齢をすぎ、それぞれの社会で活躍されているわけですが、この写真の皆さんが一堂に集まり、同窓会(?)をひらくお話も出ているそうです。そのときは幼き昔に帰って話に花が咲くことでしょう。

（川口三八・仙川町）

街づくりはコミュニケーションの輪で…

小生、当地に在住し三年目になりますが、当地へ来た頃は右も左も分からず、ただ駅と家とのオオム返しの様な生活でした。

ある時、「せんがわ21」が投函され、何やら自分もここに何十年も住んでいる様な錯覚を覚えました。

昭和初期の歴史より現在まで、また商店街の案内、これからの街づくり、学校訪問から史跡の紹介まで盛沢山の内容で一気に読破させていただきました。

私もこの緑多い良き環境の街で一生涯住みたいと思っております。

街づくりには、まだまだ難問が山積している様子ですが、私も仙川の住民の一員として協力して行きたいと思っております。手前PRで大変恐縮ですが「コミュニケーション・オブ・センガワ」と言うミニコミ紙を発行しております。どうぞ御利用下さい。

（橋本　功・橋本新聞舗
店主　☎326・4693）

ぢいちゃんばあちゃん賛歌

鈴島みよ作詞

(一)おぢいちゃんもおばあちゃんもお元気でコーリヤ
今日はようこそご出席
一日楽しく共々にコーリヤ
語らい歌って遊びませう
ハードトコヨイ

(二)歌はよいもの長寿の秘訣コーリヤ
皆さん若い頃思い出し
もしく亀よ亀えよコーリヤ
悲しい事でも吹き飛ばそう
ハードトコヨイ

(三)年はとろえ気は若いコーリヤ
ババスキなんぞと言わせぬ
おばばおろやそ大年昭和もコーリヤ
明治生保って共に賞なつて来た
ハードトコヨイ

あなたの必要な情報を提供いたします

◉一般紙

朝日新聞　東京新聞
日本経済新聞　サンケイ新聞

◉折込、印刷、配布、取扱　◉朝日旅行代理店

調布市若葉町2-4-25神代高校信号入る　(有)橋本新聞舗　☎(03)326-4693

せんがわ・21 目次

'78.8 創刊号
発行・せんがわまちニティ情報センター

口絵写真　調布市実篤公園
共有のものとして　武者小路辰子
せんがわまちニティカレンダー　8月～9月
わがまち・せんがわ―あなたにとってせんがわとは？
●特集―実篤公園●
開園までの経過と園の紹介
緑陰の実篤公園を訪ねて
実篤公園を考える
わが町内考　高木敏子／今村久米子／木村直司
インタビュー　この夏を元気に―育児のワン・ポイント
子供会ニュース　翔べ!!仙川っ子
●マップ21●　身近かにあります。こんなお稽古事教室
レポーター・川路ひろみ
仙川文化の小さな拠点群（マップ）
先生から一言―各教室を訪ねて
地域で気楽に教え・習い合いませんか
せんがわショッピングモール
せんがわ界隈史　第一回
〝上くささ〟に住みつく　武田順一
公民館・児童館だより　東部公民館／東部児童館
図書館だより　若葉館／緑ケ丘館
コラム新刊紹介「私の受けた教育」
コラム　同人誌「風土派」／仙川のベストセラー
まちコミ・くちコミ広場
せんがわ私論・公論　桐生　巧／寺尾　研
●資料室●　せんがわの〝足〟
アンケートへのご回答から
創刊にあたって／編集後記
●グラビア特集●　人生経験がつくるすばらしき舞台
―新しきファミリー〝わざわ座〟
わがチーム　若葉サッカークラブ／ビクトリー
表紙デザイン／山岡義典　表紙写真
／加藤純一郎　写真／及川知也

11 9 6 6　4 2
17 15 14 13
24 22 21 20 18
28 26
36 35 32 31 30 29

21 目次

'78.10-11　No. 2
発行・せんがわまちニティ情報センター

口絵写真　仙川と音楽
放里　もりしんいち
おまつりをしよう　仙川の街で音楽の　戸田育郎
せんがわまちニティカレンダー　10月～11月
わがまち・せんがわ―あなたが今せんがわで望むものは
●特集―仙川と音楽●
広大な緑の森や丘が生み出すパワー　間紀　徹
世界の街角に音楽がある　松尾　実
仙川・桐朋・音楽　生江義男
―佐々木孝一／寺尾研／阿部実／小沢基弘―
コラム　マイクへ一言／神代節／五十年代ジャズを聴こう
翔べ!!仙川っ子
〝街なかの公園〟を考える
千歳船橋の冒険遊び場
イラスト　学園めぐり　石黒みち子
●マップ21●　ファミリードクター　お持ちですか？
―医師20名のプロフィール紹介
仙川で健康を支える人びと（マップ）
治療、接客にあたって一言
―薬局店主、施療師から

12 9 8 6　4 2
15　19 16
20 24

21目次

'79.9-10　No. 5
発行・せんがわまちニティ情報センター

口絵写真　自転車はどこに置かれているか
〝自転車でまちニティ〟　三原佐知子
せんがわまちニティカレンダー　9月～10月
わがまち・せんがわ―あなたのふるさと賛
●特集―自転車交通を考える●
自転車と快適に共存する街づくり　山岡義典
仙川駅周辺の駐輪状況調査から　税田芳典他
明治末のサイク・レース　中西駿郎
□取材メモ
せんがわレポート　〝おまつり〟をめぐって　京町純彦
ずいひつ　自然と人間の共生　萩原祥三
翔べ!!仙川っ子　国際児童年に燃ゆ
●マップ21●　せんがわのヘアーデザイナーたち
―ご当地理髪店美容室一覧（マップ）
学園祭めぐり　神高祭／松苑祭他
くちコミまちコミ広場／仙川のベストセラー
せんがわショッピングモール

11 10 9 6 6　4 2
12　15 16 19 22 26 29 30

せんがわ・21目次

'79.4-5　No. 4
発行・せんがわまちニティ情報センター

口絵写真　せんがわ風　ポロ市春うらら
〝さー、いらはい、いらはい〟　吉田央舟
せんがわまちニティカレンダー　4月～5月
わがまち・せんがわ―春、あなたはリフレッシュ！
●特　集―〈新しき街・せんがわ〉を考える●
座談会―生活空間としての〝せんがわ〟
塚本幸恵／山田昌枝／前橋弘子／鈴木千賀子
コラム　ご町内かわらばん
せんがわレポート　実篤記念館をめぐって
新しき村美術館設立趣意
翔べ!!仙川っ子
Our Hour（あわあわ）　by Rey
●マップ21●　こんな塾あんな塾どんなじゅく？
適塾適所足マメにお捜し下さい（マップ）
コラム　鈴木秀彦／幡館卓哉／「たけだ」／緑川富美雄
くちコミまちコミ広場／仙川のベストセラー
せんがわショッピングモール／イラストマップ(1)
わこうどうのわこうどの足のむくおみせ　和光堂ゆりかご編集部
せんがわ界隈史　第四回
武蔵野探訪(1)　仙川から深大寺へ　春原一穂
公民館・図書館・高令者事業団だより
せんがわ私論・公論／伊藤　勉／京町純彦／山岡義典
●ライブインセンガワ●　津和のり子コンサート
私の愛した街　やまだじん
読者の広場／テーマノート
編集室から／編集後記
●グラビア特集●　せんがわてんぴょう
わがチーム　ボーイスカウト調布九団／サムライ
表紙デザイン／山岡義典　版下制作／小沢基弘＋遠藤励起
レイアウト／青野道子　イラスト／こやまきょうへい
カット／木山司津子　写真／加藤純一郎＋2

6 6　4 2
8　12 13 15 16 19 22 29 30 32 34 36 39 40 41 42 44

●バックナンバー●

せんがわ・21目次

'79.1-2　No. 3

発行・せんがわまニティ情報センター

□絵写真　せんがわの農業ーその担い手たち　都市の中の農業　萩原祥三　1
せんがわまちニティカレンダー　1月ー2月　2
わがまち・せんがわー79年　今年こそやってみたいこと　4
●特集ーせんがわの農業●　6
都市と出合う農業　山岡義典　6
せんがわ農業を担う人たち　8
思い出深き農家との交流の日々　新井八重子　11
仙川の農業について　川口三八　12
□資料編「せんがわ」の農業の歩み　15
Our Hour(あわあわ)　Ray&あきら　16
●マップ21●　せんがわ15景ー次の休日行ってみませんか　19
せんがわ15景レポート　佐々木孝一　19
これがせんがわのルーツだ!(マップ)　20
イラスト　三船プロダクション見て歩る記　こやまきょうへい　22
くちコミ・まちコミ広場／コラム　仙川のベストセラー　29
せんがわショッピングモール／スタンプ加盟店マップ　30
せんがわ界隈史　第三回　32
大正ー戦前の仙川生活点描　伊藤峰彦
公民館・図書館だより　東部公民館／緑ケ丘図書館　34
俳句　調布ブックラブ合同句会より　36
せんがわ私論・公論／せんがわまちニティ情報センター趣意(2)　38
読者のひろば　41
●資料室●　せんがわの〝足〟　京王線電車／小田急バス時刻表（改訂最新版）　42
編集室から／編集後記　44
●グラビア特集●〝せんがわ十五景〟
わがチーム　緑ケ丘幼稚園ボーリング同好会／フェニックス
表紙デザイン／山岡義典　版下制作／小沢基弘　写真／加藤純一郎＋楠正裕＋ー　レイアウト／青野道子　カット／栗田行雄＋木山司津子＋こやまきょうへい

せんがわ・21目次

'80.1-2　No. 6

発行・せんがわまニティ情報センター

□絵写真　せんがわてんぴょう　1
風土と循環する生活　柳　悦孝　2
せんがわまちニティカレンダー　1月ー2月　4
わがまち・せんがわー一九九〇年の私のせんがわ　6
●特集ー21世紀、仙川への旅●　6
仙川には各駅停車がよく似合う　遠藤励起　6
'80年代ー文化・若者・仙川　板内重人／永野昌枝　7
〈座談会〉セレクトできる町!!それはすてきだ　8
□夢想　吉田央舟／赤羽よし子／生江義男　12
せんがわレポート　仙川の商業ー今日から明日へ　安保忠昭　12
カーコからの手紙　にくみきれないあなたへ　15
翔べ!!仙川っ子　詩／すずきまゆみ＋えんどうゆき子　16
まきこのおはなしの世界／順子新聞21号
●マップ21●　仙川の生協・共同購入グループ　鈴木千賀子　19
町況・生協・商店街（マップ）
イラストマップ　パーティー宴会コンパ大集合　26
くちコミまちコミ広場／仙川のベストセラー　29
せんがわショッピングモール　30
せんがわ界隈史6　〝滝坂〟昔ばなし　川口三八　32
'80に翔ぶ女たち　パーッと楽しむ話／H　80年を怒りの年に／M　35
翔びたい主婦族へ棒げる「エプロン作家奮戦記」／三宅直子
育児戦争まっ只中／川路ひろみ
せんがわ私論・公論　戸田育郎／岩田朝雄　39
●ライブインセンガワ●　大森政秀・インタヴュー　40
〝ショーウインドのケーキでなく芋の煮っころがしの踊りを〟
目と耳と肌とーわりさや憂羅のフラメンコを観て　水面　乱　41
読者の広場　42
編集室から／編集後記　44
●グラビア特集●　遊びの中から創作の世界へ!
ーこやまきょうへいさんのアトリエを訪ねて
わがチーム　調布リトルリーグ／ポトス
表紙デザイン／山岡義典　レイアウト・版下制作／小沢基弘＋遠藤励起＋八木節桜＋岩田幹雄　写真／加藤純一郎

せんがわ・

せんがわ・

せんがわショッピングモール／スタンプ加盟店一覧　26
せんがわ界隈史　第二回　28
中野朗子さん半世紀を語る
公民館・図書館だより　東部公民館／若葉図書館
テレビ考　現代妖怪物語〝テレビくん〟　斉藤次男　30
コラム　仙川のベストセラー　32
くちコミ・まちコミ広場　せんがわまちニティ情報センター趣意　34
せんがわ私論・公論　創刊号へひと言　35
●読者のひろば●　36
編集室から／編集後記　40
●グラビア特集●　保育園のこどもたち
わがチーム　緑ケ丘ジャイアンツ／若葉小PTAバレーボール同好会
表紙デザイン／山岡義典　版下制作／小沢基弘　写真／楠正裕
レイアウト／青野道子　カット／こやまきょうへい
表紙モデル▼久保一恵さん（第22回ミス調布）

せんがわ・

せんがわ界隈史　第五回　32
武蔵野探訪(二)／仙川附近の草花の今昔　春原一穂
ファミリーれぽーと　山田昌枝&やまだじん　35
公民館・図書館・高令者事業団だより　36
せんがわ私論・公論　松本文夫／松村和江　39
●ライブインセンガワ●　第二弾／津和のり子・仙川に唄う　40
人形幻視行ー津和のり子に寄せる　石黒久晴　40
クロッキー会　秋吹く風にクロスオーバー　41
読者のひろば　42
編集室から／編集後記　44
●グラビア特集●　せんがわ鳥瞰
わがチーム　ポニーズ／入間商栄会ソフトボール会
表紙デザイン／山岡義典　版下制作／小沢基弘＋遠藤励起
レイアウト／青野道子　イラスト／こやまきょうへい
写真／加藤純一郎＋2

編集室から

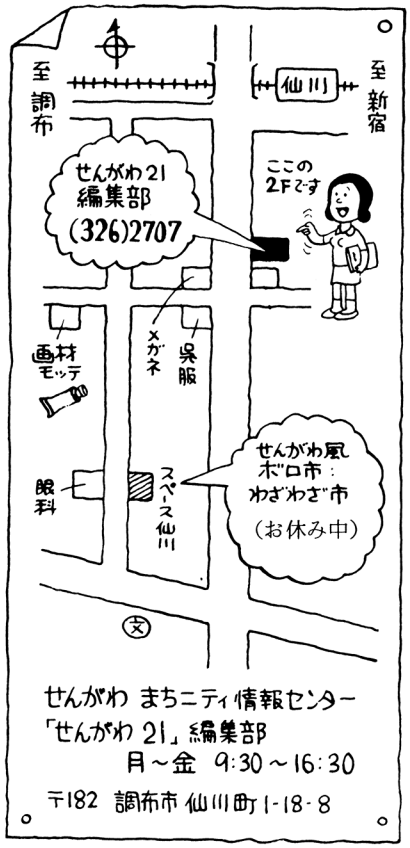
▽前号からはや一年、No.12・'85年冬号を'86年の新春にやっとお届けいたします。すでに言訳けも詮かたなしの、立派な不定期刊誌であり誠に恐縮の極みですが、〝オヤ出たか？　中身はサスガ!!〟の産直・手づくり誌第12号をご堪能下さい。

今号の当初の企画では『フォーカス』『フライデー』に対抗し、写真を主体にイメ・チェンしてみようとの予定でしたが、結果的には従来版＋グラビア特別企画の超豪華号になりました。しかも、写真点数がえらく多目のグラビア構成になり、本文中も含めて、写真カットは数知れず!!　仕上げてホッとしたのもつかの間で、印刷屋さんからの請求書が恐いという心境です。日頃、印刷コストを下げるため、写真は全て原寸焼きにしています。撮影のみならず、面倒な暗室作業をしていただいたカメラスタッフもおつかれ様でした。

▽本文48頁に創刊号から第6号までの、いわば本誌第Ⅰ期の総目次を掲載しました。何分アトランダム宅配が主であり、しかも一昔前のこと、何冊ぐらいご覧いただいておりますでしょうか？

そして、'83年の復刊からまた6号を数え、今、ひとつの節目を迎えています。『暮らしの手帖』が百号を単位に新世紀に入るのに比べて、何と遅々たる、ささやかな本誌の歩みでありますが、第12号をもって、本誌第Ⅱ期の掉尾（とうび）とします。

さて、「今　せんがわに　こだわり生きる」こととは。この仙川の街の〝現実〟と相拮抗るための、鮮明かつ魅力的なテーマと行動プログラムづくりに向け、一層のご教示・ご支援の程を!!



――せんがわまちニティ　情報センター　会計報告――

○賛助会費受領（一口5千円）

酒井一真　吉田央　大塚裕純　中村八郎
佐々木清子　青木史世　高橋辰久　榎本晃道　川口三八　木代修一　山岡義典
網中正　小嶋重春　青野友太郎▽計26口

○維持読者会費受領（一口千円）

辻井剛　宮内秀子　宮内俊信　調布フィルハーモニー管弦楽団　椎谷弘子　元木キサ子　中村澄恵　角田陽次郎　田中牧子　市原幸子　朝田茂　草地京子　新井澄子　川向登美子　鈴木哲夫　空橋因
千葉麻砂代　寺内三千代　中村満洲雄
永野昌枝　永野恵子　長沢えみ子　高橋まき子　神山真知子　広瀬恭三　広瀬とも子　幸野武夫　S・K　安藤光枝
安養寺　藤丸卓男　▽計43口

○カンパ誌代　7320円

○広告収入（第11号）　▽747千円

○合計　947320円

各位のご支援に厚くお礼いたします。

編集後記

▼……たかが雑誌、されど雑誌、夜なべ仕事でついにクリスマスイブ未明、お隣りさんに、サンタか？　自転車ドロ？　と見紛われ……。（青野道子）

▼毎度のことながら時間と競争。ゆく年、来る年、ついに追いつかれたか。次号からはせめて季刊を守りたいところ。（山岡義典）

▼今号の準備を始めてから半年、前号から一年。当初は隔月刊の意気込みだったとか。読者の皆様、あきれないで下さい。（加藤純一郎）

▼「山宣ひとり孤塁を守る」の例もあるが、もはやこれまでか……。御参加、御協力いただいたみなさん、遅れて遅れてほんとうに申しわけありませんでした。（木下　仁）

▼〝求められれば与えん〟との本誌の配布方針（!!）により、創刊～10号の保存用の在庫なし。身近かに余部があれば、是非ともご恵贈下さい。（青野友太郎）

▽編集協力―川口信子　大輪公壱　古田真弓　前橋弘子　佐々木清子　川原主計

せんがわ・21　第12号
発行日　昭和60年12月25日
定　価　無料（カンパ誌代100円）
発行部数　5000部
発行兼編集人　青野友太郎
製作及　せんがわまちニティ情報センター
発行所
調布市仙川1・18・8
〒182 ☎326・2707
タイプ　小梶雅子／写植　小林写植
印　刷　㈱葵印刷

トンカツ

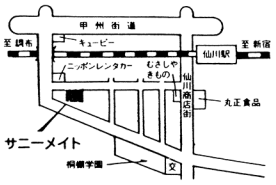
ささ本

仙川商店街　永楽信金前　☎ 300－2661

サンドイッチとお食事の店

グリル

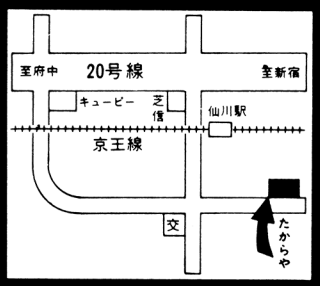
サニーメイト Sunny Mate



仙川町１丁目３番２号　☎ 326－0252

買入れと販売

たからや



◇営業時間AM10:00～PM９:00
調布市仙川町１-23-６　☎ 03-308-7170

かわいい子供服

いながわ　☎ 308－1931

ブティック

伊奈河　☎ 309－5454

いながわ

LOST REST 伊奈河

仙川商店街通り

手作りの味

自家製煮物漬物　新鮮塩乾物

アキヤマ

10:00～20:00 日曜定休　仙川商店中程　☎ 300－6803

パーティ予約受付中

ザ・ボウル・ガーデン

7時迄　ボトル原価

客席120席／　　カプリの奥　☎326－1315

おばちゃんの店でコーヒーを飲み夢を語ろう

喫茶＆スナック　　酒もあります

まり

10:00-24:00　商店街中央　日曜　☎309－6384

ゆであげスパゲティの店

スパゲティ＆ピザ

まほうつかいのでし

神代書店２Ｆ　☎309－4644

あなたの街の電気店

ヤナバ電気商会

若葉町２－24－19　　☎307－3182

カット＆パーマ　着付

おしゃれサロン　**真珠**

若葉町１－28－20　　☎309－2180

この地球が緑のユートピアになりますように。

ケーキの店　**ハックルベリー**

仙川町１－21－26　　☎307－1955

そば処

平野屋

桐朋学園前　　☎308－0115

おいしいコーヒー豆を売る店

コーヒー豆焙煎
卸・販売　**ブラウン珈琲**

10:00-21:00 年中無休

桐朋学園通り
☎307－5983

ミセスの装い・おしゃれのみせカスミ

Kasumi

仙川商店街中央　　☎300－6768

珈琲茶屋

11：00～8：00　桐朋学園前　☎309－3005

季節料理　魚貝料理

磯平

若葉町２丁目バス停横　☎326－9631

9：00～7：30　日曜，祝祭，午後休診

仙川獣医科病院

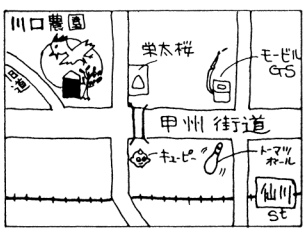
仙川町１－34－13　　☎300－4927

※営業時間／定休日／TEL番号

とんかつ鳥山

睦巳

世田谷区粕谷４－18－７　八間通り　☎300－6233



新鮮鶏卵・野菜――生産直売

仙川町２－４－１　☎300－8871

川口農園

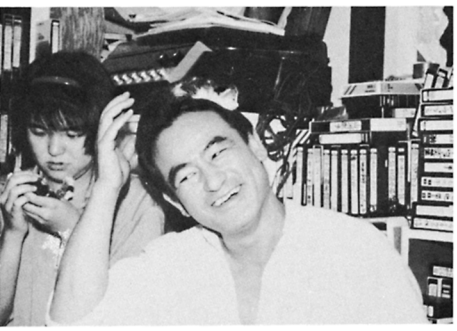
川谷拓三さん

せんがわの新しい仲間 拓ボンをよろしく！

春先に仙川に越してこられた「拓ボン」こと川谷拓三さん。昭和五〇年にテレビドラマ「前略おふくろ様」の仕事で京都から単身上京した時「この調子で仕事が続けば家が買えるなあ……」と漠然と思ったそうです。そして、一〇年。仙川町二丁目にある新居は周囲を畑と木々に囲まれ、とてもすてきなたたずまいを見せています。

しかし、拓三さんの話によると、この家は頭金もなしに買われたというから驚きです。この一〇年間の拓三さんの頑張りは社会的信用と人の輪をひろげ、家を買うに際しても「川谷さんほどの役者さんが借家暮しではいかん」とまわりの人が努力してくれ、中野の酒屋さんの二階から仙川の新居に移れたそうです。これも拓三さんのお人柄というもの……。

「おかげで今までの三〜四年分の仕事をしています」と、とにかくお忙しい。



この夏の話題作となった「ビルマの竪琴」上映中の松竹映画「薄化粧」、来春上映の武田鉄矢さんの主演映画「ＲＯＮＩＮ」と出演があいつぎ眠る時間もないようす。

そんなに出演されると、一作一作の役作りにこまるのではないかと心配してしまいますが、「悩んだ時はビデオ映画を見て何かヒントはないかと工夫したり、愛犬のブロンディーの動きをまねたりする」そうで、山のように積まれたビデオのわけも納得できるというもの。

下積み生活から数えて今年で役者生活二五年。一つの区切りというわけで、九月に奥さんの仁科克子さんが川谷家のうちあけ話ともいえる「もめん家族」（企画社、九八〇円）という本を出された。拓三さんいわく「ぼくの恥かき代としては安いですよ」。

趣味はラーメンの食べ歩きという拓三さん。おいしいラーメン屋をやることが夢だそうです。

（十二月　木下　仁）

◇グループ紹介

58年度（第５回）公立小，中学校ＰＴＡ対抗卓球大会において第三位に入賞!!!（入賞時の記念写真）

●滝坂小ＰＴＡ卓球部

＊メンバー　～敬称略

今村美保子	（教職員）
遠田美代子	柳橋　俊広
小沢　久子	大橋　秀三
重森　和子	大島　次男
高橋　良子	織田　一誠
田中　良子	小嶋　正美
田中　康子	塩沢　雅彦
富田　久枝	鈴木　隆司
長谷川永子	大嶽　純子
秦　悦子	宝田ミエ子
三上　正子	平野　典子
吉村真知子	牧　良江
（ＯＢ）	三輪　文子
倉田ミツエ	渡辺　幸子
南　英子	

＜連絡先＞
富田久枝　☎307－6386

滝坂小学校は、今年百十二歳を迎える長い歴史のある学校です。ＰＴＡの父母の中には、滝坂小出身の方が何人かいらっしゃいます。

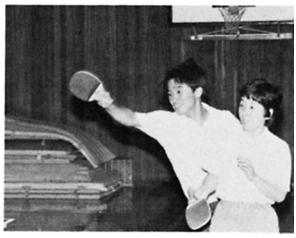
ＰＴＡサークルの一つ、卓球部が何年前から活動しているか昔のことは定かではありませんが、活動が活発になってきたのは、六、七年前からではないかと思います。調布市でも卓球人口が増え、市内の小、中学校のほとんどがＰＴＡのサークル活動として卓球を盛んに行なっています。ＰＴＡ連合会主催の大会も、六年前から、毎年三十校余りの小、中学校が参加し、盛大に行なわれます。

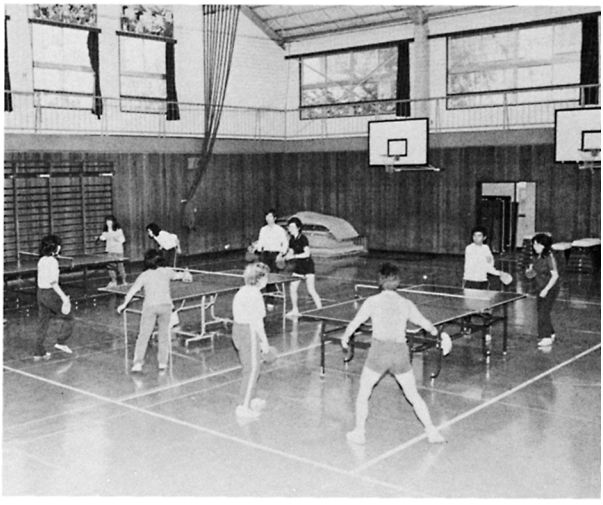
滝坂小も六回開催された中で、二回、三位に入賞しました（たまたま運が良かったのでしょう。その年のメンバーにもよるのですが……）。

現在、メンバーは約三十人ですが、ＰＴＡの集まりですから、健康のため、気分転換のため、技術向上のため、といろいろな思いで参加しています。若い人に負けじと頑張る!!おばあちゃま!!やＯＢの方、また最近は先生方の参加も多く、卓球熱も相当なもので、私達主婦は負けソー。

体育館に大きな笑い声が飛び交う程の和気あいあいムード。毎週火、金曜日の放課後、体育館でやっておりますので、一度覗きにいらして下さい。

（卓球部　記）





高い入学金に授業料、卒業しても食べて行ける保証は何一つない。これが今流行の有名無実の、そしてその数だけは膨大にある俳優養成学校の実態です。詩人会は中途半端で本物の少ない時代に、二十一世紀に向けて生き残る現代劇を創り出すべく実践しているグループです。

83年、太田英三作「麻布のリリー」で創設。84年、サンシャイン劇場にて太田英三作「小倉法師あだしの笛鈴日記」で芸術祭参加。85年、「麻布のリリー」高校公演と確実に歩み続けています。

要は実力です。詩人会では自己主張で自己満足しない質の高い表現力を得るために、主宰者の太田英三を

●演劇集団　詩人会

写真提供　詩人会

はじめ、宝塚の元娘役スター、沢かをりさん、薩摩琵琶の吉田央舟先生、日本舞踊の西川志津江さんなど幅広いプロフェッショナルの訓練を受けています。レッスンは週2～4回。スペース仙川では毎週火曜日12時～14時まで、沢かをりさんのダンスレッスンです。我と思わん人はどうぞ自由に参加して下さい。キャリアは問いません。毎日レッスン続けることの出来ることが、我々の望む本物の資質です。　（詩人会　記）

詳細は　☎３３７－２０１８
詩人会　溝口直人まで

の製造業

堅いもの

㈱萬平製作所

仙川町３－５－２　（307）1211

●プロフィール●

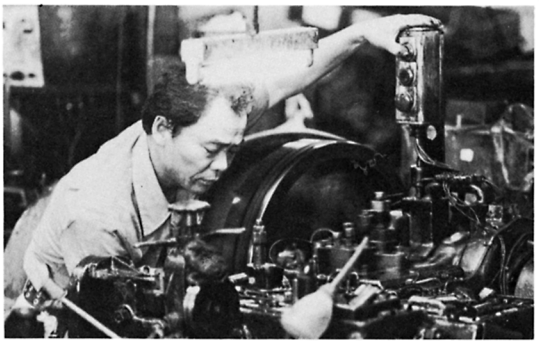
昭和12年に下高井戸で木ねじ製造を開始し、14年に仙川工場新設。18年に株式会社設立。業務は①ねじ製造販売、②鋲螺釘製作用機械工具の輸出入と販売。主製品の十字穴付ねじ及特殊ねじの生産能力は6.5億本、アメリカ、カナダ、オーストラリア等への輸出が約45％をしめる〝国際商品〟。最近は接着材の進歩で、ねじの使用量が減っている。従業員の半数が自転車通勤、まさに仙川の地元企業です。

ネジの素材

製造プロセス

実篤さんの書

半製品



計量から箱づめへ

最終製品

せんがわ

柔かいもの

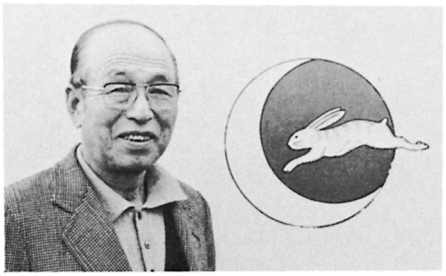
月兎ソース㈱

入間町１－35－11　（484）3322

●プロフィール●

昭和37年に脱農業を志ざし、杉並にあった老舗の〝月兎印〟を買収し、創業。昭和39年に株式会社へ。業務は、①ソース・ケチャップ・酢類の製造、主に学校給食・産業用に納品。調布市内の全小学校がＧＥＴＴＯの無添加ソースを使用中。②総合食品卸売。スーパーにある食品は全てそろっている。地元の方々の共同購入大いに歓迎しますとのこと。

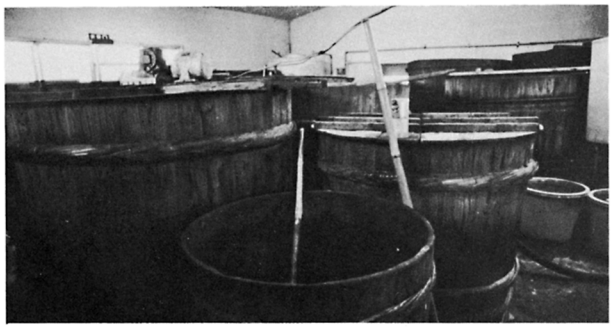
カメラ　丸井　潤



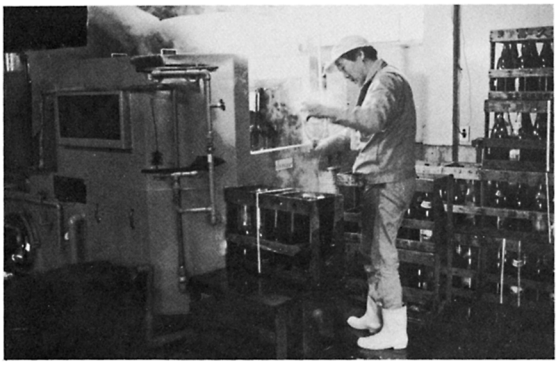
社長の清水一男さん

製造プロセス

びん洗い



一次貯蔵用木製タル



びんづめ

製品群

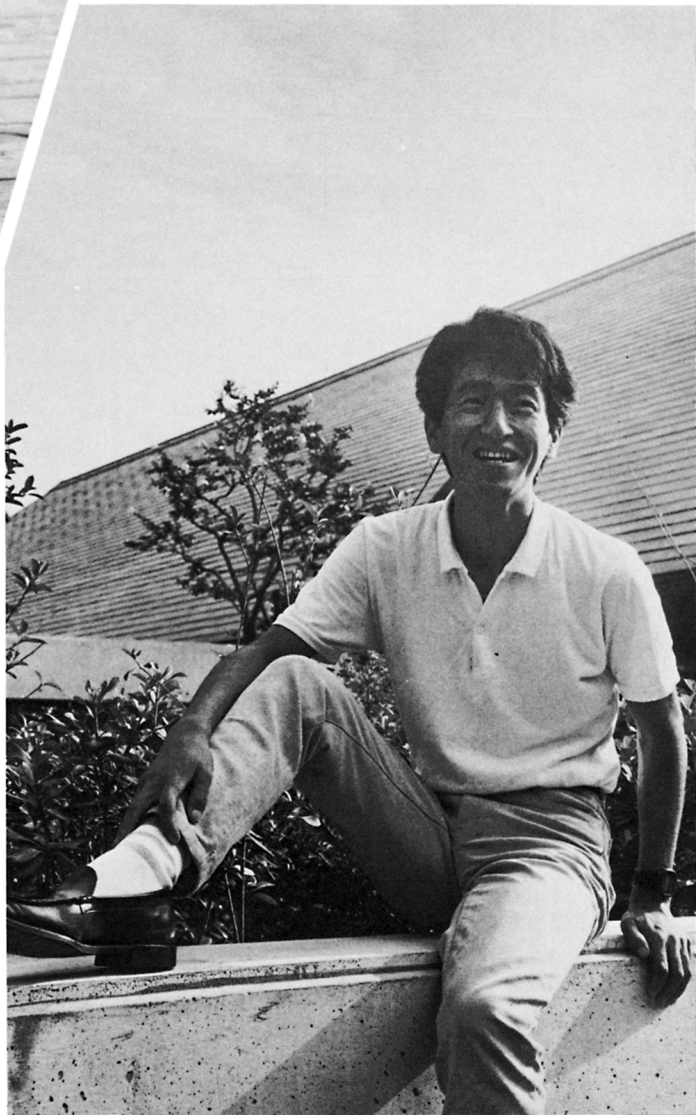
キラリ・パチリ　でっち上げ!?

仙川の美男美女

宮内千鶴子さん

血液型と星座／O型，双子座　好きなタレント／日野皓正　趣味／踊ること，芝居と映画を見ること　仙川で行きつけの店／「まほうつかいのでし」「かふえ・ど・れあ〜る」

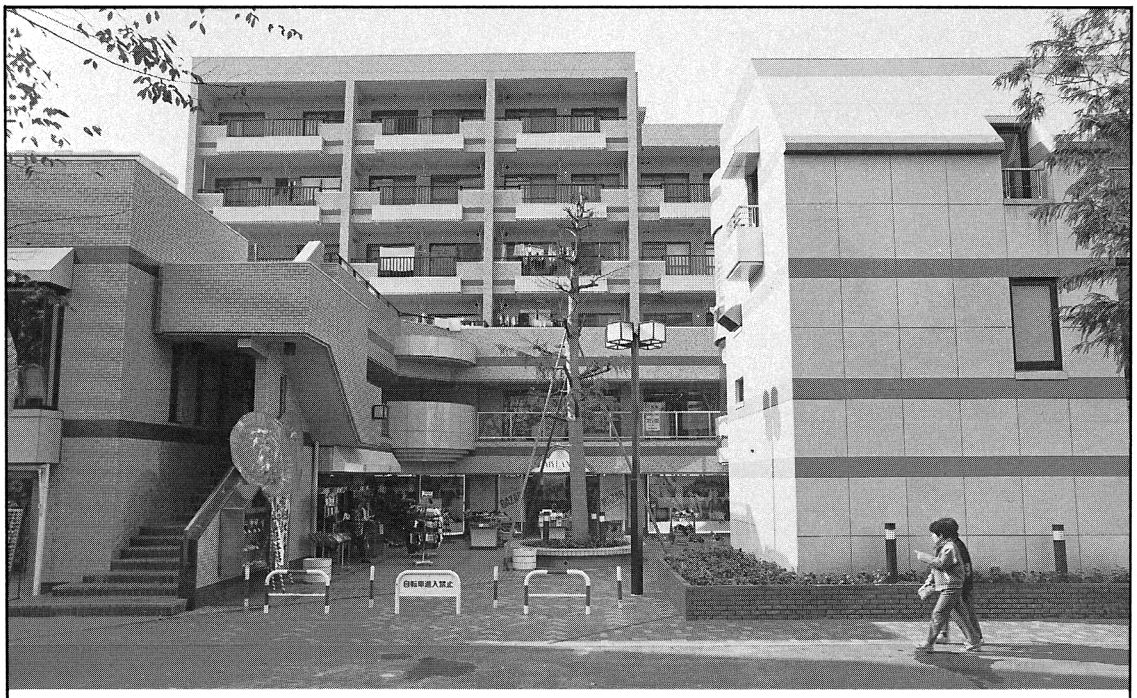
── エアロビックスとジャズダンスの講師をしながら，ミュージカルの舞台にも立つスポーツ万能派。そしてある時はモデルさん!!



後藤嘉宏さん

血液型と星座／O型，射手座　好きな作家／曹萬（中国の劇作家）　趣味とスポーツ／テニス，スキンダイビング　仙川で行きつけの店／「仙川ラーメン」　日本大学文理学部中国文学科学生。

── 得意の中国語を生かして中国帰国者の世話など，ボランティアにはげむ好青年!!

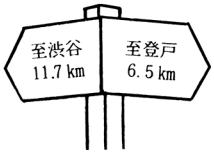


株式会社 グローバル設計

仙川作品ーその15　ぴぼっと仙川

調布市若葉町２丁目１番地１号　川原ビル
TEL　03（326）5935　（神代書店３階）

一級建築士　菅　哲生



〔昭和15年12月〕
山水学園（現桐朋）
の開学に合わせて
創業。45周年!!

書籍と文具　神代書店

桐朋学園前　☎300ー5633

せんがわ21　No.12　1985年冬
発行　せんがわまちニティ情報センター

せんがわ ギャラリー

「妙義山（雨）」

第六回大洋会展出品作品。氏の描く日本の風景には誰もが深い詩情とあたたかさを感ぜずにはいられないだろう。この作品は氏のふるさとに近い、初夏の妙義山を描いたものである。ふだんはめったに雲のかかることのない山腹を雨になると白雲がはしる。そうした自然の動きの中に、峨々たる山容をほこる妙義山を青を主体に表現している。

（油絵　F一〇〇号）

作者略歴　**小間　政男**

一九三一年群馬県に生まれる。多摩美術大学卒、小絲源太郎、井手宣通氏に師事。日展出品作「田植の頃」「漁港暮色」にて特選受賞など、日本の風景を中心に描く。八四年郷里富岡市にて個展。現在日展会友。日洋展運営委員。大洋会展常任委員。若葉町一丁目在住。